ブルキナファソ国
コモエ県における住民参加型
持続的森林管理計画
中間レビュー調査報告書

平成23年11月
（2011年）

独立行政法人 国際協力機構
地球環境部

環境
JR
11-201

ブルキナファソ国
コモエ県における住民参加型
持続的森林管理計画
中間レビュー調査報告書

平成23年11月
（2011年）

独立行政法人 国際協力機構
地球環境部

序　　文

国際協力機構は、ブルキナファソ国政府からの技術協力の要請を受け、平成 19 年 6 月から同国において「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画」プロジェクトを開始しました。

本プロジェクト開始後約 2 年半にあたり、当機構は本プロジェクトの進捗状況や現状を把握、評価し、同国のプロジェクト関係者や派遣専門家に対し適切な助言と指導を行うため、平成 22 年 1 月 10 日から同年 1 月 30 日まで当機構地球環境部森林・自然環境保全第二課長の遠藤浩昭を団長とする中間レビュー調査団を派遣しました。

調査団は、ブルキナファソ国側メンバーと構成した合同評価調査チームとして過去約 2 年半の投入実績、活動の達成度を確認し、ブルキナファソ国政府関係者との協議及びプロジェクトサイトでの現地調査を通してプロジェクトの運営や事業内容等に対して必要な提言を行いました。

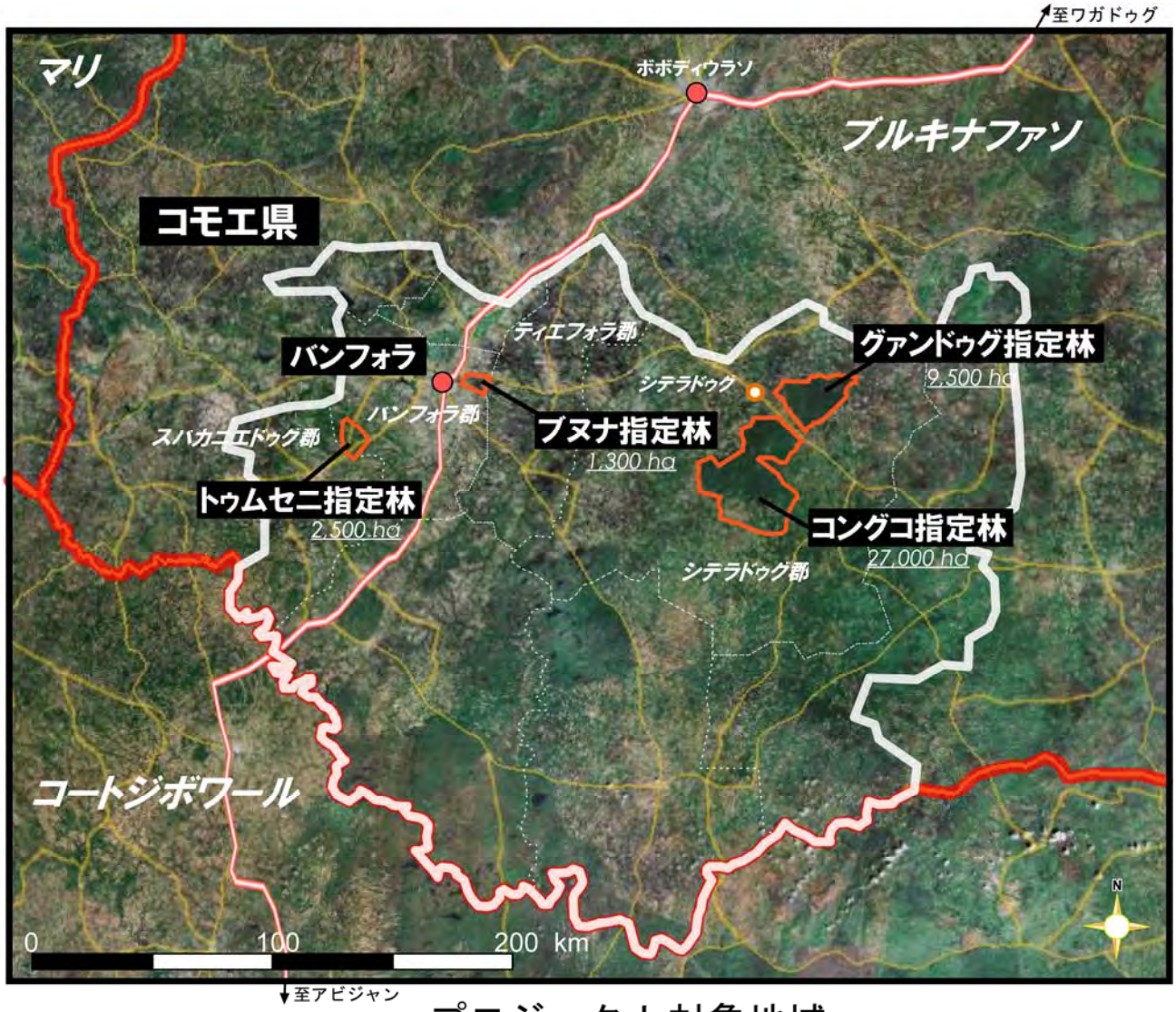
この報告書が本プロジェクトの今後の推進に役立つとともに、この技術協力が両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待します。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成 23 年 11 月

独立行政法人　国際協力機構
地球環境部部長　江島　真也

プロジェクト位置図



プロジェクト対象地域

写　　真

 GGF（森林管理住民組織）へヒアリング	 GGF によるシアバター生産活動
 GGF による植林サイト	 GGF による苗木生産活動
 郡森林官事務所	 GGF から薬用植物を買い取っている 連携先企業の視察
 GGF による果実販売の提携候補企業視察	 ミニッツ署名（中央：次官、右端：団長）

略語一覧

略　語	正式名称	和　名
APFNL	Agence de promotion des produits forestiers non ligneux	非木材林産物促進機関
ARSF	Antenne Régionales de Semences Forestière	地方森林種子局
CGCT	Code Général des Collectivités Territoriales	地方自治体一般法
CNAT	Commission Nationale d'Aménagement du Territoire	国土整備国家委員会
CNSF	Centre national de semences forestières	国立森林種子センター
CPAT	Commissions Provinciales d'Aménagement du Territoire	国土整備県委員会
CRAT	Commissions Régional d'Aménagement du Territoire	国土整備州委員会
CVD	Conseils Villageois de Développement	村落開発議会
CVGT	Commission Villageoise de Gestions des Terroirs	村落テロワール管理委員会
DAV	Délégué Administratif Villageois	村落行政責任者
DEP	Direction des études et de la planification	調査計画局
DFC	Direction de la faune et des chasses	野生動物狩猟局
DGACV	Direction générale de l'amélioration et du cadre de vie	生活環境改善総局
DGCN	Direction générale de conservation de la nature	自然保全総局
DGEF	Direction générale des eaux et forêts.	水森林総局
DiFor	Direction des forêts	森林局
DiGF	Direction du génie forestier	森林土木局
DPECV	Direction provinciale de l'environnement et du cadre de vie	環境生活環境県局
DRECV	Direction régionale de l'environnement et du cadre de vie	環境生活環境州局
DSES	Direction du suivi écologique et des statistiques	生態モニタリング統計局
ENEF	Ecole Nationale des Eaux et Forêts	国立水森林学校
FC	Foret Classée	指定林
FCFA	Francs Communauté Française de l'Afrique	フラン・セーファー（ブルキナファソ国通貨）
GGF	Groupement de Gestion Forestiére	森林管理住民組織
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale	独立行政法人国際協力機構
LPDRD	Lettre de Politique de Développement Rural Décentralisé	地方分権型農村開発政策文書
MAHRH	Ministère de l'Agriculture, de l'Hydraulique et des Ressources Halieutiques	農業・水利・水産資源省
MECV	Ministère de l'Environnement et du Cadre de Vie	環境・生活環境省

略　語	正式名称	和　名
NTFP	Non Timber Forest Products	非木材林産物
OFINAP	Office national des aires protégées	国家保護区事務局
PAG	Plan d'Am'enagement et de Gestion	森林整備事業計画
PANA	Programme d'Action National d'Adaptation à la variabilité et aux Changements Climatiques	気候変動適応国家行動計画
PANE	Plan d'Action National pour l'Environnement	国家環境行動計画
PDA/ECV	Programme Décennal d'Action du secteur de l'Environnement et du Cadre de Vie	環境・生活環境セクター10ヵ年行動計画
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PFN	Politique Forestière Nationale	国家森林政策
PNE	Politique Nationale en matière d'Environnement	国家環境政策
PNGT2	Programme Nationale de Gestion de Terroirs - phase-II	テロワール管理国家プログラム第2フェーズ
PO	Plan of Operations	活動計画
PRIJD	Plan de Réforme Institutionnelle et Juridique pour la Décentralisation dans le Secteur Forestier	森林セクターにおける地方分権化のための制度的･法的改革計画
PROGEPAF/Co	Projet de Gestion Participative et durable des Forêts dans la Province de la Comoé	コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画
PRONAGREF	Programme National de Gestion durable des Ressources Forestières et Fauniques : 2006-2015	森林資源･野生動物資源持続的管理国家プログラム
PROTECV	Programme Triennal du secteur de l'Environnement et du Cadre de Vie	環境･生活環境セクター3ヵ年計画
PRSP	Poverty Reduction Strategic Paper	貧困削減戦略文書
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SDECV	Service départemental de l'environnement et du cadre de vie	環境生活環境郡局
SDR	Strategie de Développement Rural à l'holizon 2015	農村開発戦略
SP/CONEDD	Secrétariat permanent du conseil national pour l'environnement et le développement durable	環境･持続的開発のための国家評議会常設事務局
UGGF	Union des Groupement de Gestion Forestiére	森林管理住民組織連合
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UPC	Unité de protection et de conservation	保護･保全ユニット

評価調査結果要約表

<table>
<tr><td colspan="3">１.案件の概要</td></tr>
<tr><td colspan="2">国名：ブルキナファソ</td><td>案件名：コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">分野：自然環境保全</td><td>援助形態：技術協力プロジェクト</td></tr>
<tr><td colspan="2">所轄部署 : 地球環境部 森林･自然環境グループ森林・自然環境保全第二課</td><td>協力金額（評価時点）: 3.8 億円</td></tr>
<tr><td rowspan="3">協力期間</td><td rowspan="3">2007 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日（5 年間）
（R/D 締結日：2007 年 6 月 7 日）</td><td>先方関係機関：
環境・生活環境省（MECV）森林局（DiFor）</td></tr>
<tr><td>日本側協力機関：農林水産省　林野庁</td></tr>
<tr><td>他の関連協力：開発調査「コモエ県森林管理計画調査（2002-2005）」</td></tr>
</table>

1-1　協力の背景と概要

ブルキナファソ国（以下「ブ」国）は、サヘル地帯に属していることから、今日、気候変動を主たる理由とする幾つかの問題による砂漠化に直面している。これに加えて急激な人口の増加、農耕可能な放牧地を求めて北部から南部及び西部に向けての人口の移動、移動焼畑農業、過度の放牧、森林面積の減少（110,500 ヘクタール／年）が挙げられる。

このような状況に鑑み、「ブ」国政府は国家森林政策（PFN）を 1995 年に策定した。この政策実施のために環境・生活環境省（以下、「MECV」）は 1996 年に国家森林整備プログラム（PNAF）及び森林資源管理を規制する幾つかの法を制定した。

以上の状況を背景として、「ブ」国政府の要請に応え、JICA は 2002 年 8 月から 2005 年 6 月にかけてコモエ県における指定林の参加型管理のための開発調査を実施した。この調査の対象ゾーンはブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ、ディダの指定林であった。この調査により、これらの指定林のための参加型管理プラン遂行のための方向性とアプローチが示された。

この開発調査の結果から、「ブ」国政府は指定林における森林資源を持続可能な参加型管理を目指した技術協力の新しい要請を日本国に対して行った。

この要請に応えて、コモエ県における森林の持続可能な参加型管理プロジェクト（PROGEPAF/Comoé）が日本の協力によるプロジェクトが砂漠化の顕著な「ブ」国において実施されることとなった。

1-2　協力内容

（1）　上位目標

南スーダン気候帯において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される。

（2）　プロジェクト目標

対象となる 4 つの指定林(ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ)において、森林管理住民組織(GGF)及び森林管理住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる。

（3）　成果

1）　住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。

2）　対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。

3）　地域住民の生活状況が改善される。

4）　対象とする 4 つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。

5）　持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。

（4）　投入（2009 年 12 月 31 日）（1 FCFA=約 0.2 円）

日本側：

専門家派遣	6 名	機材供与	55,667,456 FCFA
本邦研修員受入	3 名	ローカルコスト（研修、事務、調査費等）	229,729,370 FCFA

相手国側：

カウンターパート配置　30 名　支援要員　4 名

ローカルコスト（人件費、運営費、作業費等）　67,740,000 FCFA

土地・施設としてカスカード州局事務所一部が提供された。

2.評価調査団の概要		
調査者	（担当分野：氏名、職位） 総括　遠藤　浩昭　地球環境部 森林･自然環境保全第二課　課長 協力計画　岸田　匡　地球環境部 森林･自然環境保全第二課 評価・分析　西村　邦雄　ICONS 国際協力株式会社 通訳　関田　眞理子	
調査期間	2010 年 1 月 10 日-2010 年 1 月 30 日	評価種類 : 中間レビュー評価

3.評価結果の概要

3-1 実績の確認

以下、PDM のアウトプットの指標に対する実績について記述する。

（1）　<u>アウトプット 1 : 住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。</u>

1)　中央レベル

中央レベルで研修が 4 回（『自己能力分析・ファシリテーション能力』、『参加とは』、『PAG』、『モニタリング・評価』）実施された。

2)　地方レベル

地方レベルで研修が 7 回（『自己能力分析・ファシリテーション能力』、『参加とは』、『PCM』、『組織能力強化-記録と会計』、『PAG』、『モニタリング・評価』、『事務所整備』）実施された。

その結果、森林官のプロジェクトに対する理解が深まり、対象地域の森林官事務所における執務環境が整備された。地域関係者との協働については、研修を受けた森林官が森林管理技術研修の講師として GGF に対して既に研修を実施している。また、コミューンにおける苗木の生産や植林活動を指導する森林官を支援する予定である。

(2) アウトプット 2：対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。

14GGF が新規設置され、既存の 13GGF の事務局の役員が改選され森林管理活動を開始している。GGF では苗木生産（5GGF）、植林（7GGF）、防火線開設（3GGF）、所得創出活動が開始された。また、プロジェクト支援によってブヌナとトゥムセニの UGGF の活動が再活性化された。

(3) アウトプット 3：地域住民の生活状況が改善される。

3.1) 対象指定林関連の一部 GGF が木材（木炭生産 GGF 数：3）及び非木材林産物（シアバター生産 GGF 数：11、蜂蜜生産 GGF 数：7、薬用植物採取 GGF 数：8（男女別）、スンバラ生産 GGF 数：7）を活用した所得創出活動を開始した。

3.2) 12GGF が養蜂箱及び原料種子購入に再投資をした。

(4) アウトプット 4：対象とする 4 つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。

4.1) PAG 立案のためにプロジェクトは以下の事業を実施した。

－森林野生動物の生息ゾーン調査を含む 4 指定林の森林インベントリ
－林産物生産ゾーン及び開発者に関する調査
－指定林周辺住民による非木材林産物の活用に関する調査
－バンフォラにおける木材市場に関する情報の収集

対象指定林毎の 4 つの PAG の策定スケジュールは作成している。第 3 年次に PAG ドラフトを策定する予定である。

4.2) これまでに収集した資料を基に、第 3 年次に南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドドラフトを作成予定である。

4.3) これまでの研修で作成したマニュアルを基にして苗木生産、植林、伐採、野火管理、放牧管理、高品質シアバター生産、近代養蜂、薬用植物活用に関するマニュアルドラフトを第 3 年次以降に作成予定である。

4.4) PAG 策定前ではあるが、研修を実施した GGF の一部は苗木生産、植林、野火管理、高品質シアバター生産、近代養蜂、薬用植物活用活動を既に開始した。

(5) アウトプット 5：持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。

5.1) プロジェクト開始後の 2 年 6 ヶ月間に JCC 及び地域関係者セミナーをそれぞれ 3 回ずつ、計 6 回開催しており、2009 年は JCC を 2 回、地域関係者セミナーを 1 回開催した。

5.2) 2010 年 1 月、本プロジェクトとカスカード州局との間で提携協定を締結予定である。

5.3) 民間企業との連携として薬用植物活用で実績のある Phytofla 社（バンフォラ）と研修を受けた GGF が採取した薬用植物を買取ることで連携した。また、樹実活用で実績のある BombaTechno 社（バンフォラ）との連携も予定している。

3-2 評価結果の要約

（1） 妥当性：総合的に判断すると、「ブ」国政府の政策、我が国の援助方針及び対象地域のニーズ等と整合性があり、妥当性は高いと判断される。

「ブ」国では国家森林政策や森林整備国家プログラムを策定し、GGF を通じた指定林整備を進めている。また、今後は非木材林産物など多様化した林産物を活用することも求められている。こうしたことから、本プロジェクトの目標は現在でも「ブ」国、カスカード州及びターゲットグループの地域住民のニーズと合致していると判断できる。以上により本プロジェクトと「ブ」国の国家政策との整合性は高い。また、日本政府は TICADIV においてアフリカ諸国に対する気候変動対策への支援強化を打ち出しており、日本の ODA 政策との整合性も高い。

指定林は地域住民の生活基盤であり、GGF/UGGF を通じた持続的に森林管理を行うことを目指すのは適切なアプローチといえる。また、持続的森林管理を行うために各 4 指定林と村落住民の状況に応じた PAG を策定することは地域住民の生活を守りつつ森林保全を図るということから妥当である。以上より総合的に判断するとプロジェクトは現在でも妥当性が高い。

（2） 有効性：総合的に判断すると、全てのアウトプットはプロジェクト目標の達成に貢献するものと考えられる。

現在までに新規設置あるいは再活性化された GGF の大半において研修を実施した結果、森林管理活動、及び生計向上に資する活動が既に実施されている。研修を受けた森林官と地域住民との信頼関係は深くなりつつあり、また、PAG 策定に必要な森林資源などの基礎情報の収集も行われている。これらにより地域住民による持続的森林管理が行われるための下地は出来つつある。このように各アウトプットはプロジェクト目標の達成に貢献しており、プロジェクト終了時までにはプロジェクト目標が達成されることが見込まれる。

アウトプットに至る外部条件に関しては現時点では抵触するような事態は発生していない。ただし、外部条件「対象 4 指定林の PAG がブ国政府により承認される」については、PAG が法で定められた承認のための委員会（国土整備県委員会（CRAT）、国土整備州委員会（CPAT）、国土整備国家委員会（CNAT））に承認されるためには長い手続を経る必要があり、これまでに承認された PAG の前例も未だない。よって、プロジェクト期間内にどの程度まで承認手続きを進めることが出来るか不明である。

（3） 効率性：総合的に判断すると、「ブ」国側及び日本側の全投入はアウトプットの産出に貢献しているが、「ブ」国側の C/P 予算の減額及び執行の遅れは今後のアウトプットの産出に影響するものと考えられる。

「ブ」国・日本側双方の投入は、タイミング、質、量の面で全体的には適切であったと判断でき、アウトプットの産出に貢献している。日本側の投入については、第 2 回 JCC の後に森林行政とより一層の連携の強化を図る目的で予算が上向きに見直され、ア

ウトプット達成のために日本側の予算が増加した。一方、「ブ」国の毎年の C/P 予算執行の遅れがアウトプット産出にマイナスの影響を及ぼす可能性がある。

(4)　インパクト：総合的に判断すると、GGF が自主的に所得創出活動を行うようになり、また研修を受けた森林官の勤務態度の改善などが期待される。

1)　正のインパクト

・農民と牧畜民との関係改善

本プロジェクトにおいて実施したバンフォラ、スバカのコミューン村での放牧管理研修の結果、放牧民の GGF への加入が増加し、GGF 会員を含む農民と放牧民との間の係争が減少した。

・村落組織の能力エンパワーメント

本プロジェクトで実施した GGF に対する組織能力強化は森林管理につがっている。他方、GGF の活動に参加した GGF の村全体の能力向上につながっている。例えば、GGF の女性が村の会合における発言力をもってきている。このように能力向上はジェンダー面でもプラスのインパクトを生じている。

・地域住民と森林官との関係改善

森林官と地域住民の関係は、プロジェクトの開始によってより近い関係になった。すなわち、地域住民は森林官に対してよい印象を持つようになった。

2)　負のインパクト

現時点では特に見られない

3)　上位目標レベルへの達成見込み

現時点で上位目標レベルの達成見込みへ言及するのは時期尚早であるが、プロジェクト目標が達成された後、プロジェクト終了後も少なくともプロジェクト対象の指定林ではプロジェクトで導入された活動の幾つかが継続的に実施される可能性はある。しかし、「南スーダン気候帯においては」は広範囲すぎるため、対象範囲の明確化が必要である。

(5)　自立発展性：総合的に判断すると、GGF/UGGF は自主的に所得創出活動を行うだろうが、住民参加型持続的森林管理を継続するためには今後も「ブ」国の予算措置が必要である。

1)　制度的・組織的側面

「ブ」国では砂漠化、森林減少が課題であるため、PAG の規定に基づいて GGF/UGGF に責任を持たせて指定林管理を行うという「ブ」国政府の基本政策は継続されると考えられる。

本プロジェクトの成果を持続させ、発展させていくためには森林官の住民参加型アプローチに関する能力向上を継続していくことが必要である。

2)　財政的側面

「ブ」国側負担のカウンターパート予算執行の遅れや予算減額を勘案すると、協力期間後に「ブ」国側がプロジェクト成果の持続性を確保するために必要な予算を「ブ」国は確保すべきである。

3)　技術的側面

森林官は必要な関連技術を活用・普及する能力を持っている。GGF が自立的に経済活

動を促進していくために森林官による側面支援が必要である。また、地域の民間企業を含む関係機関との関係構築も GGF の活動を継続していく上で必要である。プロジェクトで教えられた新しい森林管理技術は地域の有用技術を最大限に活用しており、カウンターパート及び GGF に受け入れられている。活動が進むにつれてカウンターパートや GGF の学ぶ意欲も向上してきており、習得したことを既に実践に移している。この点でも技術面の自立発展性が確保できる可能性が高い。

3-3 効果発現に貢献した要因

（1） 計画内容に関すること

本プロジェクトはコモエ県における開発調査の経験を基に実施されており、「ブ」国の国家森林政策等に整合し、対象地域住民のニーズに合致している。経験豊富な日本人短期専門家が適宜派遣されており、各専門分野の知識や経験が様々な活動において十分発揮されている。また、各研修実施後はフォローアップ研修を行なって GGF メンバーに研修内容が十分根付くよう、研修計画が立てられている。

（2） 実施プロセスに関すること

当初にあった「ブ」国側の JICA 技術協力プロジェクトへの不理解を解消させつつ、JCC 開催時には関連機関／関係者を招集して多くの関係機関職員間でプロジェクトの実施方針や進捗状況を確認して情報を共有している。さらに日本人専門家は直接地域住民と接して地域住民のニーズを汲み取る努力を日々重ねており、その姿勢が GGF メンバーに理解されつつある。これまで GGF に対し多くの研修を実施したことにより、所得創造を図る GGF が一部出てきている。また、森林官がプロジェクト活動に一層主体的に参加するようになってきた。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

（1） 計画内容に関すること

・ 「ブ」国側と日本側の JICA が実施する技術協力プロジェクトに対する認識が異なったため、プロジェクト開始時からその認識のギャップを埋めるのに時間を要した。

・ R/D により「ブ」国側は C/P 予算として年間 5,000 万 FCFA を拠出することとなっていたが、初年度は出されず、2 年次と 3 年次は予算が減額され、その執行が遅れた。

（2） 実施プロセスに関すること

・ 研修を受けた地方森林官が頻繁に異動すること。

・ 指定林の一部において違法な金の採掘がなされ、また強盗の発生により治安状況の悪化があったことによって一部地域でのプロジェクト活動が制限されている。

3-5 結論

本プロジェクトの目標は「ブ」国の森林資源政策や日本の援助政策とも整合性がとれており、現在も妥当性が高い。プロジェクト開始当初は本プロジェクトに対する「ブ」国側（森林機関、地域住民）と日本側双方の認識の違いから、活動の進捗に遅延が見られた。しかし、その後の双方の努力により現在は改善されつつあり、少し遅れている 4 指定林における PAG 策定を除き概ね計画通りに順調に活動が進んでいる。この最後の活動については、2010 年

に森林行政機関とプロジェクトチームにより既に処置が取られ、2010 年に開始が予想される。また、カウンターパート予算は、初年（2007 年）は確保されなかった。2 年次からは「ブ」国側の努力によりある程度までは確保された。しかしながらプロジェクト目標達成のためにもより多くの努力は続けられなければならない。これまでに、プロジェクトを通して森林行政官の持続的住民参加型森林管理に関する能力が向上してきており、GGF による森林活動も開始されている。また、森林行政機関と地域関係機関との協力関係も深まりつつある。これらを踏まえると、PAG が遅滞なく策定され、かつ地域住民に現在見られるような高い関心が維持されるのであれば、プロジェクト目標達成の見込みは高い。

3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

（1） 「ブ」国には PAG の承認のために法で定められた異なったレベルの委員会がある。

- 国土整備県委員会（CPAT）
- 国土整備州委員会（CRAT）
- 国土整備国家委員会（CNAT）

このような機関での承認プロセスに時間を要することに鑑み、プロジェクトは 4 指定林の PAG の承認について、CPAT のレベルの承認まで支援する予定である。その後のステップについては「ブ」国側が森林局を通して最終的承認まで取る必要がある。

（2） 一定の森林整備事業を進めるため、プロジェクトを規定した R/D に従った金額のカウンターパート予算の適時の執行が必要である。

（3） 現況に合わせ、2009 年に採択された PDM(ver2)に関して以下の点について修正が必要である。

3.1) プロジェクト終了後 3 年での実現を考慮し、また上位目標への道筋を一層明確にするため、「南スーダン気候帯において」を「4 指定林」と変更する。そのために、残される指標は 2 番目（「対象 4 指定林においてプロジェクトで導入された活動が、策定された森林整備事業計画に則って GGF/UGGF により持続的に実施される。」）とする。

3.2) プロジェクト対象地域内において非安全状態（武装強盗、金違法採掘）が生じているため、アウトプットの外部条件の一つとして地域内の安全条件を入れる必要がある。

3.3) 指定林では住民参加型森林管理を実施する政策が強く推進されており、速やかな実施を優先する必要がある。他方、PAG の承認には多岐にわたるステップがあり長期の時間を要するため、アウトプットの外部条件にある「PAG の承認」をプロジェクト目標の外部条件に移動する。

（4） プロジェクト成果の効率的な定着のため、カウンターパート森林官の配置転換について特別な配慮が必要である。

（5） 森林行政機関がプロジェクト成果を一層活用できるようにするため、プロジェクトは燃料費と潤滑油費をカウンターパート予算に資金的補完することでプロジェクト活動のモニタリング評価への森林官の参画へ促すことが必要である。そのための手順は今後、双方により定義されることとなる。

(6)　森林資源保全のために 4 指定林周辺のコミューン参加をより強化するため、森林行政機関は自らの能力強化することが必要である。

(7)　2010 年中に PAG の作成が開始される予定である。プロジェクト終了前に GGF が森林整備作業を習得するために、4 指定林における整備事業を強化する必要がある。このため、カウンターパート予算を補完するためのプロジェクトによる追加的資金投入が必要である。

(8)　「ブ」国側は、GGF に対する研修については十分な回数が実施されているものの、供与される資機材が不足していると認識している。機材に対するニーズの確認が十分でなく、そのため、プロジェクトによる供与機材の内容は、プロジェクト終了時に GGF による活動の持続性を担保するために必要なレベルにも達していないと認識している。したがって「ブ」国側は、妥当性が低いと考えられるいくつかの研修を止めて、機材供与に変更することを要望した。

　この点につき日本側は、供与機材の追加は、受益者である GGF の自立発展性および自主的な投資に対する阻害要因となることが懸念されるため、慎重に検討する必要があると考える。また、GGF のニーズについては、2002-2005 年に実施された開発調査「コモエ県森林管理計画調査」の調査結果に基づいたものである。また本プロジェクトでは、地域住民の真のニーズを発掘するために、地域住民との直接的かつ定期的なコミュニケーションからニーズを把握するという方法をとっており、今後も継続する予定である。

　この点について、双方は合意に達しなかったため、次回 JCC までに引き続き検討するべきである。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

　プロジェクト開始前の R/D 署名時には JICA が実施する技術協力プロジェクトの理念や進め方について十分説明する必要がある。

プロジェクト期間中、研修を受けた C/P は可能な限り異動をしないように C/P 機関に依頼する必要がある。

3-8 PDM の変更

　本プロジェクトの PDM は、第 3 回 JCC（2009 年 7 月 17 日）において一度改訂された。この変更に係る基本的な考え方は、プロジェクト活動に対する先方政府の主体的関与をより発揮させるため、実施上の手法を変更することであるが、PDM の大きな変更ではない。具体的な変更点は以下のとおり。また、各指標はより具体的に変更された。

1)　森林行政官の能力向上に係る具体的活動の更なる充実化のため、以下を導入した。

・中央・地方レベルの森林行政官によるモニタリング活動（PDM 活動 1-5 の新規追加の活動）

2)　森林整備事業計画の策定と実施に係る活動の一部をプロジェクトで支援する。

・コミューンによる植林活動（PDM 活動 5-3 の新規追加の活動）

目　　次

序文
プロジェクト位置図
写真
略語一覧
評価調査結果要約表

第 1 章　中間レビュー調査の概要 1
1-1　中間レビュー調査団派遣の経緯と目的 1
1-2　調査団の構成 2
1-3　調査期間 2
1-4　主要面談者 2
1-5　プロジェクト概要 3
第 2 章　評価方法 6
2-1　データ収集方法 6
2-2 分析項目 6
2-2-1　プロジェクトの実績 6
2-2-2 プロジェクトの実施プロセス 6
2-2-3 評価 5 項目 6
第 3 章　プロジェクトの実績 8
3-1　投入実績 8
3-2　活動の進捗状況 9
3-3　アウトプットの達成状況 16
3-4　プロジェクト目標の達成状況 18
3-5　活動プロセスの検証 19
3-5-1　PDM の変更 19
3-5-2　プロジェクト管理 19
3-5-3　プロジェクト内コミュニケーション 20
3-5-4　関連機関との連携 20
3-5-5　実施プロセスに影響したその他の要因 20
第 4 章　評価 5 項目による評価結果 22
4-1　妥当性 22
4-2　有効性 22
4-3　効率性 23
4-4　インパクト 23
4-5　自立発展性の見通し 23
第 5 章　結論 25
第 6 章　提言 26

添付資料

1　署名 M/M 和訳 31
　添付：中間評価レポート和文
　　- 本文
　　- 別添：　同上
2　仏文署名 M/M 93
　添付：中間評価レポート
　　- 本文
　　- 別添：　1 PDM
　PO 及び活動実績表
　プロジェクトの実績
　人員投入実績
　機材投入実績
　プロジェクト実施体制及び終了後体制
　PAG 策定スケジュール
　実施プロセス
　PDM 指標の活動実績達成度

第 1 章　中間レビュー調査の概要

1-1　中間レビュー調査団派遣の経緯と目的

ブルキナファソ国（以下「ブ」国）は、国土の北部がサヘル地域に属しており、深刻な砂漠化が進んでいるとともに、人口の増加、焼畑移動耕作、無計画な伐採等により森林面積が減少している。比較的森林資源が豊かとされていた南部地域においても、北部からの移住、薪炭材採取、耕作、過放牧、森林火災等の圧力により、森林は著しく劣化、或いは消失し、森林らしい様相を呈しているのは指定林のみである。森林面積の減少とともに砂漠化が北部から南部に拡大し、食料供給の不安定化をもたらしている。この問題に対処するため、「ブ」国政府は「国家森林政策（PFN）」(1995 年）を策定し、自然資源を持続的に活用して、雇用の創出や収入の安定も図りつつ、持続的に森林の保全・管理を目指す政策を推進している。そのため、環境・生活環境省は、PFN に基づき「森林整備国家計画（PNAF）」（1996 年）及び「森林法」（1997 年）を策定し、地域住民による持続可能な森林管理に関する目標を定め、その実施を図っている。しかし、中央政府主導による計画は資金及び実施体制の問題から困難に直面しており、加えて「ブ」国における地方分権化の推進に伴い、地方レベルでの森林管理に関する計画の策定・実施も急務となっている。

このような背景のもと、JICA は「ブ」国政府の要請を受け、開発調査「コモエ県森林管理計画調査」（2002 年 8 月～2005 年 6 月）を実施し、コモエ県内の 5 指定林について住民参加型の森林管理計画の策定の方向性とアプローチを提示した。

しかしながら森林局は、住民参加型による森林の管理手法、森林以外の地域における農業・農産物加工等の他セクターも包含した総合的な事業を独力で実施する知見とノウハウに乏しいこと、比較的豊かな森林が残されているコモエ県では非木材林産物（NTFP）を活用した持続的な森林管理が期待されているがその経験を有していないこと、また対象指定林は「ブ」国に残存する稀少な森林資源として保全する重要性が高いことから、「ブ」国政府は我が国政府に対し、上記開発調査で方向性が提示された住民参加型による持続的な森林管理を推進するための技術協力プロジェクトを要請した。

この要請に基づき、森林管理住民組織（GGF）及び森林管理住民組織組合（UGGF）を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになることを目的として、本技術協力プロジェクト「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画」を 2007 年 7 月から 2012 年 6 月までの 5 年間の予定で実施中である。具体的には、住民参加による持続的な森林管理のための中央・地方の森林行政機関の支援能力の向上、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力の向上、地域住民の生活状況の改善、森林整備事業計画（PAG）の策定と開始、地方行政機関及び関係する国の出先機関と森林行政機関との協力関係の構築に係る支援を行っている。

本調査では、5 年間の協力期間の中間地点にある本プロジェクトについて、PDM 及び活動計画（PO）に基づき、プロジェクトの投入実績、活動実績、計画達成度を調査・確認し、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から、ブルキナファソ側関係者とともに、プロジェクトの中間レビューを行い、評価レポートに取りまとめる。

また、プロジェクト後半及び終了後に係る課題整理を念頭に、プロジェクトをより効果的・効率的に実施するために必要な事項の検討と、必要に応じ、軌道修正の必要性を検討し、提言を行う。

以上に関し、ブルキナファソ側と合意された事項をミニッツに取りまとめ署名する。

1-2　調査団の構成

(1)日本側団員

タイトル	所属先	氏　名
総括	JICA 地球環境部 森林･自然環境保全第二課長	遠藤　浩昭
協力計画	JICA 地球環境部 森林･自然環境保全第二課職員	岸田　匡
評価・分析	ICONS 国際協力株式会社	西村　邦雄
通訳		関田　眞理子

(2)ブルキナファソ側団員

所属先	氏　名
環境・生活環境省自然保護総局森林局森林整備課長	クリバリ・シア

1-3　調査期間

2010 年 1 月 10 日（日）から 1 月 30 日（土）までの 21 日間。なお、1 月 10 日（日）から 1 月 15 日（金）までは、評価分析団員が先行調査を実施した。

1-4　主要面談者

【環境・生活環境省】

次官	Mama Christine LIEHOUN
事務総局	BONI Joseph
調査計画局	MINOUNGOU Augustin
森林局長	Adama DOULKOM
森林局森林整備課長	COULIBALY Sia
野生動物狩猟局	BATHIONO Yves
生態モニタリング統計局	ZONGO Ambroise
森林土木局長	NABIE Kisito

【環境・生活環境州局】

カスカード州局長	GUINKO Adama

【環境・生活環境県局】

コモエ県局長	BIKIENGA Salamata

【経済財務省】

協力局長	SEBGO Léné

【プロジェクト】

チーフアドバイザー	水品　修
副総括/生計向上	手島　茂晴
参加型開発	武藤　珠生
ナショナルコーディネーター	KINI B Nestor

【地方行政】

スバカ郡知事	NEA Abass
スバカ郡市長助役	HEMA André
ティエフォラ郡市長	KONE Sidiki

【ラボラトワールフィトフラ社】

代表	Dr.DAKUYO PANDO Zéphirin

【ラキエタ・アソシエーション】

事務局長	TIENDREBEOGO Adama
コーディネーター	TOU Fatimata
秘書	SANGOTI Salamata

【在ブルキナファソ日本大使館】

特命全権大使	杉浦　勉
専門調査員	野坂　直広

【JICA ブルキナファソ事務所】

所長	森谷　裕司
所員	碓井　祐吉
ナショナルスタッフ	Cheik GANSORE

1-5　プロジェクト概要

（1）　上位目標

南スーダン気候帯において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される。

（2）　プロジェクト目標

対象となる 4 つの指定林(ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ)において、森林管理住民組織(GGF)及び森林管理住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる。

(3)　アウトプット

住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。

1)　対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。

2)　地域住民の生活状況が改善される。

3)　対象とする 4 つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。

4)　持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。

(4)　活動

1)　アウトプット 1 に関して

1.1 能力向上を目的として、中央・地方森林行政機関の技術的、組織的能力現状を評価する。

1.2.森林行政当局に対して参加型森林整備事業計画策定及び実施に係る研修とワークショップを実施する。

1.3.森林官向け参加型持続的森林管理技術に係る研修を実施する。

1.4.森林官向け参加型持続的森林管理活動のモニタリング・評価に係る研修を実施する。

1.5.森林官チーム[1]が定期モニタリング／コントロールを実施する。

2)　アウトウット 2 に関して

2.1.既存 GGF 及び UGGF の現在の技術、組織能力を評価する

2.2.プロジェクト関連村落の既存 GGF 及び UGGF の技術､組織能力を強化する

2.3 4 指定林隣接の村落及び村落グループにおいて新規 GGF 及び UGGF の設立を推進する

2.4.森林管理技術(苗畑、植林、野火管理、薪材生産、棒材・工芸品用材、用材生産、製炭、非木材林産物生産など)に係る研修を実施する[2]

2.5 GGF 及び UGGF 向けに林産物の交渉、販売技術に係る研修を実施する

2.6 GGF 及び UGGF 向けにモニタリング・評価に係る研修を実施する

3)　アウトプット 3 に関して

3.1 地域住民の優先社会経済インフラストラクチャー及び施設に関するニーズを調査し、その実現可能性を分析する

3.2 木材及び非木材資源の活用を目的とする活動を計画し、実施する

3.3 地域住民のために採択された社会経済優先ニーズ充足を目的とする活動を計画し、実施する

---

[1] 森林官チームの構成：カスカード州局長、コモエ県局長、森林局森林整備部代表 1 名及び生態モニタリング・統計局代表 1 名

[2] 実施形態は現地コンサルタントへの再委託及び技術機関職員を講師とするプロジェクト直営方式で行う

4)　アウトプット 4 に関して

4.1 各指定林の整備事業計画を作成する

4.2 策定済み PAG に則って森林管理活動を開始する

4.3 森林官向けに南スーダン気候帯地域における森林整備方法論ガイドを作成する

4.4 参加型森林管理に関する地域住民に適した実践的ガイドを作成する

5)　アウトプット 5 に関して

5.1 地方行政機関並びに関連部局に本プロジェクトを紹介するためセミナーを開催する

5.2 技術協議、活動報告書、各種情報伝達経路を通じてプロジェクトに係る意見交換を行い、情報を広める

5.3 コミューン開発計画の森林部門に係る森林官の監理活動を支援する

第 2 章　評価方法

本調査は、評価の手法としてプロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)の評価手法を用いた。プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に基づき、計画達成度（投入実績、活動状況、各アウトプットの達成度、プロジェクト目標の達成見込み）を把握するとともに、5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）による評価を行い、そこから導き出される提言を行った。

2-1　データ収集方法

PDM、最新 PO、過去のプロジェクト記録等の資料の文献調査を行い、中間レビューの評価項目を設定し、出発前に評価グリッドを作成した。評価指標は PDM に掲げられている指標を用いた。

上記既存資料による情報収集に加え、プロジェクト専門家とカウンターパートに対する質問票を作成し、データの補足、追加情報を入手するとともに、質問票及び評価グリッドに基づいてプロジェクト専門家とカウンターパートを含む関係者にインタビューを行った。

また、プロジェクトサイトである、コモエ県の対象指定林及び森林管理住民組織（GGF）を視察し、各サイトの活動進捗状況を確認し、現場の情報を収集した。

2-2 分析項目

2-2-1　プロジェクトの実績

R/D 及び PDM の計画に沿って、プロジェクト目標や上位目標の達成の度合い、アウトプットの産出状況、投入の実施状況などを検証する。

2-2-2 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトの実施過程全般を見る視点であり、活動は計画通りに行われているか、プロジェクトのマネジメントは適切に行われているか等を検証する。当初の計画どおりに活動が実施され、アウトプットに結びついているかどうかを確認するとともに、実施プロセスの何がアウトプットや目標達成に影響を与えているのかを検証する。

2-2-3 評価 5 項目

評価に当たって 5 つのクライテリアが用いられる。これらは妥当性、有効性、効率性、インパクト及び自立発展性である。

（1）　妥当性

対象地域・社会のニーズに合致しているか、ターゲットグループのーニーズに合致しているか、ブルキナファソ国の開発政策や日本の援助政策と整合性があるか、プロジェクトのアプローチは適切かなどを評価する。

（2）　有効性

プロジェクト目標達成の見込みはあるか、プロジェクト目標を達成する阻害要因はあるか、アウトプットはプロジェクト目標を達成するために

十分であるか、アウトプットからプロジェクト目標に至る外部条件は現時点においても正しいかなどを評価する。

(3)　効率性

アウトプットの達成度は適切か、アウトプット達成を阻害した要因はあるか、アウトプットを産出するために十分な活動であったか、アウトプットを産出するために十分な投入であったか、外部条件による影響はないか、計画に沿って活動を行うために、過不足ない量・質の投入がタイミングよく実施されたかなどを評価する。

(4)　インパクト（予測）

上位目標はプロジェクトの効果として発現が見込まれるか、上位目標を達成する阻害要因はあるか、上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか、プロジェクト目標から上位目標へ至る外部条件は現時点でも正しいか、上位目標以外の効果・影響が想定されるかなどを評価する。特にマイナスの影響が想定される場合は、それを軽減するための対策がとれているかを検証する。

(5)　自立発展性（見込み）

プロジェクト目標、上位目標などのプロジェクトが目指している効果は、協力終了後も持続すると見込まれるかを評価する。それらの持続的効果の発現要因、阻害要因は何かを、制度・組織面、財政面、技術面の観点から評価する。

第 3 章　プロジェクトの実績

3-1　投入実績

日本国及び「ブ」国の人的投入及び機材投入の実績は以下の通りである。各々の詳細は添付資料 1（仏文）及び 2（和文）の各々の別添 4「人員投入実績」及び別添 5「機材投入実績」を参照。

１）日本側投入

本プロジェクトの協力機関は 2007 年 7 月から 2012 年 6 月までの 60 ヶ月である。2010 年 1 月現在までに延べ、7 名の専門家が派遣され、3 名のカウンターパートが日本での研修を受けている。

表 3-1　専門家および担当分野

氏名	担当分野	派遣期間
水品　修	チーフアドバイザー／森林管理	2007/7/1～11/29 2008/2/5～3/5 2008/4/22～6/20 2009/1/19～3/31 2009/5/27～8/1 2010/1/5～現在
手島　茂晴	副総括 ／生計向上	2007/11/7～12/21 2008/5/14～8/1 2008/10/1～12/29 2009/3/22～6/9 2009/9/30～現在
門　敦之	参加型開発(1)	2007/7/15～10/25 2008/4/23～7/11 2008/10/1～12/29
武藤　珠生	参加型開発(2)	2008/1/6～3/5 2008/5/14～8/1 2009/1/19～5/18 2010/1/5～現在
小林　美和子	業務調整	2007/7/1～8/29 2007/4/22～6/5
手島　茂晴	業務調整	2009/6/10～7/24
酒井　文子	業務調整／研修監理	2009/9/30～11/28

表 3-2　研修員受入

氏名	所属	研修コース名	研修期間
OUATTARA　N' Grazié Thomas	前ナショナルコーディネーター	森林流域環境・水土保全技術	2008/8/24～9/13(体調不良により早期帰国
KINI B. Nestor	現ナショナルコーディネーター	持続可能な森林活動の実践活動促進	2009/8/19～11/8
OUEDRAOGO Mahamadi	環境・生活環境省カスカード州局	共生による森林保全	2008/8/24～11/15

機材供与額は 11,133,491 円（55,667,456 FCFA：1FCFA＝約 0.2 円)、研修等現地業務のロ

ーカルコストとして 45,945,874 円（229,729,370FCFA）が投入されている。

（２）ブルキナファソ側投入

2010 年 1 月までに延べ 30 名のカウンターパートが任命され、支援要員としても 4 名が配置された。機材として、ピックアップトラップ、パソコン等が投入された。プロジェクト事務所設置の土地・施設として、カスカード州局事務所の一部が提供された。また、人件費・運営費等のローカルコストとして 13,548,000 円（67,740,000FCFA）が投入されている。カウンターパート予算については、初年度 2007 年予算が確保されず減額された経緯があり、プロジェクト目標達成のためには今後の予算確保及び執行に注意が必要である。

3-2　活動の進捗状況

0. 事前活動

各アウトプットの諸活動を実施する前の準備作業として以下の事前活動を実施した。

活動 0-1　実施済み調査及び類似プロジェクトの成果をレビューする。
【指標】 ・既存資料及び報告書（コピー又はオリジナル）を収集し、検討する。

【指標の達成状況】

・必要な資料やデータを収集し検討を行った。

活動 0-2　地方レベルにプロジェクト事務所を設け、活動実施に必要な人的、物的資源を配置する。
【指標】 ・プロジェクトに事務所を設置する。 ・プロジェクトがプロジェクト支援スタッフを 5 名雇用する。 ・プロジェクトに車両、情報機器、事務機器などプロジェクト活動に必要な資機材を配置する。

【指標の達成状況】

・2007 年 7 月、バンフォラの州局敷地内に事務所を設置した。

・プロジェクト活動のために 6 名のスタッフ、また GGF の組織運営能力の定着や活動状況のモニタリングのために 7 名のスタッフを雇用した。

・車両、バイク、パソコンなど事務機器等を配置した。

活動 0-3　プロジェクト実施コーディネーション・メカニズムを設置する。
【指標】 ・ナショナルコーディネーター1 名を配置する。 ・省令により合同調整委員会を設置し、年 2 回開催する。

【指標の達成状況】

・2007 年 7 月、ナショナルコーディネーター（NC）が 1 名配置され、2008 年 12 月に急逝により、現ナショナルコーディネーターが任命された。
・合同調整委員会（JCC）設置に関する省令の発令が遅れ（2008 年 2 月）、2008 年 2 月に第 1 回 JCC、2009 年 2 月に第 2 回 JCC、同年 7 月に第 3 回 JCC の計 3 回、実施された。

1. アウトプット 1 の活動

中央・地方の森林行政機関職員を対象に研修をほぼスケジュール通りに実施し、参加した職員の能力向上が図られたと判断される。

活動 1-1　能力向上を目的として、中央・地方森林行政機関の技術的、組織的能力現状を評価する。
【指標】 ・自己評価会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回開催する。 ・自己評価会には少なくとも中央レベル 10 人、地方レベル 10 人の森林官が参加する。

【指標の達成状況】
・自己評価会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回開催した。
・中央レベル森林官向け研修には 3 日間で計 42 名（1 日平均 14 名）、地方レベル森林官向け研修には 3 日間で計 27 名（1 日平均 9 名）が参加した。

活動 1-2　森林行政当局に対して参加型森林整備事業計画策定及び実施に係る研修とワークショップを実施する。
【指標】 ・研修会を中央レベル 2 回、地方レベル 2 回実施する。 ・研修は少なくとも 2 つのテーマを扱う。 ・研修会には少なくとも中央レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)、地方レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。

【指標の達成状況】
・中央レベルで「PAG」と「参加」に係る研修を 1 回、実施した。（参加者数：12 名）
・地方レベルで「PAG」と「参加」に係る研修（参加者数：6 名）、及び「事務所整備研修」（3 郡局・県局森林官事務所から 1 名参加、計 3 名）実施した。

活動 1-3　森林官向け参加型持続的森林管理技術に係る研修を実施する。
【指標】 ・研修会を地方レベル 2 回実施する。 ・研修会には少なくとも延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。

【指標の達成状況】
・地方レベルで森林管理技術（参加型森林管理への政策転換に伴う森林官の役割の変化、近代養蜂技術、非木材林産物）に係る研修を実施した。（参加者数は各日 10 名、計 30 名）

活動 1-4　森林官向け参加型持続的森林管理活動のモニタリング・評価に係る研修を実施す

る。
【指標】 ・研修会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回実施する。 ・研修会には少なくとも中央レベル 10 名、地方レベル 10 名の森林官が参加する。

【指標の達成状況】

・地方レベルで「PCM 研修」（参加者数：12 名）、「記録と会計研修」（参加者数：6 名）、「モニタリング・評価研修」（参加者数：9 名）を実施した。

・中央レベルで「モニタリング・評価研修」を実施した。（参加者数：8 名）。

活動 1-5　森林官チームが定期モニタリング／コントロールを実施する。
【指標】 ・モニタリングは四半期ごとに 1 回、年 4 回実施する。

【指標の達成状況】

・ 2009 年 7 月、地方森林行政官によるモニタリングにも使用可能となる車輌がブルキナファソ JICA 事務所から環境省カスカード州局に譲渡され、森林官チームのモニタリング体制が整備された。2010 年 1 月から、森林官チームによる年 3 回のモニタリング（現場作業は 4 日間）を実施する予定。

2. アウトプット 2 の活動

ほぼスケジュール通りに 27GGF に対し、持続的森林管理に必要な能力、組織運営能力、林産物を活用した所得創出活動能力に係る研修が実施された。

活動 2-1　既存 GGF 及び UGGF の現在の技術、組織能力を評価する。
【指標】 ・ 評価会合が 1 村あたり 1 回の割合で 24 回実施される。

【指標の達成状況】

・ 既存 GGF（9 村、13GGF）、GGF 未設置の村（15 村、15GGF）及び UGGF（2 指定林、2UGGF）の現状調査を行い、評価した。なお、未設置村落については、テロワール管理村落委員会あるいは村落開発委員会関係者などの村落のキーインフォーマントに対して簡易アンケートを利用して評価を行った。

活動 2-2　プロジェクト関連村落の既存 GGF 及び UGGF の技術、組織能力を強化する。
【指標】 ・ 研修会は 2 回実施する。 ・ 既存の 13GGF の執行部を刷新する。 ・ 研修は記録・会計及び計画立案の 2 つのテーマで行う。

【指標の達成状況】

・ 「記録と会計」研修を 27GGF の執行メンバー（参加者数：103 名）、及び 21GGF の GGF 会員（617 名）に対し実施した。

・ 「計画立案」研修を 21GGF に対し実施した。（参加者数：319 名）

・ 既存 13GGF に対し、会計、記録、監査の役に識字者を選出する再選挙実施の支援を行った。

活動 2-3　4 指定林隣接の村落及び村落グループにおいて新規 GGF 及び UGGF の設立を推進する。
【指標】 ・ 新規に 14 の GGF、またグァンドゥグ指定林及びコングコ指定林それぞれに UGGF を新設する。

【指標の達成状況】

・ GGF 未設置であった 14 村において、3 回にわたり、GGF 設立へむけた啓発ワークショップを実施し、GGF を設立し、執行部の選出、総選挙の支援を行い、2009 年 1 月末までに全 14 新規 GGF が正式承認を得た。

活動 2-4　森林管理技術(苗畑、植林、野火管理、薪材生産、棒材・工芸品用材、用材生産、製炭、非木材林産物生産など)に係る研修を実施する。
【指標】 ・ 研修会は 8 つのテーマで各 GGF 対象に少なくとも 1 回実施する（研修回数は延べ 216 回(8x27)） ・ 研修会には少なくとも 1 回 10 人の GGF 会員が参加する（参加者数は延べ 2160 名(10x216)）

【指標の達成状況】

・研修会は 12 のテーマで以下のとおり実施された。なお、フォローアップ研修では参加人数を把握していなかった時もあり、実際には下記の参加人数より多い。

研修内容	延べ開催数	延べ参加者数
1)近代養蜂	19	397
2)苗木生産	26	455
3)植林	26	373
4)シアバター品質向上	30	1,156
5)薬用植物付加価値化	16	123
6)製炭	20	260
7)野火管理	20	577
8)放牧管理	8	256
9)伐採	8	119
10)スンバラ品質向上	7	350
11)記録・会計	50	456
12)収入管理	21	304

活動 2-5　GGF 及び UGGF 向けに林産物の交渉、販売技術に係る研修を実施する。

【指標】
・ 研修は少なくとも 1 GGF1 回の延べ 27 回実施する。
・ 研修会には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名の GGF 会員が参加する。

【指標の達成状況】
・ 「収入管理」に関する研修を 21GGF に対して実施した。（参加者数：308 名（うち女性 136 名））
・ 2009 年 12 月時点で 21 回の収入管理研修を実施した。

活動 2-6　GGF 及び UGGF 向けにモニタリング・評価に係る研修を実施する。

【指標】
・ 研修は少なくとも 1GGF1 回の延べ 27 回実施する。
・ 研修には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名(10x27)の GGF 会員が参加する。

【指標の達成状況】
・ GGF の組織運営能力の定着や活動のモニタリングやプロジェクトとの連絡のために、計 7 名のモニターを雇用した。また、モニタリング・評価に係る研修の一環として「計画策定研修」を 21GGF に対し実施した。
（参加者数：325 名（うち女性 144 名））

3. アウトプット 3 の活動

スケジュール通り活動を実施し、木材林産物として木炭の生産・販売、また非木材林産物として養蜂生産・販売、薬用植物販売、シアバター生産・販売を行う GGF が現れ、所得創造につながるようになってきた。

活動 3-1　地域住民の優先社会経済インフラストラクチャー及び施設に関するニーズを調査し、その実現可能性を分析する。

【指標】
・ 実施可能性記述を含むニーズリストが作成される。

【指標の達成状況】
・ 村落における簡易ニーズ調査を実施した後、水源整備に関する調査を行い、その実現可能性や設置可能な村落の優先順位を作成した。

活動 3-2　木材及び非木材資源の活用を目的とする活動を計画し、実施する。

【指標】
・ GGF 会員が挙げた活動の中から、少なくとも 6 種類の活動を計画し、実施する。

【指標の達成状況】
・ 27GGF が希望する生計向上活動について簡易調査を実施し、各 GGF のニーズを確認した。実施された活動については 2-4 を参照。

活動 3-3　地域住民のために採択された社会経済優先ニーズ充足を目的とする活動を計画

し、実施する。
【指標】 ・ GGF 会員が挙げたインフラの中から、少なくとも 1 つのインフラ整備を計画し、実施する。

【指標の達成状況】

・ 水源整備に関する調査の結果をベースに、GGF の苗木生産に資する井戸設置を検討して候補村を 7 つ選定し、第 3 年次において特に優先度の高い 3 村において水源整備を行う予定。なお、2 村において貯水槽を試験的に設置した。

4. アウトプット 4 の活動

第 3 年次にドラフト PAG を作成する予定であり、当初スケジュールより遅れている。これは第 1 年次に JICA 技術協力プロジェクトを「ブ」国側への理解を進めるのに時間を要したからである。

活動 4-1　各指定林の整備事業計画を作成する。
【指標】 ・ 指定林ごとに 1 つの PAG、延べ 4 つの PAG を作成する。

【指標の達成状況】

・ PAG 立案の基礎データ収集のため森林野生動物資源補足調査（対象 4 指定林に関するデータ収集、林産物の生産ゾーン、潜在的開発者調査）を実施した。また、非木材林産物の活用可能性に係る調査、バンフォラにおける木材市場の調査を実施した。日本側のコンセプトを PAG に反映させるためにも、PAG 策定を日本人専門家とカウンターパート側との協働で進めることになっており、PAG 策定スケジュールに沿って、今後各指定林の PAG を策定する予定。

活動 4-2　策定済み PAG に則って森林管理活動を開始する。
【指標】 ・ 2009 年 10 月から PAG の策定が順次開始され、計画に則った具体的な活動が 2010 年 10 月から開始される。

【指標の達成状況】

・ PAG ドラフトはまだ開始されていない。

活動 4-3　森林官向けに南スーダン気候帯地域における森林整備方法論ガイドを作成する。
【指標】 ・ ガイドが作成される。

【指標の達成状況】

・ 第 3 年次(2009 年 10 月～2010 年 8 月)にドラフト作成予定。

活動 4-4　参加型森林管理に関する地域住民に適した実践的ガイドを作成する。

【指標】 ・ 実践ガイドが少なくとも 8 種類作成される。

【指標の達成状況】

・第 3 年次(2009 年 10 月～2010 年 8 月)にドラフト作成予定。

5. アウトプット 5 の活動

ほぼスケジュール通り実施され、地域関係者セミナーや JCC の実施により地域関係者間での認知度が上がってきた。

活動 5-1 地方行政機関並びに関連部局に本プロジェクトを紹介するためセミナーを開催する。
【指標】 ・ 地域関係者セミナーを年 1 回、延べ 5 回開催する。 ・ 地域関係者セミナーには少なくとも 80 名が参加する。

【指標の達成状況】

・ 地域関係者セミナーを 3 回、開催した。（参加者数：214 名（初回の参加者数は不明））

活動 5-2　技術協議、活動報告書、各種情報伝達経路を通じてプロジェクトに係る意見交換を行い、情報を広める。
【指標】 ・ 合同調整委員会は年 2 回、延べ 10 回開催する。 ・ 各種活動報告書は少なくとも 29 回作成する。 ・ 《ニュースレター》は 12 回発行する。 ・ 研修旅行は 3 回実施する。

【指標の達成状況】

・合同調整委員会（JCC）は 3 回（第 1 回は 2008 年 2 月、第 2 回は 2009 年 2 月、第 3 回は 2009 年 7 月）、実施された。

・ インセプション・レポート、及び業務完了報告書 3 回、作成した。また、各種研修報告書も DiFor に提出されている。

・ ニュースレターを 6 号まで発行した。

活動 5-3　コミューン開発計画の森林部門に係る森林官の監理活動を支援する。
【指標】 ・ 森林官は少なくとも四半期に 1 回、年に 4 回、関連コミューンが作成するコミューン開発計画に含まれる森林セクターの活動監理を行う。

【指標の達成状況】

・ 第 3 年次より活動を実施する予定。

3-3　アウトプットの達成状況

各アウトプットの指標は概ね達成されており、未達成のものについても達成予定年次が設定されているなど、プロジェクト終了時まで概ね達成が見込まれる。ただし、アウトプット 4 についてはプロジェクト後半に達成が見込まれるものであり、今後のモニタリングが重要である。

具体的には、以下の通りである。アウトプット 2 の 2 指標のうち、1 つは既に達成済みで、もう一方も半数以上が達成済みである。アウトプット 3 は 2 指標とも達成済みで、シアバター・蜂蜜・薬用植物等による GGF の所得創出、さらにその収入による養蜂箱および原料種子購入への再投資の発現など顕著な成果が見られる。アウトプット 4 の 4 指標については、完全に達成しているものがない。これは、達成時期として 3 年次の策定が予定されているなど、中長期的な取り組みのためである。実際は、ドラフト策定が進むなど、ほぼ達成の見通しが立っている。アウトプット 5 はほぼ達成済みで、民間企業との連携の実績もあり、連携協定も 2010 年早々に締結予定であり、協議会も実施されているため、継続的なモニタリングを要するがほぼ達成の見込みである。

アウトプット 1
住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。
【指標】 ・ プロジェクト関係森林官が参加型持続的森林管理の研修を少なくとも中央レベルで 4 回、地方レベルで 6 回受け、効率よく地域関係者と協働する。

【指標の達成状況】

下記の通り、既に達成済みである。

・中央レベルの研修が 4 回(『自己能力分析・ファシリテーション能力』、『参加とは』、『PAG』、『モニタリング・評価』）が実施された。

・地方レベルの研修が 7 回(『自己能力分析・ファシリテーション能力』、『参加とは』、『PCM』、『組織能力強化-記録と会計』、『PAG』、『モニタリング・評価』、『事務所整備』）が実施された。

その結果、森林官のプロジェクトに対する理解が深まり、対象地域の森林官事務所における執務環境が整備された。地域関係者との協働については、研修を受けた森林官が森林管理技術研修の講師として GGF に対して既に研修を実施している。また、コミューンにおける苗木の生産や植林活動を指導する森林官を支援する予定である。

アウトプット 2
対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。
【指標】 ・27GGF 及び 4UGGF が新規設置又は再活性化される。 ・ GGF 及び UGGF が研修で得た技術を活用し、森林管理活動を開始する。

【指標の達成状況】

・14GGF が新規設置され、既存の 13GGF の事務局の役員が改選され森林管理活動を開始している。また、苗木生産（5GGF)、植林（7GGF)、防火線開設（3GGF)、所得創出活動が開始された。プロジェクト支援によってブヌナとトムセニの UGGF の活動が再活性化された。

アウトプット 3
地域住民の生活状況が改善される。
【指標】 ・対象指定林関連の GGF が木材及び非木材林産物を活用した所得創出活動を開始する。 ・GGF が活動に要する資機材等への再投資を行う。

【指標の達成状況】

・対象指定林関連の一部 GGF が木材（木炭生産 GGF 数：3）及び非木材林産物（シアバター生産 GGF 数：11、蜂蜜生産 GGF 数：7、薬用植物採取 GGF 数：8（男女別)、スンバラ生産 GGF 数：7）を活用した所得創出活動を開始した。

・12GGF が養蜂箱及び原料種子購入に再投資をした。

アウトプット 4
対象とする 4 つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。
【指標】 ・対象指定林毎に 1 計画、合計 4 つの PAG が策定される。 ・南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドが作成される。 ・地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアルが少なくとも 8 種類作成される。 ・GGF/UGGF が継続的に少なくとも 4 種類の森林管理活動の技術を習得し、PAG に則って活動を開始する。

【指標の達成状況】

・PAG 立案のためにプロジェクトは以下の事業を実施した。

－森林野生動物の生息ゾーン調査を含む 4 指定林の森林インベントリ
－林産物生産ゾーン及び開発者に関する調査
－指定林周辺住民による非木材林産物の活用に関する調査
－バンフォラにおける木材市場に関する情報の収集
－対象指定林毎の 4 つの PAG の策定スケジュールは作成している。第 3 年次に PAG ドラフトを策定する予定である。

・これまでに収集した資料を基に、第 3 年次に南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドドラフトを作成予定である。

・これまでの研修で作成したマニュアルを基にして苗木生産、植林、伐採、野火管理、放牧管理、高品質シアバター生産、近代養蜂、薬用植物活用に関するマニュアルドラフトを

第 3 年次以降に作成予定である。
・PAG 策定前ではあるが、研修を実施した GGF の一部は苗木生産、植林、野火管理、高品質シアバター生産、近代養蜂、薬用植物活用活動を既に開始した。

アウトプット 5
持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。
【指標】 ・地域関係者及び関係省庁関係者との協議会を少なくとも毎年、年 3 回開催する。 ・プロジェクトと州局との間で提携協定が締結される。 ・地域の民間企業との連携関係が構築される。

【指標の達成状況】
・これまでの 2 年 6 ヶ月間に JCC 及び地域関係者セミナーをそれぞれ 3 回ずつ、計 6 回開催しており、2009 年は JCC を 2 回、地域関係者セミナーを第 1 回開催した。
・2010 年 1 月、本プロジェクトとカスカード州局との間で提携協定を締結予定である。
・民間企業との連携として薬用植物活用で実績のある Phytofla 社（バンフォラ）と研修を受けた GGF が採取した薬用植物を買取ることで連携した。また、樹実活用で実績のある BombaThecno 社（バンフォラ）との連携も予定している。

3-4　プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標及びその達成状況は以下の通りである。現時点では、プロジェクト終了時までの達成にむけて進捗が見られる状況である。

プロジェクト目標
対象となる 4 つの指定林(ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ)において、森林管理住民組織(GGF)及び森林管理住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる。

【指標 1】
プロジェクト開始時に比べ、対象指定林において、GGF／UGGF による森林管理活動の基礎となるゾーニングが明確にされる。

【指標 1 の達成状況】
4 指定林において、これまでに実施した森林調査によりゾーニングのための情報は得られている。第 3 年次に森林整備単位界を地形図上で定めて、プロジェクト後半に防火線を兼ねて現地で伐開線の開設作業を開始する予定である。

【指標 2】
プロジェクト開始時に比べ、各対象指定林の整備目標が明確に設定され、その目標に沿った森林管理活動が GGF／UGGF により継続的に実施される。

【指標 2 の達成状況】

中間評価時点までに研修を終了した GGF の大半が森林管理活動、及び生計向上に資する活動を既に実施している。そのことにより地域住民による持続的森林管理を行う下地は出来つつある。

3-5　活動プロセスの検証

3-5-1　PDM の変更

本プロジェクトの PDM は、第 3 回 JCC（2009 年 7 月 17 日）において 1 回、改訂されている。改訂の際の基本的な考え方は、主にプロジェクト活動に対する先方政府の主体的関与をより発揮させるため、実施上の手法が変更されたものであり、PDM の成果以上のレベルでの変更はない。具体的な主な変更点は以下のとおりである。この他、各指標はより具体的なものに変更された。

1）　活動 1-5 の追加

森林行政官の能力向上に係る具体的活動の更なる充実化のため、以下の活動を加えた。

「1-5　森林官チーム が定期モニタリング／コントロールを実施する。」

これは、中央・地方レベルの森林行政官によるモニタリング活動として、森林整備事業計画の策定と実施に係る活動の一部をプロジェクト活動に含めるものである。

2) 活動 5-3 の追加

地方行政機関及び関連する国の出先機関と森林行政機関との協力関係をより高めるため、以下の活動を加えた。

「5-3 コミューン開発計画の森林部門に係る森林官の監理活動を支援する。」

これは、コミューン開発計画に基づく植林活動等の実施状況を森林官等が定期的にモニタリングするものである。

3-5-2　プロジェクト管理

1.実施体制

2008 年に「ブ」国側の C/P 予算が計上されて限定的ではあるが諸手当の支払が可能になったこと、及び 2009 年 10 月以降(第 3 年次)、森林管理技術研修で C/P 機関職員を講師として活用することができるようになり、C/P 職員のプロジェクト活動への関与が改善されている。

2. 意思決定及びモニタリングプロセス

① JCC

「ブ」国側の様式に則り、プロジェクトで実施済みの活動やアウトプットの達成状況、今後のスケジュールについて報告している。

② プロジェクト内モニタリング

プロジェクト側で GGF の活動モニタリング要員を雇用し、各 GGF をモニターし報告を受ける体制を取っている。

③ ナショナルコーディネーター（NC）を通じた意思決定プロセス

NC を通して「ブ」国側とコンタクトを取る協働体制としており、常にプロジェクト活動実施に関し「ブ」国側と協議して進める態勢が整っている。

④ 「ブ」国側によるモニタリング

モニタリング体制は構築（州局長、県局長を組み込んだモニタリングシステムで年間 4 回の頻度で実施する体制）した。

⑤ PDM 及び PO によるプロジェクト管理

プロジェクト側が年間 PO を作成してプロジェクトの管理を行っている。また、これまで第 2 回 JCC 及びその後に提出された「ブ」国環境・生活環境省のレターを受け、PDM の内容及び指標を「ブ」国 C/P 機関と協議し改訂した。

3-5-3 プロジェクト内コミュニケーション

現 NC 着任以降、NC を通じて日本側から「ブ」国側への情報伝達を行う仕組みが一層機能するようになった。また、本プロジェクト開始以降、プロジェクト関係者（日本人専門家、ブルキナ人支援スタッフ）の間では徐々に意思疎通が円滑になり、現在は極めて活発にコミュニケーションが行われている。

3-5-4 関連機関との連携

① JCC メンバー機関

カスカード州、コモエ県、関係 4 郡の地方行政機関、関係 4 コミューンの地方公共団体、及び農業省、動物資源省など省庁の地方出先機関の技術部局とは JCC 開催時にプロジェクト活動について説明・協議を実施している。

② 動物資源省

放牧管理研修では動物資源省と協力し、動物資源省担当官に研修講師を務めてもらうなど具体的な連携を図っている。

③ 民間企業との連携

2 社の民間企業と委託契約を結び、そのうちの 1 社は GGF 研修を実施した。

3-5-5 実施プロセスに影響したその他の要因

① 促進要因

- GGF へ研修をしたことにより、所得創造を図る GGF が出てきたこと。
- 森林官がプロジェクト活動に一層主体的に参加するようになってきたこと。

② 阻害要因

・「ブ」国側 C/P 予算の執行の遅れと減額。研修を受けた地方森林官が異動すること。

・JICA の技術協力プロジェクトに対する認識が「ブ」国側及び日本側双方で異なっていたこと。

・指定林の一部における違法な金の採掘がなされたこと。

・一部地域における強盗の発生により治安状況の悪化があったこと。

第 4 章　評価 5 項目による評価結果

4-1　妥当性

ブ国では国家森林政策や森林整備国家プログラムを策定し、GGF を通じた指定林整備を進めている。また、今後は非木材林産物など多様化した林産物を活用することも求められている。こうしたことから、本プロジェクトの目標は現在でも「ブ」国、カスカード州及びターゲットグループの地域住民のニーズと合致していると判断できる。以上により本プロジェクトと「ブ」国の国家政策との整合性は高い。また、日本政府は TICAD IV においてアフリカ諸国に対する気候変動対策への支援強化を打ち出しており、日本の ODA 政策との整合性も高い。

指定林は地域住民の生活基盤であり、GGF/UGGF を通じた持続的に森林管理を行うことを目指すのは適切なアプローチといえる。また、持続的森林管理を行うために各 4 指定林と村落住民の状況に応じた PAG を策定することは地域住民の生活を守りつつ森林保全を図るということから妥当である。

以上より総合的に判断するとプロジェクトは現在でも妥当性が高い。

4-2　有効性

現在までに新規設置あるいは再活性化された GGF の大半において研修を実施した結果、森林管理活動、及び生計向上に資する活動が既に実施されている。研修を受けた森林官と地域住民との信頼関係は深くなりつつあり、また、PAG 策定に必要な森林資源などの基礎情報の収集も行われている。これらにより地域住民による持続的森林管理が行われるための下地は出来つつある。

このように各アウトプットはプロジェクト目標の達成に貢献しており、プロジェクト終了時までにはプロジェクト目標が達成されることが見込まれる。

アウトプットに至る以下の外部条件については、現時点ではこれらの外部条件に抵触するような事態は発生していない。

- 森林資源に影響を及ぼしえる自然災害が発生しない
- 対象 4 指定林の PAG がブ国政府により承認される
- 全てのレベルでのガバナンスが良好に保たれる

ただし、外部条件「対象 4 指定林の PAG がブ国政府により承認される」については、PAG が法で定められた承認のための委員会（国土整備県委員会（CRAT）、国土整備州委員会（CPAT）、国土整備国家委員会（CNAT））に承認されるためには長い手続を経る必要があり、これまでに承認された PAG の前例も未だない。よって、プロジェクト期間内にどの程度まで承認手続きを進めることが出来るか不明である。

4-3　効率性

「ブ」国・日本側双方の投入は、タイミング、質、量の面で全体的には適切であったと判断でき、アウトプットの産出に貢献している。日本側の投入については、第 2 回 JCC の後に森林行政とより一層の連携の強化を図る目的で予算が上向きに見直され、アウトプット達成のために日本側の予算が増加した。一方、「ブ」国の毎年の C/P 予算執行の遅れがアウトプット産出にマイナスの影響を及ぼす可能性がある。

4-4　インパクト

(1)　正のインパクト

農民と牧畜民との関係改善

本プロジェクトにおいて実施したバンフォラ、スバカのコミューン村での放牧管理研修の結果、放牧民の GGF への加入が増加し、GGF 会員を含む農民と放牧民との間の係争が減少した。

村落組織の能力エンパワーメント

本プロジェクトで実施した GGF に対する組織能力強化は森林管理につながっている。他方、GGF の活動に参加した GGF の村全体の能力向上につながっている。例えば、GGF の女性が村の会合における発言力をもってきている。このように能力向上はジェンダー面でもプラスのインパクトを生じている。

地域住民と森林官との関係改善

森林官と地域住民の関係は、プロジェクトの開始によってより近い関係になった。すなわち、地域住民は森林官に対してよい印象を持つようになった。

(2)　上位目標

現時点で上位目標レベルの達成見込みへ言及するのは時期尚早であるが、プロジェクト目標が達成された後、プロジェクト終了後も少なくともプロジェクト対象の指定林ではプロジェクトで導入された活動の幾つかが継続的に実施される可能性はある。しかし、「南スーダン気候帯においては」は広範囲すぎるため、対象地域範囲の明確化が必要である。

4-5　自立発展性の見通し

制度的・組織的側面

「ブ」国では砂漠化、森林減少が課題であるため、PAG の規定に基づいて GGF/UGGF に責任を持たせて指定林管理を行うという「ブ」国政府の基本政策は継続されると考えられる。

本プロジェクトの成果を持続させ、発展させていくためには森林官の住民参加型アプローチに関する能力向上を継続していくことが必要である。

財政的側面

「ブ」国側負担のカウンターパート予算執行の遅れや予算減額を勘案すると、協力期間後に「ブ」国側がプロジェクト成果の持続性を確保するために必要な予算を「ブ」国は確保すべきである。

技術的側面

森林官は必要な関連技術を活用・普及する能力を持っている。GGF が自立的に経済活動を促進していくために森林官による側面支援が必要である。また、地域の民間企業を含む関係機関との関係構築も GGF の活動を継続していく上で必要である。

プロジェクトで教えられた新しい森林管理技術は地域の有用技術を最大限に活用しており、カウンターパート及び GGF に受け入れられている。活動が進むにつれてカウンターパートや GGF の学ぶ意欲も向上してきており、習得したことを既に実践に移している。この点でも技術面の自立発展性が確保できる可能性が高い。

第 5 章　結論

本プロジェクトの目標は「ブ」国の森林資源政策や日本の援助政策とも整合性がとれており、現在も妥当性が高い。プロジェクト開始当初は本プロジェクトに対する「ブ」国側（森林機関、地域住民）と日本側双方の認識の違いから、活動の進捗に遅延が見られた。

しかし、その後の双方の努力により現在は改善されつつあり、少し遅れている 4 指定林における PAG 策定を除き概ね計画通りに順調に活動が進んでいる。この最後の活動については、2010 年に森林行政機関とプロジェクトチームにより既に処置が取られ、2010 年に開始が予想される。

また、カウンターパート予算は、初年（2007 年）は確保されなかった。2 年次からは「ブ」国側の努力によりある程度までは確保された。しかしながらプロジェクト目標達成のためにもより多くの努力は続けられなければならない。

これまでに、プロジェクトを通して森林資源の森林行政官の持続的住民参加型森林管理に関する能力が向上してきており、GGF による森林活動も開始されている。また、森林行政機関と地域関係機関との協力関係も深まりつつある。これらを踏まえると、PAG が遅滞なく策定され、かつ地域住民に現在見られるような高い関心が維持されるのであれば、プロジェクト目標達成の見込みは高い。

第 6 章　提言

(1) 「ブ」国には PAG の承認のために法で定められた異なったレベルの委員会がある。
- 国土整備県委員会（CPAT）
- 国土整備州委員会（CRAT）
- 国土整備国家委員会（CNAT）

このような機関での承認プロセスに時間を要することに鑑み、プロジェクトは 4 指定林の PAG の CPAT のレベルの承認まで支援する予定である。その後のステップについては「ブ」国側が森林局を通して最終的承認まで取る必要がある。

(2) 一定の森林整備事業を進めるため、プロジェクトを規定した R/D に従った金額のカウンターパート予算の適時の執行が必要である。

(3) 現況に合わせ、2009 年に採択された PDM(ver2)に関して以下の点について修正が必要である。

3.1) プロジェクト終了後 3 年での実現を考慮し、また上位目標への道筋を一層明確にするため、「南スーダン気候帯において」を「4 指定林」と変更する。そのために、残される指標は 2 番目（「対象 4 指定林においてプロジェクトで導入された活動が、策定された森林整備事業計画に則って GGF/UGGF により持続的に実施される。」）とする。

3.2) プロジェクト対象地域内において非安全状態（武装強盗、金違法採掘）が生じているため、アウトプットの外部条件の一つとして地域内の安全条件を入れる必要がある。

3.3) 指定林では住民参加型森林管理を実施する政策が強く推進されており、速やかな実施を優先する必要がある。他方、PAG の承認には多岐にわたるステップがあり長期の時間を要するため、アウトプットの外部条件にある「PAG の承認」をプロジェクト目標の外部条件に移動する。

(4) プロジェクト成果の効率的な定着のため、カウンターパート森林官の配置転換について特別の配慮が必要である。

(5) 森林行政機関がプロジェクト成果を一層活用できるようにするため、プロジェクトは燃料費と潤滑油費をカウンターパート予算に資金的補完することでプロジェクト活動のモニタリング評価への森林官の参画へ促すことが必要である。そのための手順は今後、双方により定義されることとなる。

(6) 森林資源保全のために 4 指定林周辺のコミューン参加をより強化するため、森林行政機関は自らの能力強化することが必要である。

(7) 2010 年中に PAG の作成が開始される予定である。プロジェクト終了前に GGF が森林整備作業を習得するために、4 指定林における整備事業を強化する必要がある。このため、カウンターパート予算を補完するためのプロジェクトによる追加的資金投入が必要である。

(8) 「ブ」国側は、GGF に対して多くの研修が行われているが機材は少ないと認識している。また、機材ニーズの検出が不適切であった。このためプロジェクトにより供与さ

れた機材では、プロジェクト終了時に GGF による活動の持続性を確実にするための必要最低限のレベルにも達していないと認識している。したがって「ブ」国ルキナファソ側は、妥当性を持ち得なくなったと判断されるいくつかの研修が機材供与に置き換えられることを要望した。

この点につき日本側は、受益者 GGF の自立発展性および再投資に対する阻害要因と成り得るため、追加的な機材の供与には特段の注意が必要であろうと考える。GGF のニーズ検出に関しては、2002-2005 に実施された「コモエ県森林管理計画調査」の結果に基づいている。本プロジェクトは地域住民との直接かつ定期的なコミュニケーションを通して真のニーズの検出を現在まで続け、今後も続けて行く予定である。

この点について双方は合意に達しなかったので双方は次回 JCC までに引き続き検討するべきである。

添付資料

1　署名 M/M 和訳

添付：中間評価レポート和文

- 本文
- 別添：　同上

2　仏文署名 M/M

添付：中間評価レポート

- 本文
- 別添：　1 PDM

PO 及び活動実績表

プロジェクトの実績

人員投入実績

機材投入実績

プロジェクト実施体制及び終了後体制

PAG 策定スケジュール

実施プロセス

PDM 指標の活動実績達成度

COMPTE RENDU DES DISCUSSIONS ENTRE L'AGENCE JAPONAISE DE COOPERATION INTERNATIONALE ET LES AUTORITES CONCERNEES DU GOUVERNEMENT DU BURKINA FASO PAR L'EVALUATION A MI-PARCOURS DU PROJET DE GESTION PARTICIPATIVE ET DURABLE DES FORETS DANS LA PROVINCE DE LA COMOE

La Mission d'évaluation à mi-parcours (ci-après désignée «la Mission») du Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé (ci-après désigné «le Projet») a été organisée conjointement par l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (ci-après désignée «la JICA») représentée par M. ENDO Hiroaki, et par le Ministère de l'Environnement et du Cadre de Vie (ci-après désigné «le MECV») représenté par M. COULIBALY Sia. Elle s'est déroulée du 11 au 28 janvier 2010 au Burkina Faso.

A la suite de l'analyse des résultats de l'étude, le rapport de l'évaluation conjointe a été élaboré par la Mission et soumis à Mme la Secrétaire Générale du MECV. Après avoir présenté les résultats de l'évaluation à Mme la Secrétaire Générale du MECV, la Mission a souhaité que recommandations formulées dans le rapport d'étude ci-joint, soient exécutées avant le terme du Projet.

Les deux (2) parties ont effectivement marqué leur accord pour la mise en œuvre de ces recommandations.

Fait à Ouagadougou le 28 Janvier 2010

遠藤浩明

M. ENDO Hiroaki
Chef de la Mission d'évaluation à mi-parcours
Agence Japonaise de Coopération Internationale
Japon

Mme. Mama Christine LIEHOUN
Secrétaire Générale
Ministère de l'Environnement et du Cadre de Vie
Burkina Faso

RAPPORT D'EVALUATION A MI-PARCOURS

1. Préambule

A la suite de la signature le 7 juin 2007 du Procès Verbal des Discussions (*Record of Discussion : R/D*) entre les autorités japonaises concernées et le gouvernement burkinabé, le Projet de gestion participative et durable des forêts dans la province de la Comoé a démarré le 1er juillet 2007 pour prendre fin le 30 juin 2012, soit une durée de cinq (5) ans. Le présent document est le rapport de l'évaluation conjointe à mi-parcours dudit Projet.

1.1 Objectifs de l'évaluation conjointe

Les objectifs de cette évaluation sont :

(1) Contrôler le bon déroulement de l'ensemble des activités du Projet à mi-parcours en vérifiant les résultats atteints et son processus de mise en œuvre à travers les cinq (5) critères ci-après : la pertinence, l'efficacité, l'efficience, l'impact et la durabilité.

(2) Formuler les recommandations nécessaires en vue de l'atteinte de l'objectif spécifique du Projet.

1.2 Composition de l'équipe d'évaluation conjointe (ci-après désigné «l'Equipe»)

(1) Partie japonaise

Titre	Fonctions et structures	Nom / Prénom
Chef de mission	Chef de la Deuxième Division pour la Protection de l'Environnement Naturel et des Forêts, Direction de l'Environnement Planétaire, JICA	ENDO Hiroaki
Chargé de la planification	Chargé de Mission à la Deuxième Division pour la Protection de l'Environnement Naturel et des Forêts, Direction de l'Environnement Planétaire, JICA	KISHIDA Masashi
Evaluateur	Bureau d'études ICONS S.A.	NISHIMURA Kunio
Interprète		SEKITA Mariko

(2) Partie burkinabé

Titre	Fonction et structures	Nom / Prénom
Représentant la partie nationale	Chef du Service de l'Aménagement Forestier / Direction des Forêts, Direction Générale de la Conservation de la Nature (DGCN)	COULIBALY Sia

1.3 Calendrier du déroulement de l'évaluation

La présente évaluation s'est déroulée du 11 au 28 janvier 2010. Elle a comporté des visites de courtoisie aux autorités ci-après : Mme la Sécrétaire Générale du MECV, M. le Directeur Général de la Coopération, Mme la Sécrétaire Générale de la province de la Comoé, les Préfets et les premiers adjoints aux Maires de Sidéradougou, de Soubaka et le Maire de

Tiéfora. En outre, l'Equipe d'évaluation a collecté des informations sur le Projet à travers des interviews basées sur des questionnaires adressés aux acteurs suivants :

- le personnel forestier homologue du Projet à différents niveaux (central, régional, provincial et départemental) ;
- l'équipe du projet (coordination nationale et experts japonais) ;
- les Groupements de Gestion Forestière(GGF) et les Unions de Groupements de Gestion Forestières (UGGF) des 4 forêts classées concernées ;
- des promoteurs privés intervenant dans la valorisation des Produits Forestiers Non Ligneux (Phytofla, Bomba Techno, S.A Dansè).

L'Equipe d'évaluation a également effectué des visites de réalisations dans la zone d'intervention du Projet pour constater l'état d'avancement des activités qui ont été menées par les GGF concernés.

A partir des différentes données collectées, l'Equipe a élaboré un rapport d'évaluation qui a été finalisé par les deux (2) parties.

2. Rappels sur le projet

2.1 Contexte

Du fait de son appartenance au Sahel, le Burkina Faso fait face aujourd'hui à des problèmes de désertification dus à plusieurs causes dont les péjorations climatiques sont les plus importantes. A cela s'ajoutent les effets de la croissance démographique galopante, le déplacement des populations du nord du pays vers le sud et l'ouest à la recherche de terres cultivables et de pâturages, les cultures itinérantes sur brûlis, l'élevage extensif. Tous ces facteurs ont pour conséquence la diminution des superficies forestières (110 500 ha par an, selon la Base de Données de l'Occupation des Terres 2002).

C'est au regard de cette situation que le gouvernement du Burkina Faso a élaboré une Politique Forestière Nationale en 1995. Pour sa mise en œuvre, le MECV a adopté en 1996 un Programme National d'Aménagement des Forêts(PNAF) ainsi qu'un certain nombre de lois regissant la gestion des ressources forestières.

C'est dans ce contexte qu'à la demande du Gouvernement Burkinabé, la JICA a réalisé entre août 2002 et juin 2005, un Projet d'études pour la gestion participative des forêts classées dans la Comoé avec pour zone d'intervention, les forêts classées de : Bounouna, Toumousséni, Gouandougou, Kongouko et Dida. Ces études ont permis de définir des orientations et des approches pour l'élaboration des plans de gestion participative desdites forêts classées.

A la suite de ce Projet d'études, le Gouvernement Burkinabé a formulé auprès du Japon une nouvelle requête de coopération technique visant la gestion durable et participative des

forêts classées. C'est en réponse à cette requête que le Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé (PROGEPAF/Comoé) a été financé avec l'appui de la Coopération Japonaise. Sa mise en œuvre intervient dans un contexte national marqué par le processus de la décentralisation.

2.2 Description du Projet

(1) Durée du projet : 5 ans (1er juillet 2007 au 30 juin 2012)

(2) Structure nationale technique d'exécution : MECV

(3) Zone d'intervention du Projet : Forêts classées de Bounouna, Toumousseni, Gouandougou et Kongouko ainsi que les terroirs riverains

(4) But Global du projet : La gestion participative et durable des forêts dans la zone sud-soudanienne est assurée par la population locale.

(5) Objectif du Projet : Les activités visant la gestion durable des 4 forêts classées de Bounouna, Toumousséni, Gouandougou et Kongouko sont menées par la population locale à travers les GGF et les UGGF.

(6) Résultats Attendus

1) Les capacités des services forestiers (centraux et déconcentrés) à appuyer les populations en matière de gestion participative et durable des forêts sont renforcées ;
2) Les capacités des GGF et des UGGF des villages concernés sont renforcées en matière de gestion participative et durable des forêts ;
3) Les conditions de vie des populations locales sont améliorées ;
4) Les plans d'aménagement et de gestion (PAG) des 4 Forêts Classées (FC) sont élaborés et connaissent un début de mise en œuvre ;
5) Les partenaires locaux et les services forestiers ont une relation de collaboration plus étroite pour la gestion durable des forêts.

3. Méthode d'évaluation

3.1 Collecte des informations

L'équipe d'évaluation conjointe a collecté des données à travers une revue documentaire sur le Projet, la réalisation d'interviews auprès des acteurs concernés, des visites de terrain, une analyse du cadre logique du projet / PDM (Cf. Annexe 1) et du Plan d'Opération (Cf. Annexe 2).

3.2 Objectifs de l'évaluation

3.2.1 Réalisation du Projet

Le degré de réalisation du But Global, de l'Objectif Spécifique du Projet et des Résultats attendus, ainsi que l'état d'exécution des Intrants sont examinés suivant les plans fixés dans le Procès – Verbal / PV (R/D) et le Cadre Logique du Projet (PDM).

3.2.2 Processus de mise en œuvre du Projet

L'ensemble du processus de mise en œuvre du projet fait l'objet de la présente évaluation. La réalisation des activités suivant le Plan d'Opération (PO) ainsi que la gestion appropriée

du Projet sont vérifiées. Les résultats obtenus suivant le PO sont à confirmer. Les éléments dans le processus qui influent sur la réalisation des Résultats ou de l'Objectif Spécifique sont examinés.

3.2.3 Critères d'évaluation du projet

Cinq (5) critères ont été retenus pour l'évaluation du Projet. Il s'agit de : la pertinence, l'efficacité, l'efficience, l'impact et la durabilité.

(1) Pertinence : La pertinence d'un projet est évaluée du point de vue de la cohérence entre le contenu du projet et les besoins des groupes cibles ainsi que ceux de la société locale. La cohérence par rapport aux politiques de développement burkinabè et celles régissant la coopération japonaise, ainsi que la pertinence de l'approche du Projet font également l'objet de cette évaluation.

(2) Efficacité : L'efficacité d'un projet est évaluée en répondant aux questions suivantes : L'atteinte de l'objectif spécifique du Projet est-il envisageable ? Y a-t-il des obstacles entravant l'atteinte de l'objectif ? Les résultats attendus sont-ils suffisants pour l'atteinte de l'objectif spécifique ? Les conditions extérieures identifiées sont-elles toujours adéquates ?

(3) Efficience : L'efficience d'un projet est évaluée en répondant aux questions suivantes : Le degré d'atteinte des Résultats est-il approprié ? Y a-t-il des obstacles entravant l'atteinte des Résultats ? Les activités ont-elles été suffisantes pour l'atteinte des Résultats ? L'intrant a-t-il été suffisant pour l'atteinte des Résultats ? Les conditions extérieures ont-elles influencé l'atteinte des Résultats ? L'intrant a-t-il été réalisé adéquatement tant au niveau quantitatif que qualitatif, et ce au moment approprié pour que les activités soient menées conformément au PO ?

(4) Impacts (prévisions) : L'impact d'un projet est évalué en répondant aux questions suivantes : Le But Global sera-t-il réalisable grâce à l'impact du projet ? Y a-t-il des obstacles entravant l'atteinte du But Global ? N'y a-t-il pas trop d'écarts entre le But Global et l'Objectif Spécifique du Projet ? Les conditions extérieures susceptibles de toucher la réalisation du But Global à partir de l'atteinte de l'Objectif Spécifique du Projet sont-elles toujours d'actualité ? Les effets et les impacts autres que le But Global défini sont-ils prévisibles ? Concernant la dernière question, si un effet négatif quelconque est prévisible, la prise effective des mesures d'atténuation sera vérifiée.

(5) Durabilité (pronostics) : Les pronostics sur la durabilité des acquis du projet au-delà de la durée de la coopération font l'objet d'évaluation. Les éléments facilitateurs ou entravant seront évalués du point de vue institutionnelle/organisationnelle, financière et technique.

4. Etat de mise en œuvre du Projet et examen du processus

4.1 Etat de mise en œuvre du Projet

4.1.1 Réalisation de l'Intrant

Selon les chiffres communiqués par les deux (2) parties, l'état des ressources humaines et financières utilisées pour la mise en œuvre du Projet se présente comme suit :

Tableau 1 Intrants burkinabè (décembre 2009)

Affectation des Homologues	DiFor : 2 DRECV/Cascades : 8 agents DPECV /Comoé : 4 agents. Postes forestiers en charge des 4 FC : 15 agents Coordonnateur National : 1 agent
Personnel Contractuel	1 sécretaire-comptable, 1 chauffeur, 1 gardien, 1 pépiniériste, 1 Agent de Liaison

Rubriques	Budget Total (FCFA)	Budget Exécuté au 31 décembre 2009 (FCFA)	Taux d'Exécution
Personnel	46 348 568	23 174 284	50%
Fonctionnement	26 163 100	13 081 550	50%
Travaux	114 520 000	0	0%
Biens et Services	62 968 332	31 484 166	50%
TOTAL	250 000 000	67 740 000	27,10%

Tableau 2 Intrants japonais

Rubriques	Intrants
Affectation d'experts japonais	6 experts : 1 CTP, 1 Adjoint au CTP/amélioration du cadre de vie, 2 experts en développement participatif, 1 gestionnaire administratif, 1 gestionnaire administratif et en formation
Equipements	Véhicules, Motos, Autres Matériels
Formation des Homologues burkinabè au Japon	3 agents
Budget de mise en œuvre des activités	Formations, fonctionnement, études, réalisations

Rubriques	Budget Total (FCFA)	Budget Exécuté au 31 décembre 2009 (FCFA)	Taux d'Exécution
Affectation d'experts japonais	1.192.000.000	690.411.787	57,9%
Equipements	63.000.000	55.667.456	88,4%
Formations, fonctionnement, études, réalisations, etc.	264.000.000	229.729.370	86,7%
TOTAL	1.520.000.000	975.808.612	64,2%

4.1.2 Réalisation des Résultats Attendus

Le résultat de l'évaluation au regard des Indicateurs Objectivement Vérifiables (IOV) définis pour le Projet est présenté comme suit :

(1) *Résultat 1 : Les capacités des services forestiers (centraux et déconcentrés) à appuyer les populations en matière de gestion participative et durable des forêts sont renforcées*

Les 4 formations au niveau central et les 7 formations au niveau déconcentré ont été dispensées au bénéfice des agents forestiers concernés par le Projet. Les thèmes de ces formations ont été :

- **Au niveau central :**
  - la capacité de facilitation / auto - évaluation ;
  - l'approche participative ;
  - les plans d'aménagement et de gestion (PAG) ;
  - le suivi – évaluation des activités.
- **Au niveau déconcentré :**
  - la capacité de facilitation/auto - évaluation ;
  - l'approche participative ;
  - le Cadre logique d'un projet (PDM) ;
  - le renforcement organisationnel ;
  - la gestion comptable ;
  - les plans d'aménagement et de gestion (PAG) ;
  - le suivi - évaluation des activités ;
  - l'archivage au niveau du bureau.

A la suite de la formation sur le classement de la documentation, les constats montrent que les bureaux des agents forestiers ayant pris part à la formation en archivage sont bien rangés.

En ce qui concerne le partenariat entre les agents forestiers et les acteurs locaux, les agents formés ont commencé à former les membres des GGF en techniques de gestion forestière. Il est prévu que le Projet appuie les agents forestiers pour l'accompagnement des communes à mettre en œuvre la production des plants et des reboisements.

(2) *Résultat 2 : Les capacités des GGF et des UGGF des villages concernés sont renforcées en matière de gestion participative et durable des forêts*

Au total 14 nouveaux GGF ont été créés ; 13 GGF existants avant le Projet ont renouvelé leurs bureaux exécutifs et ont entamé des activités de gestion durable des ressources forestières dans les domaines suivants : la production des plants (par 5 GGF), le reboisement (par 7 GGF) et l'ouverture des pare - feux (par 3 GGF). Des activités génératrices de revenus ont été créées au profit des GGF. L'appui du Projet a également permis la redynamisation des activités des UGGF de Bounouna et deToumousséni.

(3) Résultat 3 : Les conditions de vie des populations locales sont améliorées

3.1) Certains GGF riverains des 4 forêts classées concernées par le Projet ont démarré des activités génératrices de revenus à travers :
- la valorisation des produits forestiers ligneux par la carbonisation ; cette activité est conduite par 3 GGF ;
- l'exploitation et la transformation des produits forestiers non ligneux : Les activités

portent sur la production du beurre de karité (11 GGF), l'apiculture (7 GGF), la récolte de plantes médicinales (8 GGF hommes / femmes), la production de Soumbala (7 GGF).

3.2) Au total 12 GGF ont réinvesti une partie des recettes engrangés dans l'achat de ruches modernes et de la matière première (graines de néré, amendes de karité).

(4) Résultat 4 : Les plans d'aménagement et de gestion (PAG) des 4 FC sont élaborés et connaissent un début de mise en œuvre

4.1) En vue de l'élaboration des PAG, le Projet a déjà réalisé les opérations suivantes :
- les inventaires forestiers des 4 forêts classées avec des relevés sur la présence de la faune ;
- l'étude sur les zones de production des produits forestiers et sur les promoteurs potentiels de ces produits ;
- l'étude sur les potentialités et la valorisation des produits forestiers non ligneux par les populations riveraines des forêts classées ;
- la collecte d'information sur le marché de bois de Banfora.

Le chronogramme de l'élaboration des PAG des 4 forêts classées a été défini. L'achèvement des projets de PAG est programmé pour la 3ème année de mise en œuvre du Projet.

4.2) L'élaboration d'un guide méthodologique pour la gestion durable des ressources forestières dans la zone sud-soudanienne du pays est prévue au cours de la 3ème année de mise en œuvre du projet.

4.3) A partir des expériences acquises dans la conduite des différentes activités, le Projet prévoit la rédaction et la diffusion à partir de la 3ème année, des manuels thématiques sur :
- la production des plants ;
- le reboisement ;
- la coupe de bois de chauffe ;
- la carbonisation ;
- la gestion des feux en milieu rural ;
- la gestion du pâturage ;
- la production du beurre de karité ;
- l'apiculture moderne ;
- l'exploitation des plantes médicinales.

4.4) Certains GGF ont déjà entamé les activités suivantes : production de plants, reboisement, gestion des feux de brousse, production de beurre de Karité de haute qualité, apiculture moderne et valorisation des plantes médicinales.

(5) *Résultat 5 : Les partenaires locaux et les services forestiers ont une relation de collaboration plus étroite pour la gestion durable des forêts*

5.1) Depuis son démarrage, le Projet a organisé 3 sessions du Comité de Pilotage ainsi que 3

séminaires des acteurs locaux, soit au total 6 rencontres. Pour le cas spécifique de 2009, le Projet a organisé 2 réunions du Comité de Pilotage et 1 séminaire des acteurs locaux.

5.2) La signature d'un protocole de collaboration entre le Projet et la DRECV / Cascades est prévue en janvier 2010.

5.3) Dans le cadre du partenariat avec la société civile, les Laboratoires Phytofla basés à Banfora, reconnus pour leurs grandes expertises dans la valorisation des plantes médicinales, a établi une collaboration avec certains GGF. C'est ainsi que Phytofla s'approvisionne en plantes médicinales auprès des GGF formés par ladite structure en collaboration avec le Projet. Un partenariat similaire est prévu avec la société BombaTechno sise à Banfora et spécialisée dans la transformation de certains produits forestiers non ligneux (lianes saba, sève du rônier, etc.).

4.1.3. Prévisions pour l'atteinte de l'Objectif spécifique du Projet

(1)L'élaboration des unités d'aménagement forestier (UAF) et du parcellaire de gestion de chaque forêt classée concernée démarrera en 2010 ; les données disponibles permettent d'entamer cette activité.

(2) Actuellement, la majorité des GGF formés par le Projet a débuté des activités de gestion forestière et de génération de revenus. Cela laisse entrevoir que les bases de la gestion durable des forêts par les populations locales sont en train d'être mises en place.

4.2 Examen du processus de la mise en œuvre du Projet (Cf. Annexe 8)

Deux (2) nouvelles activités ont été retenues à savoir :

- Activité 1.5 : Faire le suivi – contrôle périodique par l'équipe des forestiers concernés ;
- Activité 5.3 : Appuyer les services forestiers pour la supervision des activités forestières programmées dans les plans communaux de développement des communes concernées.

Ces activités ont été insérées dans le cadre logique du projet (PDM) pour appuyer les agents forestiers (niveaux déconcentré et central) dans leurs activités de suivi ainsi que pour soutenir les activités de reboisement au niveau des communes. Certains Indicateurs ont été modifiés pour qu'ils soient concrets et plus facilement vérifiables.

Le Projet a instauré un système de suivi spécifique des activités afin de mieux accompagner les GGF.

Dans la mise en œuvre de certaines formations en gestion forestière, le Projet a confié la tâche de formateur-facilitateur aux agents forestiers concernés afin de renforcer la relation de collaboration avec ces derniers.

La divergence de compréhension sur la coopération technique de la JICA qui existait entre la partie burkinabè et la partie japonaise au début du Projet a été atténuée.

Le budget de la contrepartie nationale a connu un retard d'exécution et une diminution du montant alloué annuellement. Malgré ces difficultés, les efforts mutuels des deux parties ont permis une mise en œuvre assez satisfaisante des activités suivant les différents plans d'opération.

5. Evaluation suivant les cinq critères

5.1 Pertinence

Au Burkina Faso, la gestion des forêts classées par les GGF est prevue par le Programme National de Gestion des Ressources Forestières qui émane de la politique forestière nationale. L'exploitation des produits forestiers notamment les produits forestiers non ligneux est également promue par ce Programme. Ces constats permettent d'affirmer que l'objectif du Projet est toujours en cohérence avec les besoins des populations locales, de la Région des Cascades et du Burkina Faso. En d'autres termes, le Projet est bien cohérent avec la politique forestiere nationale. Le Projet est également cohérent avec la politique de l'aide publique au développement du Gouvernement Japonais qui s'est engagé lors de la Conférence de TICAD IV tenue en 2008, à renforcer ses aides au profit des mesures contre les changements climatiques au niveau des pays africains.

L'approche adoptée pour la mise en œuvre du Projet est appropriée car ce dernier vise une gestion durable des forêts classsées à travers les GGF/UGGF ; ces forêts constituant les ressources vitales des populations locales. Les activités liées à l'élaboration des PAG prennent en compte les conditions particulières de chacune des 4 forêts classées ainsi que celles des populations riveraines. Ces interventions sont pertinentes, parce qu'il s'agit de protéger les ressources forestières tout en améliorant les conditions de vie des populations locales.

La pertinence du Projet est donc globalement forte.

5.2 Efficacité

La plupart des GGF créés ou redynamisés par le Projet ont démarré des activités visant la gestion forestière ou la génération de revenus après avoir suivi les formations dispensées à leur profit par le Projet. La relation de confiance se renforce entre les agents forestiers formés par le Projet et les populations locales. La collecte des données nécessaires à l'élaboration des PAG est actuellement en cours. Les fondements pour la gestion participative et durable des forêts classées concernées sont en train d'être mis en place.

Chaque Résultat Attendu contribue à l'atteinte de l'Objectif du Projet. Ce qui permet de prévoir l'atteinte dudit Objectif à son terme.

Les Conditions Extérieures à satisfaire en vue de la réalisation des Résultats Attendus sont définies comme suit (cf. PDM Version 2) :

- Les catastrophes naturelles susceptibles d'affecter les ressources forestières n'arrivent pas ;
- La bonne gouvernance est assurée à tous les niveaux ;
- L'approbation officielle des PAG des 4 FC est accordée par le gouvernement sans difficulté.

Aucun incident concernant les 2 premières Conditions n'a été relevé pour le moment. Quant à la troisième Condition, il a été confirmé que l'approbation d'un PAG par l'emsemble de structures prévues (CPAT, CRAT, et CNAT) par la loi, nécessite un temps long à cause des procédures. A ce jour, aucun PAG n'a pas encore été approuvé par le Gouvernement Burkinabè. Il se pose alors la question de savoir jusqu'à quelle étape la partie burkinabè pourra assurer l'approbation des PAG des 4 FC avant la clôture du Projet.

5.3 Efficience

Le niveau des intrants apportés par les deux parties est jugé globalement satisfaisant du point de vue qualitatif et quantitatif. Les intrants ont été affectés au moment adéquat. Ces intrants ont effectivement contribué à la réalisation des résultats du Projet. En ce qui concerne l'intrant de la partie japonaise, à la suite de la 2ème session du Comité de Pilotage du Projet, le budget de mise en œuvre a été revu à la hausse afin de renforcer davantage la coopération entre le Projet et les services forestiers. C'est ainsi qu'une décision a été prise par la partie japonaise pour affecter au Projet un budget supplémentaire. Le retard dans l'exécution ainsi que la réduction du montant du budget annuel de la contrepartie nationale burkinabè sont susceptible d'influer négativement sur la réalisation des Résultats Attendus.

5.4 Impacts

(1) Impacts positifs

- Amélioration des relations entre les agriculteurs et les éleveurs

A la suite de la mise en œuvre de la formation sur la gestion du pâturage dans certans villages des communes de Banfora et de Soubaka, l'adhésion des éleveurs aux GGF'est accrue. Ce qui a permis de réduire le nombre des conflits entre les agriculteurs et les éleveurs.

- Renforcement des capacités organisationnelles des populations cibles

Le renforcement des capacités organisationnelles réalisé au profit des GGF a eu un impact positif qui va au - delà de la gestion des ressources forestières. En outre, il a permis de renforcer la capacité organisationnelle entière des villages d'appartenance des GGF. A titre d'exemple, les femmes membres des GGF parviennent à mieux s'exprimer au cours des rencontres tenues au niveau des villages. Le renforcement des capacités a eu également un impact positif sur le « genre ».

- Rapprochement entre les agents forestiers et les populations locales
Les relations entre les agents forestiers et les populations se sont améliorées grâce à la mise en œuvre du Projet. L'agent forestier est plutôt perçu comme un agent de développement qu'un agent de repression.

(2) But Global
Il est certes trop tôt pour prévoir la probabilité de l'atteinte du But Global. Toutefois, il serait possible que certaines des activités introduites par le Projet soient continuellement menées par les populations locales au-delà de l'atteinte de l'objectif du Projet au moins à l'intérieur des forêts classées concernées. Par contre, si la zone d'intervention ciblée dans le but globale du Projet est « la zone sud-soudanienne », vue l'étendu de celle-ci, l'atteinte de ce but sera difficile.

5.5 Durabilité

Aspects institutionnels
Compte tenu des problèmes de désertification entraînant la diminution des ressources forestières du pays, l'orientation du Gouvernement Burkinabè qui consiste à responsabiliser les GGF/UGGF dans la gestion des forêts classées suivant les prescriptions définies à travers des PAG se poursuivra.

Pour la durabilité et l'extension des acquits du Projet, il est nécessaire de poursuivre les efforts visant le renforcement des capacités des agents forestiers en matière d'approche participative.

Aspects financiers
Compte tenu du retard dans l'exécution et de la réduction du montant annuellement alloué par la contrepartie nationale, il faudra que la partie burkinabè mobilise après la fin de la coopération, le budget nécessaire pour assurer la durabilité des acquis du Projet.

Aspects techniques
Le personnel des services forestiers est doté de conaissances nécessaires pour la mise en oeuvre et la diffusion de techniques de gestion des ressources forestières. Il faudra l'accompagnement des GGF par les agents forestiers pour que ces GGF puissent développer de manière autonome des activités économiquement viables.

Le développement du partenariat avec les acteurs locaux notamment avec des sociétés privées est aussi important pour que les GGF poursuivent leurs activités.
Les techniques de gestion des ressources forestières enseignées par le Projet valorisent au maximum le savoir faire local. Ces techniques sont bien appréciées par les homologues burkinabè et par les GGF. Il a été constaté qu'au fur et à mesure que les activités sont mises

en œuvre, la motivation d'apprentissage chez les homologues et les GGF s'est accrue. Les apprenants ont déjà commencé à mettre en pratique ce qu'ils ont appris. Ces constats permettent d'affirmer que la probabilité d'assurer la durabilité du Projet en ce qui concerne l'aspect technique sera élevée.

6. Conclusion

L'objectif du Projet est toujours pertinent ; il est en cohérence avec la politique du Gouvernement Burkinabè en matière de gestion des ressources forestières et avec la politique de l'aide publique au développement du Gouvernement Japonais.

Au début de sa mise en œuvre, le Projet a connu un certain retard dans la réalisation des activités dû à une divergence de compréhension sur la philosophie d'intervention du Projet, entre la partie burkinabè (services forestiers, population) et la partie japonaise. Cette situation s'est améliorée grâce aux efforts mutuels des deux parties, ce qui fait qu'aujourd'hui les activités du Projet se déroulent presque comme prévu excepté celles concernant l'élaboration des Plans d'Aménagement et de Gestion (PAG) des 4 forêts classées qui accuse un léger retard. Pour cette dernière intervention, les dispositions prises par le service forestier et l'équipe du Projet laissent entrevoir son démarrage en 2010.

Quant au budget de la contrepartie nationale, il n'a pu être mobilisé au cours de la première année (2007). A partir de la 2ème année, la partie burkinabè s'est efforcée d'assurer ce budget jusqu'à un certain niveau. Des efforts restent à poursuivre pour la mobilisation de la contrepartie nationale en vue de l'atteinte de l'objectif du projet.

Les activités réalisées par le Projet au bénéfice des agents forestiers concernés ont permis le renforcement de leurs capacités en gestion participative et durable des ressources forestières. Les activités visant une telle gestion sont d'ores et déjà entamées par les GGF.

Enfin, le partenariat entre les services forestiers déconcentrés et les acteurs locaux sont en voie de consolidation.

Les différents constats ci-avant montrent que la probabilité d'atteindre l'objectif du Projet serait d'autant plus élevée que si les PAG sont élaborés sans trop de retard et que l'engouement des populations tel que constaté actuellement se maintienne.

7. Recommandations

(1) Au Burkina Faso, les différentes instances prévues par la loi pour l'approbation des PAG des forêts sont :
- la Commission Provinciale d'Aménagement du Territoire (CPAT) ;
- la Commission Régionale d'Aménagement du Territoire (CRAT);
- la Commission Nationale d'Aménagement du Territoire (CNAT).

Compte tenu de la longueur des procédures liées à l'adoption des documents par ces structures, le Projet appuiera l'approbation des PAG des 4 forêts classées jusqu'à l'étape de la CPAT. Pour les autres étapes, il serait nécessaire que la partie nationale, à travers la Direction des Forêts, prenne les dispositions nécessaires pour leur aboutissement.

(2) Pour la réalisation de certains travaux d'aménagement dans les 4 forêts classées, il est nécessaire de disposer du budget de la contrepartie nationale à temps et au montant annuel prévu par l'Entente de Coopération régissant le Projet.

(3) Pour mieux répondre à la situation réelle de la mise en œuvre du Projet, il est opportun d'apporter des modifications dans la dernière version du Cadre Logique (PDM) adopté en 2009 par le Comité de Pilotage. Les points concernés sont :

(3.1). Le But Global du Projet : En vue de son atteinte en 3 ans à compter de la fin du Projet, et afin de le clarifier davantage, ce sont les 4 forêts classées qui devraient être visées en lieu et place de « la zone Sud-Soudanienne ». L'indicateur à retenir à cet effet sera : «Dans les 4 forêts classées ciblées par le Projet, les activités initiées sont poursuivies par les GGF/UGGFuivant les PAG élaborés».

(3.2). Etant donné l'insécurité (vols à main armée, développement de l'orpaillage) dans la zone d'intervention du Projet, il est nécessaire de faire figurer « la sécurité » parmi les Conditions Extérieures à remplir pour l'atteinte de l'Objectif du Projet.

(3.3). La gestion participative des forêts classées est une option fortement promue au niveau du Burkina Faso. C'est la raison pour laquelle une mise en œuvre rapide de celle-ci au niveau des 4 forêts classées concernées par le Projet doit être une priorité. Or, étant donné que le processus de l'approbation d'un PAG comprend plusieurs étapes et que le temps à y consacrer est long, l'approbation des PAG des 4 forêts classées prévue parmi les Conditions Extérieures à remplir pour l'atteinte de l'Objectif du Projet devrait être ramenée au niveau des Conditions Extérieures à remplir pour l'atteinte du But Global.

(4) Pour une capitalisation efficiente des acquis du Projet, la mutation des agents forestiers formés en tant qu'homologues du Projet devrait faire l'objet d'une attention particulière.

(5) Pour une meilleure appropriation des acquis du Projet par le service forestier, il est nécessaire de renforcer sa participation à l'exécution et au suivi des activités à travers un appui financier complémentaire à la contrepartie nationale, en frais de carburant et de lubrifiant. Les modalités de cet appui seront définies entre les deux (2) parties.

(6) Pour une meilleure participation des communes riveraines des 4 forêts classées dans la

gestion des ressources forestières, il est nécessaire que le service forestier renforce leurs capacités.

(7) Au cours de l'année 2010, l'élaboration des PAG sera entamée. Il est nécessaire de prévoir le renforcement des travaux d'aménagement dans les 4 forêts classées afin de permettre aux GGF de s'initier à ce type d'activités avant la clôture du Projet. Cela requiert la mobilisation par le Projet de ressources financières complémentaires à la contrepartie nationale.

(8) La Partie Burkinabè a constaté qu'il y a eu beaucoup de formations et peu d'équipements au profit des GGF. En outre, les besoins en équipements ont été mal identifiés. C'est ainsi que les équipements octroyés par le Projet n'atteignent pas le niveau minimum requis pour assurer une durabilité des activités des GGF à la fin du Projet. La Partie Burkinabè a donc souhaité que certaines formations qui ne lui semblent plus pertinentes soient remplacées par de l'équipement.

Sur ce point, la partie japonaise estime qu'il faudra accorder une attention particulière aux dons supplémentaires d'équipements aux GGF car cela pourrait constituer un facteur entravant l'auto-promotion et les efforts de réinvestissement des GGF bénécifiaires. En ce qui concerne l'identification des besoins des GGF, elle a été faite à partir des résultats de l'ex-projet d'Etude sur la Gestion des Forêts Classées dans la Province de la Comoé (2002-2005). L'actuel Projet a poursuivi et poursuivra cette identification des besoins réels des populations locales à travers les communications directes et regulières avec ces dernières.

Un terrain d'entente n'ayant pas été trouvé, les deux parties devront poursuivre la réfléxion sur ce sujet avant la prochaine session du Comité de Pilotage du Projet.

ANNEXE1 :	Cadre Logique du Projet (PDM) ver.2
ANNEXE2 :	Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé (PO)
ANNEXE3 :	Réalisation de la mise en œuvre du Projet
ANNEXE4 :	Moyens humains mis en place
ANNEXE5-1 :	Moyens physiques mis en place par la Partie Japonaise
ANNEXE5-2:	Moyens Physiques Mise en Place par la Partie Burkinabé
ANNEXE6 :	Structure d'execution
ANNEXE7 :	Etapes et Chronogramme d'élaboration des PAG
ANNEXE8 :	Examen du processus de mise en œuvre du Projet
ANNEXE9 :	Realisation Physique Par Rapport Aux Iov Du Cadre Logique Du Projet (PDM) ver.2 (document établi par l'équipe du Projet)

ANNEXE 1

CADRE LOGIQUE DU PROJET (PDM) ver.2

Date de révision : le 17 juillet 2009

Titre de Projet : Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé
Durée du Projet : 5 ans (Juillet 2007 à Juin 2012)
Structures exécutantes : MECV : SG, DGCN, DIFOR, DR des Cascades, DP de la Comoé
Structures de collaboration : Gouvernorat des Cascades, Haut Commissariat de la Comoé, Communes de Banfora, Thiéfora, Sidéradougou et Soubakaniédougou, DR du MAHRH des Cascades, DR du MRA des Cascades, DR du MPF des Cascades, DGCOOP du MFE
Zone d'intervention : Forêts classée de Bounouna, Toumousséni, Gouandougou et Kongouko et leurs environs
Groupes ciblés : Populations riveraines des 4 forêts classées ciblées, personnel de l'administration forestière

	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
But Global La gestion participative et durable des forêts dans la zone Sud-Soudanienne est assurée par la population locale.	– Les plans d'aménagement et de gestion participative et durable pour les forêts situées dans la zone Sud-Soudanienne et les activités de gestion forestière durable y sont démarrés par la population locale. – Dans les 4 forêts classées ciblées du Projet, les activités initiées dans ce cadre sont poursuivies par les GGF/UGGF suivant les PAG élaborés.	– Rapports d'activités des GGF et UGGF – Rapports de suivi/contrôle des services techniques – Rapport d'études sur la situation des forêts dans la Région des Cascades – Présence physique des réalisations	– La politique nationale en matière de la gestion durable et participative des forêts se poursuit.
Objectif du Projet Les activités visant la gestion durable des 4 forêts classées de Bounouna, Toumousséni, Gouandougou et Kongouko sont menées par la population locale à travers les GGF et les UGGF	Par rapport au moment du commencement du Projet, – les forêts classées ciblées du Projet sont dotées du zonage clairement défini qui constitue la base des activités de gestion forestière assurée par les GGF/UGGF. – Les objectifs d'aménagement de chaque forêt classée ciblée sont bien déterminés et les activités de gestion forestière conformes à ces objectifs sont effectuées par les GGF/UGGF de façon durable	– Rapports d'activités des GGF et UGGF – Rapports de suivi/contrôle des services techniques	– La situation socio-économique de la région des Cascades ne se dégrade pas.

Résultats Attendus	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
1. Les capacités des services forestiers (centraux et déconcentrés) à appuyer les populations en matière de la gestion participative et durable des forêts sont renforcées.	Les agents forestiers concernés par le Projet ont reçu les formations en gestion participative et durable des forêts au nombre d'au moins 4 au niveau central et 6 au niveau déconcentré et accompagnent efficacement les acteurs locaux.	– Rapports d'évaluation des capacités – Rapports d'évaluation des formations – Rapports périodiques du Projet	– Les catastrophes naturelles susceptibles d'affecter les ressources forestières n'arrivent pas. – L'approbation officielle des PAG des 4 FC est accordée par le gouvernement sans difficulté. – La bonne gouvernance est assurée à tous les niveaux.
2. Les capacités des GGF et des UGGF des villages concernés sont renforcées en matière de gestion durable des ressources forestières	– 27 GGF et 4 UGGF sont nouvellement créés ou redynamisés. – Les GGF/UGGF commencent à effectuer des activités de gestion forestière en utilisant les techniques acquises avec la formation.	– Rapports périodiques du Projet – Récépissés de reconnaissance des GGF et UGGF - Rapports d'activités des GGF et UGGF	
3. Les conditions de vie des populations locales sont améliorées	– Les GGF commencent à effectuer des activités génératrices de revenu en valorisant les produits forestiers ligneux et non ligneux. – Les GGF prennent leurs initiatives pour le réinvestissement en matériels nécessaires à leurs activités..	– Rapports périodiques du Projet – Rapport d'évaluation à mi-parcours – Présence physique des biens et services	
4. Les Plans d'Aménagement et de Gestion (PAG) des 4 FC sont élaborés et connaissent un début de mise en œuvre.	– Les PAG sont élaborés au nombre de 1 pour chaque forêt classée ciblée, soit au total 4. – Un Guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone Sud – Soudanienne est élaboré. – Les manuels pratiques de gestion participative et durable des forêts au profit des populations locales sont élaborés au moins pour 8 thèmes. – Les GGF/UGGF commencent à effectuer de façon durable au moins 4 types d'activité de gestion forestière suivant le PAG.	– PAG amendés au niveau du MECV – Guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud -soudanienne – Manuels pratiques de gestion participative et durable des forêts	
5. Les partenaires locaux et les services forestiers ont une relation de collaboration plus étroite pour la gestion durable des forêts	– Les rencontres avec les acteurs locaux et les représentants des autorités locales et des services techniques concernés se tiennent au moins 3 fois par an. – Un protocole de coopération est passé entre le Projet et la Direction Régionale du MECV des Cascades. – Les relations de collaboration sont établies avec les sociétés civiles de la localité.	– Comptes rendus des rencontres – Rapports périodiques du Projet – Documents de protocole, contrat	

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
A0.1. Faire la revue des études réalisées ainsi que les résultats des projets similaires	- Les documents et les rapports existants (copie et original) sont collectés et consultés.	- Liste de documents collectés - Rapports périodiques du Projet	
A0.2. Mettre en place le bureau du Projet au niveau local ainsi que les ressources humaines et matérielles nécessaires pour l'exécution des activités	- Un bureau de projet est mis à la disposition du Projet. - Le personnel d'appui est recruté dans le cadre du Projet au nombre de 5. - Le Projet est doté de matériels roulants, des équipements informatiques et bureautiques nécessaires à la mise en œuvre des activités du Projet.	- Liste de mobiliers - Rapports périodiques du Projet - Contrats de travail - Fiches de pointage - Présence physique	
A0.3. Mettre en place un mécanisme de coordination de la mise en oeuvre du Projet	- Le Coordonnateur National est affecté au Projet par l'arrêté ministériel. - La session du comité de pilotage est tenue 2 fois par an.	- Arrêté ministériel portant nomination du Coordonnateur National - Arrêté ministériel portant mise en place du comité de pilotage - Rapports et/ou comptes-rendus du Projet	

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
A1.1. Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des services forestiers au niveau central et déconcentré en vue de leur renforcement	- Les sessions d'auto-évaluation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré - Au moins 10 forestiers y participent au niveau central et au niveau déconcentré.	- Compte-rendu d'évaluation des capacités des forestiers - Rapports périodiques du projet	
A1.2. Réaliser des formations et des ateliers en matière de conception et de mise en œuvre des plans d'aménagement et de gestion participative des forêts au profit des services forestiers	- Les sessions de formation sont tenues 2 fois au niveau central et 2 fois au niveau déconcentré. - La formation traite au moins 2 thèmes. - Les forestiers y participent au nombre cumulatif de 20 (10x2) au niveau central et de 20 (10x2) au niveau déconcentré.	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet	
A1.3. Réaliser des formations sur les techniques de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers	- Les sessions de formation sont tenues 2 fois au niveau déconcentré. - Les forestiers y participent au nombre cumulatif d'au moins 20 (10x2).	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet	
A1.4. Réaliser des formations sur le suivi – évaluation des activités de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers	- Les sessions de formation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré. - Les forestiers y participent au nombre de 10 (10x1) au niveau central et 10 (10x1) au niveau déconcentré.	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet	
A1.5. Faire le suivi/contrôle périodique par l'équipe des forestiers concernés*1	- Le suivi est effectué 1 fois par trimestre, soit 4 fois par an.	- Rapports de suivi (préparé par l'équipe de suivi)	

*1 : L'équipe des forestiers est composée du DR des Cascades, de la DP de la Comoé, d'un représentant du SAFOR/DIFOR et un représentant du Suivi-Ecologique et de la Statistique

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
A2.1. Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des GGF et des UGGF existants	- La rencontre d'évaluation est effectuée 1 fois par village, soit au total 24 fois.	- Compte-rendu de rencontre d'évaluation - Rapports périodiques du Projet	
A2.2. Renforcer les capacités techniques et organisationnelles des GGF et des UGGF existants dans les villages concernés par le Projet	- Les sessions de formation sont tenues 2 fois. - Les membres de bureaux sont renouvelés dans 13 GGF existants. - La formation est effectuée avec les thèmes de « Prise en note et gestion comptable » et « Planification ».	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet - Procès-verbaux d'assemblée générale	
A2.3. Promouvoir la création de nouveaux GGF et UGGF dans les villages riverains des 4 FC	- 14 GGF et 2 UGGF respectivement pour la FC de Gouandougou et celle de Kongouko sont nouvellement créés.	- Rapports périodiques du Projet - Procès-verbaux de création de GGF - Récépissés de reconnaissance	
A2.4. Réaliser des formations sur les techniques de gestion forestière (pépinière, plantation, gestion des feux, exploitation du bois de chauffe, bois d'œuvre, carbonisation, PFNL, etc.)*2	- Les sessions de formation avec 8 thèmes différents sont tenues au moins 1 fois pour 1 GGF, soit au total 216 (8 x 27). - Au moins 10 membres de GGF y participent pour une session, soit au total 2160 (10 x 216).	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet	
A2.5. Réaliser des formations sur les techniques de négociation et de vente des produits forestiers au profit des GGF et des UGGF	- Les sessions de formation sont tenues 1 fois par GGF, soit au total 27 fois. - Les membres de GGF y participent au nombre d'au moins 10 par GGF, soit au total 270 (10 x 27).	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet	
A2.6. Réaliser les formations sur le suivi-évaluation des activités des GGF et des UGGF	- Les sessions de formation sont tenues 1 fois par GGF, soit au total 27 fois. - Les membres de GGF y participent au nombre d'au moins 10 par GGF, soit au total 270 (10 x 27).	- Rapports de formation - Rapports périodiques du Projet	

*2 : Mode de mise en œuvre : par le bureau d'étude et/ou par le personnel de service technique d'Etat avec le Projet

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
A3.1. Evaluer les besoins en infrastructures et équipements socio-économiques prioritaires de la population locale et analyser leur faisabilité	- Une liste des besoins identifiés est établie avec la mention de faisabilité	- Rapports périodiques du Projet	
A3.2. Planifier et réaliser des activités visant la valorisation des ressources ligneuses et non ligneuses par la population locale	- Au moins 6 types d'activité*3 sont sélectionnées parmi celles énumérées par les membres de GGF et ces activités sont planifiées et mises en œuvre.	- Plans élaborés - Rapports périodiques du Projet - Produits valorisés	
A3.3. Planifier et réaliser des activités visant la satisfaction des besoins en infrastructures socio-économiques prioritaires retenues au profit de la population locale	- Au moins 1 type d'infrastructures est sélectionné parmi ceux énumérés par les membres de GGF et l'aménagement de ce type d'infrastructure est planifié et réalisé.	- Plans élaborés - Rapports périodiques du Projet - Réalisations physiques	

*3 :Production de bois de chauffe, production de charbon de bois, Amélioration de la qualité de beurre de Karité, Valorisation des plantes médicinales, Apiculture, Amélioration de la qualité de Soumbala,

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions extérieures
A4.1. Elaborer le PAG de chaque FC	- 1 PAG est élaboré pour chaque FC ciblée, soit au total 4.	- Documents PAG adoptés - Rapports périodiques du Projet	
A4.2. Démarrer les activités de gestion forestière conformément aux prescriptions des PAG élaborés	- L'élaboration de PAG commence en octobre 2009 et les activités concrètes suivant le PAG sont démarrées en octobre 2010.	- Rapports périodiques du Projet - Réalisations physiques	
A4.3. Elaborer un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud – soudanienne du pays	- Un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud-soudanienne est élaboré.	- Document guide - Rapports périodiques du Projet - Rapport d'atelier d'adoption - Comptes-rendus de rencontres d'élaboration	
A4.4. Etablir des guides pratiques appropriés pour la population locale en matière de gestion forestière participative	- Les manuels pratiques pour 8 thèmes différents sont élaborés.	- Documents manuels - Rapports périodiques du Projet	

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Sources de vérification	Conditions préalables
A5.1. Organiser des séminaires pour présenter le Projet aux autorités locales et aux services concernés	- Le séminaire des acteurs locaux est organisé 1 fois par ans, soit au total 5 fois durant le Projet. - Au moins 80 participants sont présents dans chaque séminaire.	- Comptes-rendus de séminaire - Rapports périodiques du Projet	La politique gouvernementale du BF en matière de gestion participative et durable des forêts existe.
A5.2. Réaliser des échanges et diffuser des informations sur le Projet à travers des rencontres techniques, des rapports d'activités et des différents canaux d'information	- La session du comité de pilotage est tenue 2 fois par an, soit au total 10 fois durant le Projet. - Au moins 29 types de rapports d'activités sont préparés. - Le journal de Projet est publié 12 fois. - Le voyage d'étude est organisé 3 fois.	- Rapports périodiques du Projet - Comptes-rendus de Comité de pilotage - « New Letters » publiés - Comptes-rendus de voyage d'étude - Rapport d'atelier de restitution	
A5.3. Appuyer le service forestier pour la supervision des activités forestières programmées dans les Plans de Développement Communal des Communes concernées	- Les forestiers concernés effectuent au moins 1 fois par trimestre, soit 4 fois par an une supervision des activités du secteur forestier inclues dans le Plan de Développement Communal.	- Rapports de supervision - Rapports périodiques du Projet : - Réalisations physiques	

« Intrants »

Partie japonaise :

- **Experts japonais**
  - Conseiller Technique Principal
  - Expert en gestion participative des forêts
  - Gestionnaire financier
  - Autres experts selon les besoins de l'étude afin de mettre en œuvre efficacement le Projet

- **Equipement :**
  - Véhicule(s) tout terrain
  - Moto(s) tout terrain
  - Equipements pour la gestion forestière
  - Equipements pour la mise en œuvre des activités visant l'amélioration des conditions de vie de la population locale
  - Autres équipements nécessaires

- **Formation du personnel burkinabè au Japon**

Partie burkinabè :

- **Personnel homologue du Projet**
  - Directeur des Forêts
  - Directeur de la DRECV des Cascades
  - Directeur de la DPECV de la Comoé
  - Coordonnateur du Projet
  - Agents forestiers concernés

- **Personnel d'appui :**
  - Secrétaire/comptable
  - Agent de liaison
  - Chauffeur
  - Gardien

- **Locaux et commodités :**
  - Locaux (bureau et magasin) nécessaire pour l'exécution du Projet
  - Eau et électricité nécessaires pour l'exécution du Projet
  - Autres commodités jugées nécessaires d'un commun accord

- **Dépenses courantes**

ANNEXE2: Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé (PO)

:Exécution

: Exécution discontinue

Correspondant à la version 2

le 10/1/2010

	Activité	Responsable	2007	2008	2009	2010	2011	2012	Principaux moyens mis en place	Avancement (Décembre 2009)
			Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr		
0.Préparatifs									Jp: CTP, Gestionnaire administratif, Développement participatif (1)	
0-1	Faire la revue des études réalisées ainsi que les résultats des projets similaires	Experts japonais, CN								A partir du juin 2007, les informations sont collectés au fur et à mesure.
0-2	Mettre en place le bureau du Projet au niveau local ainsi que les ressources humaines et matérielles nécessaires pour l'exé cution des activités	DRECV, CTP, Difor							Jp: Acquisition des matériels roulants, informatiques et bureautiques, Recrutement du personnel d'appui au projet, Frais de fonctionnement du projet comme frais de carburant, etc., coût d'installation du magasin et garage Bf: Acquisition du véhicule et des ordinateurs, Recrutement du personnel d'appui au projet	Jp: Le bureau de projet mis en place à la fin de juillet 2007. Les matériels informatiques et bureautiques acquis. 1 chauffeur recruté en août 2007, une secrétaire/comptable et 1 facilitateur assistant en septembre 2007. Actuellement, 3 facilitateurs assistants, 2 chauffeurs, 1 secré taire/comptable travaillent en tant que prestataires. Bf: Actuellement 1 secrétaire/comptable, 1 chauffeur, 1 agent de liaison et 1 gardien sont employés par la contrepartie nationale comme contractuels.
0-3	Mettre en place un mécanisme de coordination de la mise en oeuvre du Projet	DGCN, DiFor								Le CN a pris poste en août 2007.
1."Les capacités des services forestiers (centraux et dé concentrés) à appuyer les populations en matière de la gestion participative et durable des forêts sont renforcées."									Jp: CTP, Adjoint au CTP/amélioration du cadre de vie, Développement participatif (1) et (2) et gestionnaire administratif	
1-1	Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des services forestiers au niveau central et déconcentré en vue de leur renforcement.	DRECV DPECV								Evaluation des capacités faite au niveau central et régional en août 2007
1-2	Réaliser des formations et des ateliers en matière de conception et de mise en œuvre des plans d'aménagement et de gestion participative des forêts au profit des services forestiers	DiFor DRECV DPECV							Jp: Coût des travaux à confier aux bureaux d'étude burkinabè	Au total 12 fois de formations organisées à partir du septembre 2007 au niveau central et régional.
1-3	Réaliser des formations et des ateliers en matière de conception et de mise en œuvre des plans d'aménagement et de gestion participative des forêts au profit des services forestiers	DRECV DPECV								Formation relative à l'apiculture moderne et aux PFNL organisée en janvier 2008
1-4	Réaliser des formations sur le suivi – évaluation des activités de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers.	DRECV DPECV								Formation faite en novembre 2008 au niveau central et régional
1-5	Faire le suivi périodique par l'équipe des forestiers concernés.	DRECV DPECV								La 1ère sortie prévue pour le début janvier 2010

ANNEXE2: Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé (PO)

	Activité	Responsable	2007	2008	2009	2010	2011	2012	Principaux moyens mis en place	Avancement (Décembre 2009)
			Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr		
2. "Les capacités des GGF et des UGGF des villages concernés sont renforcées en matière de gestion durable des ressources forestières"									Jp: CTP, Adjoint au CTP/amélioration du cadre de vie, Développement participatif (1) et (2) et gestionnaire administratif	
2-1	Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des GGF et des UGGF existants.	DRECV DPECV								Evalation des capacités faite en août et septembre 2007dans les villages accessibles
2-2	Renforcer les capacités techniques et organisationnelles des GGF et des UGGF existants dans les villages concernés par le Projet.	DRECV DPECV							Jp: Acquisition des matériels pour la formation directe du projet, coût des formations à cnfier aux bureaux d'étude burkinabè	A prtir du mai 2008, la formation pour le renforcement des capacités orgnaisationnelles de GGF est faite pour 27 GGF. Le suivi continue en cette matière.
2-3	Promouvoir la création de nouveaux GGF et UGGF dans les villages riverains des 4 FC.	DRECV DPECV								14 GGF sont nouvellement mis en place. Le nombre total de GGF est de 27. 2 UGGF seront créées.
2-4	Réaliser des formations sur les techniques de gestion forestière (pépinière, plantation, gestion des feux, exploitation du bois de chauffe, bois d'œuvre, carbonisation, PFNL, etc.) (Mode de mise en œuvre : par le bureau d'étude et/ou par le personnel de service technique d'Etat avec le Projet)	DRECV DPECV							Jp: Coût des formations à confier aux entités spé cialisées, coût pour les formations à effectuer avec les services techniques	Les formations sont réalisées au fur et à mesure depuis le janvier 2008 pour tous les GGF cibles.
2-5	Réaliser des formations sur les techniques de négociation et de vente des produits forestiers au profit des GGF et des UGGF.	DRECV DPECV								Ce thème est inclu dans les formations indiquées 2-4.
2-6	Sensibiliser les populations locales sur la conservation des forêts.	DRECV DPECV								La sensibilisation est incluse également dans les formations citées 2-4.
2-7	Réaliser les formations sur le suivi-évaluation des activités des GGF et des UGGF.	DRECV DPECV								Ce thème est traité dans les formations "prise de notes et gestion comptable" et "planification et gestion des revenus".
3."Les conditions de vie des populations locales sont améliorées"										
3-1	Evaluer les besoins en infrastructures et équipements socio-économiques prioritaires de la population locale et analyser leur faisabilité.	DPECV							Jp: Coût pour l'étude de faisabilité sur l'installation des puits (confiée au bureau d'étude burkinabè)	Les besoins des popolations sont recensés au fur et à mesure dans les opérations faites sur le terrain.
3-2	Planifier et réaliser des activités visant la valorisation des ressources ligneuses et non ligneuses par la population locale.	DPECV							Jp: Côut pour l'étude sur la valorisation des PFNL (confiée au bureau d'étude burkinabè)	En liaison avec les formations en technique de gestion forestière, les activités économiques avec la valorisation des PFNL sont mises en œuvre depuis la 2ème année 1.
3-3	Planifier et réaliser des activités visant la satisfaction des besoins en infrastructures socio-économiques prioritaires retenues au profit de la population locale.	DPECV								Identique à 3-2

	Activité	Responsable	2007	2008	2009	2010	2011	2012	Principaux moyens mis en place	Avancement (Décembre 2009)
			Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr Juil Oct	Jan Avr		
	4.Les Plans d' Aménagement et de Gestion (PAG) des 4 FC sont élaborés et connaissent un début de mise en oeuvre.								Jp: CTP, Adjoint au CTP/Amélioration du cadre de vie	
4-1	Elaborer le PAG de chaque FC.	DPECV							Jp: Coût pour l'inventaire forestier Bf: Coût pour les réunions du comité d'élaboration	L'équipe d'élaboration des PAG mis en place au niveau régional en 2 ème année 2. Le programme de travail, le canevas de PAG et la ré partition des tâches de rédaction sont provisoirement déterminés. Une série d'entretien avec les personnes concernées comprenant celles au niveau central commencera en janvier 2010.
4-2	Démarrer les activités de gestion forestière conformément aux prescriptions des PAG élaborés.	DPECV								Une partie des activités à mener au niveau de GGF dans le cadre du PAG sont déjà démarrées en avance.
4-3	Elaborer un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud -soudanienne du pays (à laquelle apprtient la Province de la Comoé)	DRECV DPECV								Le draft sera préparé en 3ème année.
4-4	Etablir des guides pratiques appropriés pour la population locale en matière de gestion forestière participative.	DRECV DPECV								Le draft sera préparé en 3ème année.
	5."Les partenaires locaux et les services forestiers ont une relation de collaboration plus étroite pour la gestion durable des forêts."								Jp: CTP, Adjoint au CTP/amélioration du cadre de vie, Développement participatif (1) et (2) et gestionnaire administratif	
5-1	Organiser des séminaires pour présenter le Projet aux autorités locales et aux services concernés.	DRECV DPECV							Jp: Coûts pour l'atelier de lancement du projet et les séminaires locaux	
5-2	Réaliser des échanges et diffuser des informations sur le Projet à travers des rencontres techniques, des rapports d'activités et des différents canaux d'information.	DRECV DPECV							Jp: Coûts pour le 1er et le 3ème comité de pilotage, coût pour la publication des nouvelles du projet Bf: Coût pour le 2ème comité de pilotage	La tenue du comité de pilotage est prévue 2 fois par an. Cependant, é tant donné que la publication du decrêt portant mise en place du comité de pilotage a eu du retard, le comité de pilotage est organisée une seule fois en 1ère année. Le comité n'est pas tenu en 2ème anné e 1 dont la durée est trop courte. En 2ème année 2, le comité est organisé deux fois. Après la publication de la 1ère nouvelle du projet en décembre 2007, on compte au total 6 nouvelles périodiques et 1 nouvelle extraordinaire jusqu'au présent.
5-3	Appuyer le service forestier pour la supervision des activités forestières programmées dans les Plans de Développement Communal des Communes concernées.	DRECV DPECV								Il est prévu de commencer cette opération à partir de 2010.

ANNEXE 3 : Réalisation de la mise en œuvre du Projet

Les résultats actuels de la mise en œuvre du Projet au 31 décembre 2009 se présentent comme suit :

(1) Réalisation de l'intrant

<table>
<tr><th>PDM/RD</th><th>Sources de vérification</th><th>Résultat (au 31 décembre 2009)</th></tr>
<tr><td colspan="3">1 . Partie burkinabé</td></tr>
<tr><td>1.1 Personnel Contrepartie (C/P), Directeur du Projet, Chef du Projet, Personnel d'appui, etc.</td><td>Rapports du Projet, Archives</td><td>Les 30 C/P sont actuellement mises à disposition du Projet par le MECV, dont le Coordonnateur National seul est affecté à plein temps. Les autres P/C cumulent leurs fonctions. Le personnel d'appui est contractuel grâce au budget contrepartie national.

Tab. 1.1-a : C/P affecté par l'organisme exécutant à la date du 31 décembre 2009
<table>
<tr><th colspan="2">Organisme</th><th>Fonction</th><th>Nombre</th></tr>
<tr><td>1</td><td>DIFOR</td><td>Superviseur</td><td>2</td></tr>
<tr><td>2</td><td>DRECV/ Cascades</td><td>Superviseur</td><td>8</td></tr>
<tr><td>3</td><td>DPECV / Comoé</td><td>Homologue</td><td>4</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Coordonnateur National</td><td>Chef du Projet</td><td>1</td></tr>
<tr><td>5</td><td>SDECV</td><td>Autorité compétente de FC</td><td>15</td></tr>
<tr><td colspan="3">Total</td><td>30</td></tr>
</table>
Tableau 1.1-b: Personnel d'appui en décembre 2009
<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>Nombre</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Comptable</td><td>1</td></tr>
<tr><td>2</td><td>Chauffeur</td><td>1</td></tr>
<tr><td>3</td><td>Chargé de pépinière</td><td>1</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Agent de liaison (départ du projet)</td><td>0</td></tr>
<tr><td>5</td><td>Gardien</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="2">Total</td><td>4</td></tr>
</table>
* Cf. Doc.4</td></tr>
<tr><td>1.2 Terrain, Locaux, Installation</td><td>Rapports du Projet, Archives</td><td>A partir du mois d'août 2007, la DRECV / Cascades a mis à la disposition du Projet trois salles avec mobilier pour y installer le bureau du Projet. Un hangar a été construit en juillet 2009 au frais de la partie japonaise au sein de la DRECV des Cascades.</td></tr>
<tr><td>1.3 Budget de la mise en œuvre</td><td>Rapports du Projet, Archives</td><td>Depuis le début du Projet 67,740 millions de FCFA ont été dépensés au titre du budget de la contrepartie nationale du Projet.
Situation de dépense suivant l'année fiscale burkinabé
(janvier - décembre)
<table>
<tr><th>année fiscale burkinabé</th><th>2007 (juillet-décembre)</th><th>2008</th><th>2009</th><th>2010 (-janvier)</th><th>Total</th></tr>
<tr><td>Montant (1000FCFA)</td><td>0</td><td>42.740</td><td>25.000</td><td>-</td><td>67.740</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td colspan="3">2. Partie japonaise</td></tr>
<tr><td>2.1 Expert japonais</td><td>Rapports du Projet, Archives</td><td>La période d'affectation des experts japonais en fonction de leurs spécialités se présente comme suit depuis le début du Projet jusqu'en fin janvier 2010:</td></tr>
</table>

		Experts / Spécialités | Nombre | HM CTP／Gestion forestière | 1 | 13,44 CTP Adjoint／Amélioration du cadre de vie | 1 | 13,97 Développement participatif | 2 | 18,67 Gestionnaire／Supervision de formation | 1 | 2,00 Gestionnaire | 1 | 5,00 * Cf. Doc.4
2.2 Equipement, Véhicule, etc.	Rapports du Projet, Archives	Jusqu'au mois de janvier 2010, les équipements, d'un coût total de 55 667 456 FCFA, ont été affectés au Projet. Les équipements concernés sont principalement : véhicules 4x4, motos, ordinateurs, ordinateurs portables et photocopieuse. * Cf. Doc.5
2.3 Stage au Japon	Rapports du Projet, Archives	Trois (3) agents au total (2 agents en 2008 et un agent en 2009) ont participé au Japon à des stages sur la gestion des ressources forestières * Cf. Doc.4
2.4 Budget de la mise en œuvre	Rapports du Projet, Archives	975.808.612FCFA ont été dépensés au titre du budget pour les activités mises en œuvre par le Projet. Situation de dépense suivant l'année fiscale japonaise Rubrique | Budget Exécuté au 31 décembre 2009(FCFA) Affectation d'experts japonais | 690.411.787 Equipements | 55.667.456 Formations, fonctionnement, études, réalisations, etc. | 229.729.370 TOTAL | 975.808.612

（2）Réalisation des résultats

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)
Résultat 1 Les capacités des services forestiers (centraux et déconcentrés) à appuyer les populations en matière de la gestion participative et durable des forêts sont renforcées	Les agents forestiers concernés par le Projet ont reçu les formations en gestion participative et durable des forêts au nombre d'au moins 4 au niveau central et 6 au niveau déconcentré et accompagnent efficacement les	Rapports du Projet, Interview	Les 4 formations au niveau central ainsi que les 7 formations au niveau déconcentré ont été dispensées au bénéfice des agents forestiers concernés par le Projet. Les thèmes de ces formations sont comme suit : -Au niveau central : « la capacité de facilitation/auto évaluation » «de la participation » «le PAG » « le suivi et l'évaluation » - Au niveau déconcentré : « la capacité de facilitation/auto évaluation » «l'approche participative » « PCM » « le renforcement organisationnel -l'enregistrement et la comptabilité » «le PAG » « le suivi et l'évaluation » « le rangement du bureau »

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)
	acteurs locaux		A la suite de la formation, le bureau des agents concernés a été bien rangé. En ce qui concerne le partenariat entre les agents forestiers et les acteurs locaux, les agents formés ont déjà commencé à former des GGF en matière de la technique de gestion forestière. Il est prévu par le Projet d'appuyer les agents forestiers accompagnant des communes à mettre en œuvre la production des plants ou le reboisement.
Résultat 2 Les capacités des GGF et des UGGF des villages concernés sont renforcées en matière de gestion durable des ressources forestières	2-1 – 27 GGF et 4 UGGF sont nouvellement créés ou redynamisés	Rapports du Projet, Interview	1) GGF Les GF créés avant le démarrage du Projet étaient au nombre de 13. Le Projet a organisé l'assemblée générale pour renouveler leur bureau. Certains GGF parmi eux mènent aujourd'hui des activités de gestion forestière ou celles créatrices de revenu. créés de nouveau après le démarrage sont au nombre de 14 GGF ont été nouvellement créés depuis démarrage du Projet. 2) UGGF Les activités visant la revitalisation des 2 UGGF (à Bounouna et à Toumousséni) existantes ainsi que la création des 2 UGGF nouvelles démarreront dès le mois de mars 2010.
	2-2 Les GGF/UGGF commencent à effectuer des activités de gestion forestière en utilisant les techniques acquises avec la formation	Rapports du Projet, Interviews	Les GGF entamant leurs activités de gestion forestière à la suite de la formation sont comme suit ; 1) Production de plants : Bounouna, Dandougou, Wenga, Djanga, Tonga 2) Reboisement :Djanga, Bounouna, Soubaka, Fougangoué, Ouratenga, Wenga, Tonga 3) Ouverture de piste anti-feu : Djanga, Kadio, Gouara
Résultat 3 Les conditions de vie des populations locales sont améliorées	3-1 Les GGF commencent à effectuer des activités génératrices de revenu en valorisant les produits forestiers ligneux et non ligneux.	Rapports du Projet, Interviews	L'état de réalisation des activités génératrices de revenus menées par GGF se présente comme suit :

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)

Nom de GGF	Activités	Revenu(FCFA)
Bounouna	Apiculture moderne	51.750
	Soumbala	4.000
Toumousséni (H F)	Plantes Médicinales	123.690
	Apiculture moderne	60.000
	Carbonisation	30.000
Toumousséni (F)	Soumbala	2.750
Djongolo (H)	Plantes Médicinales	29.715
	Apiculture moderne	3.750
	Carbonisation	13.000
Djongolo (F)	Soumbala	N.D.
Tagnana (HF)	Plantes Médicinales	125.895
Tagnana (F)	Soumbala	8.050
Soubaka (H)	Plantes Médicinales	243.600
	Apiculture moderne	3.750
	Carbonisation	66.250

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)

Nom de GGF	Activités	Revenu(FCFA)
Soubaka (F)	Soumbala	ND
Fougangoué	Apiculture moderne	32,500
Gouandougou	Apiculture moderne	7,500
Tonga	Apiculture moderne	32,500
Dandougou	Beurre de Karité	96,750
Pima	Beurre de Karité	156,750
Kassandé	Beurre de Karité	93,000
Ouratenga	Beurre de Karité	123,750
Faradjan	Beurre de Karité	93,000
Wenga	Beurre de Karité	13,750
Bougousso	Beurre de Karité	3,750
Kadio	Beurre de Karité	ND
Gouara	Beurre de Karité	1,250
Labola Sankrara	Beurre de Karité	ND
Dakie	Beurre de Karité	6.750
Labola Nambarfo	Soumbala	6,000
Labola Sankrara	Soumbala	ND

Sources : Fiches de suivi

3-2
Les GGF prennent leurs initiatives pour le réinvestissement en matériels nécessaires à leurs activités.

Rapports du Projet, Interviews

L'état des sommes réinvesties par les GGF sur la base des recettes engrangées, se présente comme suit ;

Nom des GGF	activités	Domaines de réinvestissement
Kassandé	Beurre de Karité	Achat de graines /matière première
Pima	Beurre de Karité	Achat de graines/matière première
Dandougou	Beurre de Karité	Achat de graines /matière première
Ouratenga	Beurre de Karité	Achat de graines /matière première
Fougangoué	Beurre de Karité	Achat de graines /matière première
Faradjan	Beurre de Karité	Achat de graines /matière première

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)
			Soubaka (F) – Soumbala – Achat de graines /matière première Tagnana (F) – Soumbala – Achat de graines /matière première Bounouna – Soumbala – Achat de graines/matière première Labola Sankrara – Soumbala – Achat de graines /matière première Toumousséni(F) – Soumbala – Achat de graines /matière première Bounouna – Apiculture moderne – 3 Ruches (35,000FCFA)
Résultat 4 Les Plans d'Aménagement et de Gestion (PAG) des 4 FC sont élaborés et connaissent un début de mise en œuvre.	4-1 Les PAG sont élaborés au nombre de 1 pour chaque forêt classée ciblée, soit au total 4.	Rapports du Projet, Interviews	En vue de l'élaboration des PAG, le Projet a déjà réalisé les opérations suivantes ; - les inventaires forestiers des 4 forêts classées avec des relevés sur la présence de la faune ; - l'étude sur les zones de production des produits forestiers et sur les développeurs potentiels ; - l'étude sur l'exploitation des produits forestiers non ligneux par les populations riveraines des forêts classées ; - la collecte d'information sur marché de bois à Banfora. Le chronogramme de l'élaboration des PAG est déjà fixé. Le Projet prévoit l'achèvement du projet des PAG au cours de la 3ème année de mise en œuvre du Projet.
	4-2 Un Guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone Sud – Soudanienne est élaboré.	Rapports du Projet, Interviews	Il est prévu que le projet élabore un guide méthodologique pour la gestion forestière dans la zone sud-soudanienne au cours de la 3ème année
	4-3 - Les manuels pratiques de gestion participative et durable des forêts au profit des populations locales sont élaborés au moins pour 8 thèmes.	Rapports du Projet, Interviews	À partir des manuels rédigés dans le cadre des formations, le Projet élaborera et/ou diffusera à partir de la 3ème année, 8 manuels thématiques sur les sujets suivants : -la production des plants ; -le reboisement ; -la coupe des bois ; -la gestion des feux de brousses ; -la gestion du pâturage ; -la production du beurre de Karité de qualité supérieure ;

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)
			-l'apiculture moderne ; - l'exploitation des plantes médicinales.
	4-4 Les GGF/UGGF commencent à effectuer de façon durable au moins 4 types d'activité de gestion forestière suivant le PAG.	Rapports du Projet, Interviews	Certains GGF ont déjà entamé les activités de gestion des ressources forestières. Il s'agit de : -Production de plants : Bounouna, Dandougou, Wenga, Djanga, Tonga -Reboisement : Djanga, Bounouna, Soubaka, Fougangoué, Ouratenga, Wenga, Tonga - Ouverture de piste anti-feu : Djanga, Kadio, Gouara - Beurre de Karité de bonne qualité : Kassandé, Pima, Dandougou, Ouratenga, Fougangoué, Faradjan, Wenga, Kadio, Gouara, Bougousso, Labola Sankrara, Dakie -Apiculture moderne : Bounouna, Djanga, Toumousséni – Plantes médicinales : Soubaka, Toumousséni, Djongolo, Tagnana
<u>Résultat 5</u> Les partenaires locaux et les services forestiers ont une relation de collaboration plus étroite pour la gestion durable des forêts	5-1 Les rencontres avec les acteurs locaux et les représentants des autorités locales et des services techniques concernés se tiennent au moins 3 fois par an.	Rapports du Projet, Interviews	Les rencontres avec les acteurs locaux et les représentants des autorités locales et des services techniques concernés ont été organisées six (6) fois depuis le démarrage du Projet. 1) En 2007 (1) L'Atelier de lancement du Projet (la rencontre organisée avec les acteurs locaux à Banfora le 02/08/07) : la diffusion des informations sur le démarrage du Projet 2) En 2008 (1) La première session du Comité de Pilotage organisée le 21/02/08 à Banfora : présentation du rapport d'activités 2007 et du PO 208. (2) Le séminaire des acteurs locaux organisé le 28/05/08 à Banfora : la commercialisation du miel produit par le GGF de Bounouna a suscité la motivation des autres GGF à mener cette activité. 3) En 2009 (1) La deuxième session du Comité de Pilotage a été organisée le 20/02/09 à Banfora : le rapport d'activités 2008 a été adopté. Le PO de l'année 2009 n'a pas été adopté à cause de la demande de la partie burkinabé de revoir le canevas de présentation du document. Le Comité de Pilotage a instruit a partie burkinabé d'adresse à la Coopération Japonaise, une demande de modification du cadre logique du projet. (2) Le séminaire des acteurs locaux organisé le 19/06/09 à Banfora : les rapports d'activités des GGF de Djanga, Soubaka et Dandougou ont stimulé la motivation des autres GGF à entreprendre des activités. (3) La troisième réunion du Comité de Pilotage tenue le 17/07/09 à Banfora : l'adoption du PO et du budget de 2009. Le partage d'informations concernant la réponse de la JICA à la demande de la partie burkinabé formulée à l'occasion de la

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Réalisation (en janvier 2010)
			session précédente du Comité de ¨Pilotage du Projet.
	5-2 Un protocole de coopération est passé entre le Projet et la Direction Régionale du MECV des Cascades.	Rapports du Projet, Interviews	Il est prévu qu'un protocole de collaboration soit passé entre le Projet et la DRECV des Cascades en janvier 2010.
	5-3 Les relations de collaboration sont établies avec les sociétés civiles de la localité.	Rapports du Projet, Interviews	1) Le partenariat a été noué avec la société spécialiste de plantes médicinales Phytofla basée à Banfora (depuis novembre 2008). Le Projet confie la formation des GGF à Phytofla qui leur achète les plantes médicinales cueillies. 2) Le partenariat avec une société spécialisée dans la transformation de fruits de saba, à savoir BombaTechno basée à Banfora est prévu. Une formation est programmée à cet effet en mai 2010. C'est le même mécanisme de collaboration qui sera appliqué tout comme pour Phytofla.

(3) Réalisation de l'objectif du Projet

Sommaire narratif	Indicateurs	Sources de vérification	Résultat (en janvier 2010)
Les activités visant la gestion durable des 4 forêts classées de Bounouna, Toumousséni, Gouandougou et Kongouko sont menées par la population locale à travers les GGF et les UGG	1. les forêts classées ciblées du Projet sont dotées du zonage clairement défini qui constitue la base des activités de gestion forestière assurée par les GGF/UGGF.	Rapports du Projet	Les données nécessaires pour le parcellaire de gestion des 4 forêts classées sont déjà disponibles à la suite des études conduites par le Projet. La délimitation, la cartographie par unité de gestion forestière sera définie au cours de la 3ème année du Projet. Les travaux d'ouverture de piste servant également comme pare- feux sont prévus.
	2. Les objectifs d'aménagement de chaque forêt classée ciblée sont bien déterminés et les activités de gestion forestière conformes à ces objectifs sont effectuées par les GGF/UGGF de façon durable	Rapports du Projet, Interviews Question-naire	Au moment de l'évaluation à mi-parcours en janvier 2010, la majorité des GGF formés par le Projet a déjà entamé leurs activités de gestion forestière et celles génératrices de revenus. Les bases de la gestion durable de forêts par les populations locales sont donc en train de se constituer.

ANNEXE4 MOYENS HUMAINS MIS EN PLACE

1 Partie Japonaise (Moyens humains)

(1) Experts japonais

	Domaine chargé	Nom	Période d'envoi	HM	Résultats escomptés en charge
1	Conseiller technique principal	MIZUSHINA Shu	2007/7/1 - 11/29 2008/2/5 - 3/5 2008/4/22 - 6/20 2009/1/19 - 3/31 2009/5/27 - 8/1 2010/1/5 -	6,07 1.00 2,00 2.43 4,47	1 à 5
2	Adjoint au CTP ／ Amélioration du cadre de vie	TEJIMA Shigéharu	2007/11/7 - 12/21 2008/5/14 - 8/1 2008/10/1 - 12/29 2009/3/22 - 6/9 2009/9/30 –	1,50 2,67 2.96 5,67	1à 5
3	Développement participatif (1)	KADO Atsuyuki	2007/7/15 - 10/25 2008/4/23 - 7/11 2008/10/1 - 12/29	3,43 2,67 3,00	1, 2 et 5
4	Développement participatif (2)	MUTO Tamaki	2008/1/6 - 3/5 2008/5/14 - 8/1 2009/1/19 - 5/18 2010/1/5 -	2,00 2,67 4,00	1, 2, 3 et 5
5	Gestion administrative	KOBAYASHI Miwako	2007/7/1 - 8/29 2008/4/22 - 6/5	2,00 1,50	1 et 5
6	Gestion administrative	TEJIMA Shigéharu	2009/6/10 - 7/24	1,50	4 et 5
7	Gestion administrative /supervision de la formation	SAKAI Fumiko	2009/9/30 - 11/28	2,00	1, 2, 3 et 5

(2) Personnel envoyé au stage au Japon

	Nom	Organisme	Titre du stage	Période de stage	Résultats escomptés en charge
1	OUATTARA N'Grazié Thomas	Ex-coordonnateur national	Forest watershed environment/water & soil conservation	2008/8/24 à 9/13 (Retour avancé en raison de la santé)	1 à 5
2	KINI B. Nestor	Coordonnateur national	Practical case studies on sustainable forest management	2009/8/19 à 11/8	1 à 5
3	OUEDRAOGO Mahamadi	Direction régionale des Cascades - MECV	Forest management through co-existence	2008/8/24 à 11/15	2、4

(3) Personnel d'appui au Projet

	Nom	Fonction	Période de contrat*
1	TRAORE Kasson	Facilitateur assistant	2007/9 à 2008/3(1ère année) 2008/4 à 2008/7(2ème année 1) 2008/10 à 2008/12(Première partie de la 2ème année 2) 2009/1 à 2009/7(Dernière partie de la 2ème année 2) 2009/10 - (3ème année)
2	SIRI Moussa	Facilitateur assistant	2008/5 à 2008/7(2ème année 1) 2008/10 à 2008/12(Première partie de la 2ème année 2) 2009/1 à 2009/7(Dernière partie de la 2ème année 2) (quitté le poste en raison personnelle)
3	COULIBALY Denise	Facilitateur assistant	2008/10 à 2008/12(Première partie de la 2ème année 2) 2009/1 à 2009/7(Dernière partie de la 2ème année 2) 2009/10 - (3ème année)
4	TRAORE Mohamoudou	Facilitateur assistant	2009/10 - (3ème année)
5	TRAORE Marie	Secrétaire/comptable	2007/9 à 2008/3(1ère année) 2008/4 à 2008/7(2ème année 1) 2008/10 à 2008/12(Première partie de la 2ème année 2) 2009/1 à 2009/7(Dernière partie de la 2ème année 2) 2009/10 - (3ème année)
6	SAYOU Daouda	Chauffeur	2007/8～2008/3(1ère année) 2008/4～2008/7(2ème année 1) 2008/10～2008/12(Première partie de la 2ème année 2) 2009/1 ～ 2009/7(Dernière partie de la 2ème année 2) 2009/10 - (3ème année)
7	KONE Issouf	Chauffeur	2008/5～2008/7(2ème année 1) 2008/10～2008/12(Première partie de la 2ème année 2) 2009/1 ～ 2009/7(Dernière partie de la 2ème année 2) 2009/10 - (3ème année)

*De la 1ère année à la première partie de la 2ème année 2, le personnel d'appui au Projet pris en charge par le budget japonais a été mis à disposition du projet à travers le contrat de prestation de service passé entre la partie japonaise et le bureau burkinabè. A partir de la dernière partie de la 2ème année 2, le personnel d'appui est fourni par le contrat de prestation de services passé directement chacun des personnes concernées.

2 Partie burkinabè (Moyens humains)

(1) Liste des forestiers homologues (à la date de 31 décembre 2009)

N°	Nom et Prénoms	Emploi	Poste
		Direction des Forêts	
01	DOULKOM Adama	Inspecteur et Ingénieur des Eaux et Forêts	Directeur des Forêts
02	COULIBALY Sia	Inspecteur et Ingénieur des Eaux et Forêts	Chef de Service de l'Aménagement des Forêts/Direction des Forêts
		Direction Régionale	
01	GUINKO Adama	Inspecteur	Directeur Régional des Cascades
02	OUEDRAOGO.K.Mahamadi	Contrôleur des Eaux et Forêts	Cumulativement/Chef SRPSE
03	SANOU K Bruno	Contrôleur des Eaux et Forêts	Chef/Service Régional de la Protection et de la Surveillance
04	OUBDA Moussa	Contrôleur des Eaux et Forêts	Service Régional de la Protection et de la Surveillance
05	BATIONO Barthélémy	TS Environnement	Chef/Service Régional de l'Amélioration du Cadre de Vie
06	YE .P. Moctar	Assistant des Eaux et Forêts	Service Régional de l'Amélioration du Cadre de Vie
07	OUATTARA Sériba	Assistant des Eaux et Forêts	Service Régional de l'Administration et des Finances
08	KY Prosper	Préposé des Eaux et Forêts	Service Régional de la Conservation de la Nature
		Direction Provinciale	
01	BIKIENGA Salimata	Inspecteur	Directrice Provinciale la Comoé
02	OUEDRAOGO Animata	Contrôleur des Eaux et Forêts	Régisseur de la Direction Provincial
03	TRAORE Hamadé	Contrôleur des Eaux et Forêts	Service Provincial de la Conservation de la Nature
04	BADO Jean Marc	Assistant des Eaux et Forêts	Chef de service provincial de la Planification
		Projet	
01	KINI B. Nestor	Inspecteur	Coordonnateur National
		Services Départementaux concernés	
01	BATIONO Toussaint	Contrôleur des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Sidéradougou
02	ZONGO. W. Pascaline	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Sidéradougou
03	DABIRE .N. Réné	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Sidéradougou
04	KY Bruneau	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Sidéradougou
05	DABIRE Julien	Contrôleur des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Banfora
06	DABIRE Romaric	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora

07	ZONGO .Y. François	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
08	KABORE Hamidou	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
09	SAWADOGO Harouna	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
10	BOUDO Salif	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
11	SANGARE Belko	Militaire à la retraite	SDECV/Banfora
12	OUATTARA Alexis	Assistant des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Soubaka
13	NEYA Paul	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Soubaka
14	SAWADOGO Sékou	Assistant des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Tiéfora
15	NABI Michel	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Tiéfora

(2) Coordonnateur National

	Nom	Fonction	Organisme	Période	Remarque
1	OUATTARA N'Grazié Thomas	Inspecteur	MECV	2007/8 à 2008/12	Décédé en décembre 2008
2	KINI B. Nestor	Inspecteur	MECV	2009/1 -	

(3) Personnel d'appui au projet

	Nom	Fonction	Organisme	Période	Remarque
1	KABORE Abdoul Wahab	Secrétaire/comptable	Projet	2009/1 -	Contractuel par la contrepartie nationale
2	TRAORE Blaise	Chauffeur	Projet	2009/1 -	Contractuel par la contrepartie nationale
3	SAWADOGO Yubert	Pépiniériste Agent de liaison	Projet	2009/1 -	Contractuel par la contrepartie nationale
4	HEMA Midibahaye	Agent de liaison	Projet	2009/1 -	Contractuel par la contrepartie nationale
5	LALOU Dauda	Gardien	Projet	2009/1 -	Contractuel par la contrepartie nationale

ANNEXE5-1: Moyens physiques mis en place par la Partie Japonaise

Article	Fournisseur	Condition	Fréquence d'utilisation	Endroit	Numéro de serie	Date d'arrivée	Prix (yen)	Prix (CFA)	Catégorie de Budget	Nbr. introduit	Nbr. détruit	Nbr. actuel
Pickup TOYOTA	DIACFA	A	A	Bureau de projet	MROFR22G400518426	7/2007			Bureau JICA au Burkina Faso	1	1	0
Moto YAMAHA DT125	DIACFA	A	A	SDECV (SB)	DE02X-037090	7/2007			Bureau JICA au Burkina Faso	3	3	0
		A	A	Bureau de projet (CN)	DE02X-036686							
		A	A	Bureau de projet (FA1)	DE02X-037061							
Ordinateur de bureau DX 2200	Bessel Equipements SARL	A	A	Bureau de projet	CNT6470FL0	17/7/2007		675,000	JAFTA	1	1	0
Photocopieuse Canon IR2016	Bessel Equipements SARL	A	A	Bureau de projet	KRB56070	17/7/2007		1,835,000	JAFTA	1	1	0
Imprimante Laser HP 1320	Bessel Equipements SARL	A	A	Bureau de projet		17/7/2007		190,000	JAFTA	1	1	0
Projecteur Benq	Bessel Equipements SARL	A	B	Bureau de projet	PD42700270SU0	17/7/2007		800,000	JAFTA	1	1	0
Ecran pour projecteur	Bessel Equipements SARL	A	B	Bureau de projet		17/7/2007		250,000	JAFTA	1	1	0
Imrimante Laser HP P2015	Datasys	A	A	Bureau de projet	CNBW76L792	14/2/2008		235,226	JAFTA	1	1	0
Pajero MITSUBISHI		B	A	Bureau de projet	LNV96W8J002066	5/2008			Bureau JICA au Burkina Faso	1	1	0
Moto YAMAHA YBR125		B	A	SDECV (SI)	95670072862	6/2008			Bureau JICA au Burkina Faso	2	2	0
		A	A	Bureau de projet (AF2)	095X70091527							
Ordinateur portable Toshiba SATELLITE L300		A	A	Bureau de projet	39028849Q	10/6/2008			JAFTA	3	3	0
	Sagaie Technologie	A	A		Z8454689Q							
		A	A		39029449Q							
Refractomètre		A	B	Bureau de projet	A325879	26/9/2008	¥116,740		JAFTA	4	4	0
		A	B		A325819							
		A	B		A325849							
		A	B		A325909							
Module d'impression recto-verso pour photocopieuse Canon IR2016	Carman Infosys	A	A	Bureau de projet		2008/7/4		413,000	JAFTA	1	1	0
Moto YAMAHA V80		A	A	Bureau de projet (AF3)	4GC068618	8/2009			JAFTA	1	1	0
Moto YAMAHA YBR125		A	A	SDECV (BA)	LBPKE12909003220	8/2009			JAFTA	2	2	0
		A	A	SDECV (TI)	LBPKE129790026835							
Disk dur exteme		A	A	Bureau de projet		10/6/2008			JAFTA	1	1	0
	Sagaie Technologie											
Imprimante multi-fonctionnel HP Officejet Pro L7580		A	A	Bureau de projet	MY7CQ6401Q	2008/6/10?			JAFTA	1	1	0
	Sagaie Technologie											
Ondulateur Mercury Classic800	Bessel Equipements SARL	C	C	Bureau de projet		17/7/2007		60,000	JAFTA	2	1	1
	Sagaie Technologie	A	A			17/6/2009		55,000				
Téléphone/Fax CanonB820	Bessel Equipements SARL	B	A	Bureau de projet	NDL62992	17/7/2007		200,000	JAFTA	1	1	0
Climatiseur LG	Bessel Equipements SARL	A	A	Bureau de projet	603HACQ01267	17/7/2007		250,000	JAFTA	1	1	0
Stabilisateur Mercury AVR A1000	Bessel Equipements SARL	A	C	Bureau de projet		17/7/2007		60.000 (30.000 × 2)	JAFTA	3	3	0
						11/11/2008		35.000				
Stabilisateur Mercury 2000VA		A	A	Bureau de projet		10/10/2008		84.700	JAFTA	2	2	0
	Kouanda Ousseni					2/7/2009		52.500				
Stabilisateur Mercuty 1500VA		A	A	Bureau de projet		10/11/2008		65.000	JAFTA	2	2	0
	Sagaie Technologie					17/6/2009		55.000				
Stabilisateur à grande tension	Datasys	A	A	Bureau de projet (uniquement pour la photocopieuse)		3/10/2008(avance)		40.000	JAFTA	2	2	0
						26/12/2008(derni		37.790				

Fréquence d'utilisation; A.. Fréquament utilisé, B.. De temps en temps utilisé, C.. Non utilisé

Etat; A.. Bon, B.. Passable, C. Hors de service / rejeté

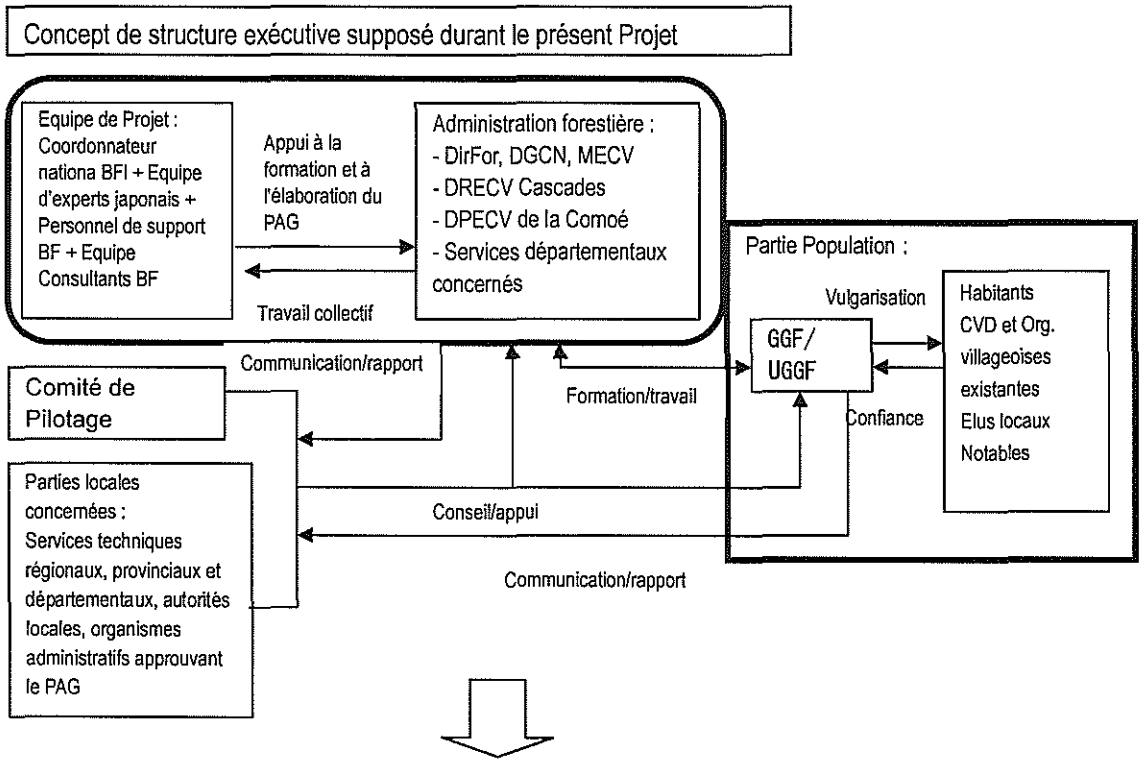
CN: Coordonnateur National, FA: Facilitateur Assistant, SB: Soubakaniedougou, SI:Sideradougou, BA:Banfora, TI:Tiefora

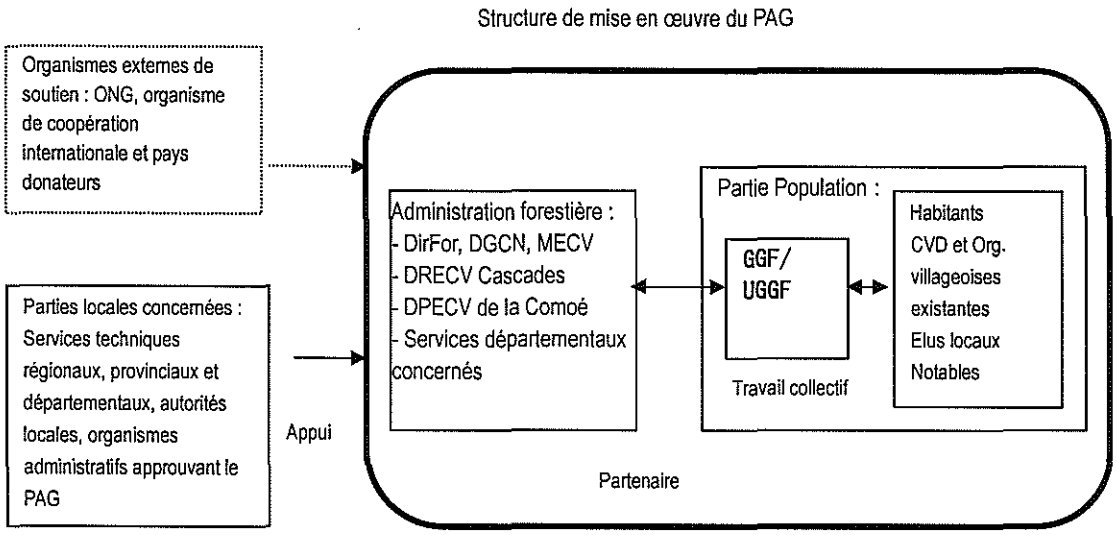
Les articles en caractères rouge sont considérés comme consommabes.

ANNEXE5-2: Moyens Physiques Mise en Place par la Partie Burkinabé

1) 1(un) Véhicule Pick-up
2) 2(deux) Postes Téléviseurs
3) 2(deux) Ordinateurs Portables
4) 2(deux) Ordinateurs de Bureau
5) 2(deux) Imprimantes
6) 1(un) Refrigérateur

ANNEXE 6: Structure d'exécution





ANNEXE7: Etapes et Chronogramme d'élaboration des PAG

	Opérations	Responsable	2009						2010												2011												2012				
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
1	**Cadrage organsationnel**																																				
1-1	Constitution d'une équipe d'élaboration	CN, CTP,DR																																			
1-2	Réunion interne de l'équipe	CN, EE																																			
1-3	Rencontre périodique avec le DR et le Chef du Safor	CN, CTP,DR																																			
2	**Travaux**																																				
2-1	Harmonisation des idées de base de PAG (au niveau régional)	CTP, CN, SAFOR, Difor																																			
2-2	Préparation du canevas type de PAG	CTP																																			
2-3	Harmonisation des idées de base de PAG (au niveau central)	CN, CTP, SAFOR, Difor																																			
2-4	Collecte des données et des informations de base	CN, CTP, EE																																			
2-5	Définition des objectifs d'aménagement de chaque FC concernée	CN, CTP, DR, Difor, SAFOR																																			
2-6	Détermination des zones de préservation, des unités d'aménagement forestier, des parcelles et des pistes de	CN, CTP, DR, Difor, SAFOR																																			
2-7	Elaboration des cartes d'aménagement forestier	SAFOR, DSES																																			
2-8	Rédaction des avant-projets de PAG des 4	CN, CTP, EE																																			
2-9	Examen des avant-prjets de PAG des 4 FC	CN, EE, DR, Difor, SAFOR, DSES																																			
2-10	Organisation d'un atelier d'amendements des avant-projets de PAG des 4 FC par les structures internes du MECV	CN,CTP,DR,DP, EE,Difor,SAFOR ,DSES																																			
2-11	Préparation des projets de PAG avec les avant-projets amendés	CN, CTP																																			
2-12	Organisation d'un atelier d'amendements des projets de PAG des 4 FC par les services techniques concernés	CN, CTP, DR																																			
2-13	Soumission des projets de PAG de 4 FC pour approbation par les instances habilités par la loi (CPAT)	CN, DR																																			
2-14	Finalisation des PAG suivant les instructions d'amendement	CN,CTP																																			
2-15	Edition des 4 PAG approuvés	CN, CTP																																			

*EE: Equipe d'élaboration

ANNEXE 8 : Examen du processus de mise en œuvre du Projet

Objets	Sources	Résultat (au mois de janvier 2010)
1. Modification de PDM	Rapports du Projet, Interviews	Le PDM du Projet a été modifié 1 seule fois, au cours de la 3ème réunion du Comité du Pilotage au 17/07/09. Cette modification vise principalement à impliquer d'avantage la partie burkinabè par leur propre gré aux Activité du Projet. Il s'agit d'une modification du procédé de mise en œuvre et non pas un changement important influant sur le contenu du PDM. Les points modifiés sont ci-dessous.] Les Indicateurs concernés ont été modifiés pour plus de précision. 1) Une activité ci-dessous a été introduite pour enrichir d'avantage les activités concrètes visant le renforcement du personnel du service forestier. ・Activité de suivi réalisé par le personnel des services forestiers des niveaux central et déconcentré (Activité1-5 dans le PDM modifié) 2) Le Projet soutient partiellement les activités visant la planification et la mise en œuvre du programme d'activités pour la gestion forestière. ・Les activités de reboisement par les Communes (Activité 5-3 dans le PDM modifié)
2. Réalisation des activités		
(0) Préparation	Rapports du Projet, Interviews	Les activités de préparation en vue de la mise en œuvre des Activités visant les Résultats Attendus ont été réalisées comme suit : **A0.1.** Faire la revue des études réalisées ainsi que les résultats des projets similaires 【Indicateur】 - Les documents et les rapports existants (copie et original) sont collectés et consultés. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Les documents et les rapports nécessaires ont été collectés pour être examinés. **A0.2.** Mettre en place le bureau du Projet au niveau local ainsi que les ressources humaines et matériels nécessaires pour l'exécution des activités 【Indicateur】 - Un bureau de projet est mis à la disposition du Projet. - Le personnel d'appui est recruté dans le cadre du Projet au nombre de 5. - Le Projet est doté de matériels roulants, des équipements informatiques et bureautiques nécessaires à la mise en œuvre des activités du Projet. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - L'installation du bureau du Projet à l'intérieur des locaux de la Direction Régionale en juillet 2007. - Le Projet a engagé 6 personnes pour les activités prévues et 7 personnes pour l'accompagnement des GGF ainsi que pour le suivi des activités. - Véhicules, motos, ordinateurs et autres équipements ont été installés.

		A0.3. Mettre en place un mécanisme de coordination de la mise en oeuvre du Projet 【Indicateur】 - Le Coordonnateur National est affecté au Projet par l'arrêté ministériel. - La session du comité de pilotage est tenue 2 fois par an. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Un Coordonnateur National (CN) est affecté en juillet 2007. Suite au décès de ce dernier en décembre 2008, l'actuel CN est nommé. - L'arrêté ministériel portant sur la création du Comité du pilotage (JCC) du Projet a été promulgué en retard (février 2008), la première réunion a eu lieu en février 2008, la deuxième réunion en février 2009 et la troisième a eu lieu en juillet 2009. 3 réunions du Comité au total se sont organisées.

(1) Activités visant le Résultat Attendu 1	Rapports du Projet, Interviews	Le Projet a mise en œuvre une série de formations à l'égard du personnel des services forestiers au niveau central et déconcentré à peu près comme prévu. Les capacités du personnel ont été renforcées. **Activité1-1** Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des services forestiers au niveau central et déconcentré en vue de leur renforcement 【Indicateur】 - Les sessions d'auto-évaluation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré. - Au moins 10 forestiers y participent au niveau central et au niveau déconcentré 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Les sessions d'auto-évaluation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré. - 42 personnes ont participé aux sessions de 3 jours au niveau central (14 participants par jour en moyenne). - 27 personnes ont participé aux sessions de 3 jours au niveau central (9 participants par jour en moyenne). **Activité1-2** Réaliser des formations et des ateliers en matière de conception et de mise en œuvre des plans d'aménagement et de gestion participative des forêts au profit des services forestiers 【Indicateur】 - Les sessions de formation sont tenues 2 fois au niveau central et 2 fois au niveau déconcentré. - La formation traite au moins 2 thèmes. - Les forestiers y participent au nombre cumulatif de 20 (10x2) au niveau central et de 20 (10x2) au niveau déconcentré. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Au niveau central : une session de formation sur «le PAG » et «la Participation» a été organisée (le nombre de participants : 12 personnes) . - Au niveau déconcentré :une formation sur «le PAG » et «la Participation» (le nombre de participants : 6 personnes) ainsi que sur « le Rangement du bureau » (le nombre de participants : 5 personnes envoyées par 4 postes départementales et par la DP ont été organisées. **Activité1-3** Réaliser des formations sur les techniques de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers 【Indicateur】 - Les sessions de formation sont tenues 2 fois au niveau déconcentré. - Les forestiers y participent au nombre cumulatif d'au moins 20 (10x2). 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Le Projet a réalisé 3 jours de formation sur les techniques de gestion des forêts au profit des agents forestiers au niveau déconcentré. Les thèmes de formation sont ; « l'évolution du rôle de l'agent forestier dans la mise en œuvre de la gestion participative des forêts » ; « la technique de l'apiculture moderne » ; et « les produits forestiers non ligneux ». Le nombre de participants était de 10 par jour, 30 personnes au total ont été formées.

		Activité1-4 réaliser des formations sur le suivi – évaluation des activités de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers 【Indicateur】 - Les sessions de formation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré. - Les forestiers y participent au nombre de 10 (10x1) au niveau central et 10 (10x1) au niveau déconcentré. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - La formation organisée au niveau déconcentré : « PCM » (12 participants), « la prise de note et la comptabilité » (6 participants), et « le suivi et l'évaluation » (9 participants). - La formation organisée au niveau central : « le suivi et l'évaluation » (8 participants). **Activité1-5** Faire le suivi/contrôle périodique par l'équipe des forestiers concernés 【Indicateur】 - Le suivi est effectué 1 fois par trimestre, soit 4 fois par an. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - En juillet 2009, un véhicule a été cédé de la part du bureau résident de la JICA au Burkina Faso à la DRMECV des Cascades. Ce véhicule est utilisable pour la mise en œuvre des activités de suivi réalisées par des agents forestiers. C'est ainsi que le système de suivi mise en œuvre par les agents forestiers a été mise en place. La tournée de l'équipe d'agents forestiers pour le suivi de 4 jours sur le terrain est prévue en fréquence de 3 fois par an et à partir du mois de janvier 2010.
(2) Activités visant le Résultat Attendu 2	Rapports du Projet, Interviews	La formation a été mise en œuvre à peu près comme prévu au profit des 27 GGF. Les thèmes de formation sont « les compétences nécessaires pour la gestion durable des forêts » « la capacité organisationnelle » « les compétences pour les activités génératrices de revenu ». **Activité2-1** Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des GGF et des UGGF existants 【Indicateur】 - La rencontre d'évaluation est effectuée 1 fois par village, soit au total 24 fois. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Les études ont été menées pour connaître l'état actuel des 13 GGF existant sur les 9 villages, des 15 villages dépourvues de GGF et des 2 UGGF constituées sur les deux forêts classées. Concernant les villages où GGF n'existe pas, le Projet a mené une enquête simplifiée auprès des personnalités clefs de village représentées soit par le Comité de gestion du terroir soit par le Comité de gestion du développement villageois. Les résultats de ces enquêtes ont fait l'objet de l'analyse. **Activité2-2** Renforcer les capacités techniques et organisationnelles des GGF et des UGGF existants dans les villages concernés par le Projet 【Indicateur】 - Les sessions de formation sont tenues 2 fois. - Les membres de bureaux sont renouvelés dans 13 GGF existants. - La formation est effectuée avec les thèmes de « Prise en note et gestion comptable » et « Planification ».

【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】

- La formation sur « la prise de notes et la comptabilité » a été réalisée au profit des 103 membres exécutifs des 27GGF ainsi qu'au profit des 617 membres des 21 GGF.
- La formation sur « la planification » a été réalisée au profit des 319 membres des 21 GGF.
- Le Projet a appuyé les 13 GGF existants pour leur réélection du comptable, du secrétaire et du contrôleur parmi les villageois alphabètes.

Activité2-3 Promouvoir la création de nouveaux GGF et UGGF dans les villages riverains des 4 FC

【Indicateur】
14 GGF et 2 UGGF respectivement pour la FC de Gouandougou et celle de Kongouko sont nouvellement créés.

【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】

- 3 ateliers de sensibilisation visant la création du GGF ont été organisés dans les 14 villages dépourvus du GGF. Le Projet a ainsi appuyé la création du GGF en accompagnant l'organisation de l'élection du bureau exécutif et l'élection générale au village. A la fin janvier 2009, 14 GGF nouvellement crées ont été officiellement approuvés.

Activité2-4 Réaliser des formations sur les techniques de gestion forestière (pépinière, plantation, gestion des feux, exploitation du bois de chauffe, bois d'œuvre, carbonisation, PFNL, etc.)

【Indicateur】

- Les sessions de formation avec 8 thèmes différents sont tenues au moins 1 fois pour 1 GGF, soit au total 216 (8 x 27).
- Au moins 10 membres de GGF y participent pour une session, soit au total 2160 (10 x 216).

【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】

Les sessions de formation ont été organisées sur les 12 thèmes suivants. Le nombre total des participants ci-dessous est sous-estimé car le comptage du nombre des participants n'était pas systématique lors de la formation de suivi.

Thème de formation	Nombre de cessions	Nombre de participants
1) Apiculture moderne	19	397
2) Production des plants	26	455
3) Reboisement	26	373
4) Amélioration de la qualité du beurre de Karité	30	1,156
5) Valorisation des plantes médicinales	16	123
6) Carbonisation	20	260
7) Gestion des feux	20	577
8) Gestion du pâturage	8	256
9) Coupe de bois	8	119
10) Amélioration de la qualité de soumbala	7	350
11) Prise de notes /comptabilité	50	456
12) Gestion de revenu	21	304

		Activité2-5 Réaliser des formations sur les techniques de négociation et de vente des produits forestiers au profit des GGF et des UGGF 【Indicateur】 - Les sessions de formation sont tenues 1 fois par GGF, soit au total 27 fois. - Les membres de GGF y participent au nombre d'au moins 10 par GGF, soit au total 270 (10 x 27). 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - La formation sur « la gestion de revenu » a été organisée au profit des 21 GGF pour 308 participants dont 136 femmes. - 21 sessions sur « la gestion de revenu » ont été organisées jusqu'au mois de décembre 2009. **Activité2-6** Réaliser les formations sur le suivi-évaluation des activités des GGF et des UGGF 【Indicateur】 - Les sessions de formation sont tenues 1 fois par GGF, soit au total 27 fois. - Les membres de GGF y participent au nombre d'au moins 10 par GGF, soit au total 270 (10 x 27). 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Le Projet a engagé 7 assistant-facilitateur ayant pour rôle de suivi des activités à l'égard des GGF, de consolider la capacité organisationnelle de ces derniers et d'assurer la liaison entre les GGF et le Projet. Le Projet a réalisé une formation sur la planification dans le cadre de la formation de suivi-évaluation au profit des 325 participants (dont 144 femmes) des 21GGF.
(3) Activités visant le Résultat Attendu 3	Rapports du Projet, Interviews	Les activités ont été mise en œuvre suivant le PO. Certains GGF ont entamé leurs activités génératrices de revenu telles que la production et la vente des charbons (produits forestiers ligneux), la production et la vente du miel, de la plante médicinale, du beurre de Karité (produits forestiers non ligneux). Ces activités-là commencent à générer du revenu. **Activité3-1** Evaluer les besoins en infrastructures et équipements socio-économiques prioritaires de la population locale et analyser leur faisabilité 【Indicateur】 Une liste des besoins identifiés est établie avec la mention de faisabilité. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 Après avoir menée une enquête simplifiée sur les besoins aux villages, le Projet a conduit une étude sur l'aménagement des ressources hydrauliques pour clarifier la faisabilité et la priorité des villages. **Activité3-2** Planifier et réaliser des activités visant la valorisation des ressources ligneuses et non ligneuses par la population locale 【Indicateur】 Au moins 6 types d'activité*3 sont sélectionnées parmi celles énumérées par les membres de GGF et ces activités sont planifiées et mises en œuvre.。 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 Le Projet a menée une enquête simplifiée sur les activités permettant l'amélioration de conditions de vie préférées des 27GGFafin de clarifier les besoins de chaque (cf.2-4)

		Activité3-3 Planifier et réaliser des activités visant la satisfaction des besoins en infrastructures socio-économiques prioritaires retenues au profit de la population locale 【Indicateur】 - Au moins 1 type d'infrastructures est sélectionné parmi ceux énumérés par les membres de GGF et l'aménagement de ce type d'infrastructure est planifié et réalisé. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - A partir des résultats d'enquête sur l'infrastructure hydraulique, en examinant la pertinence en ce qui concerne l'installation du forage en vue de la production de plants, le Projet a sélectionné 7 villages dont 3 se verront être dotés d'une infrastructure hydraulique en 3ème année. Le Projet a installé un château d'eau sur les deux villages dans le cadre de l'activité pilote.
(4) Activités visant le Résultat Attendu 4	Rapports du Projet, Interviews	L'élaboration de l'avant-projet des PAG est prévue pour la 3ème année du Projet. Ce retard par rapport au PO est dû au fait qu'en 1ère année, il fallait le temps pour que la partie burkinabè approfondisse sa compréhension sur la coopération technique de la JICA. **Activité4-1** Elaborer le PAG de chaque FC 【Indicateur】 -1 PAG est élaboré pour chaque FC ciblée, soit au total 4. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 Le Projet a mené une étude supplémentaire sur les ressources animales (collecte des données sur les 4FC , zones des produits forestiers, développeurs potentiels) afin de collecter les données de base en vue de l'élaboration du PAG. En outre, une étude sur la possibilité d'exploitation des produits forestiers non ligneux ainsi qu'une étude sur le marché de bois à Banfora ont été réalisées par le Projet. Les PAG seront élaboré en collaboration entre les experts japonais et leurs homologues burkinabè pour que le concept de la partie japonaise soit pris en compte dans les PAG. L'élaboration des PAG de 4 FC s'exécutera suivant le chronogramme fixé par le Projet. **Activité4-2** Démarrer les activités de gestion forestière conformément aux prescriptions des PAG élaborés 【Indicateur】 L'élaboration de PAG commence en octobre 2009 et les activités concrètes suivant le PAG sont démarrées en octobre 2010. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 L'élaboration de l'avant-projet des PAG n'est pas encore débutée. **Activité4-3** Elaborer un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud – soudanienne du pays 【Indicateur】 Un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud-soudanienne est élaboré. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 L'élaboration de l'avant-projet est prévue au cours de la 3 ème année (octobre 2009-août 2010). **Activité4-4** Etablir des guides pratiques appropriés pour la population locale en matière de gestion forestière participative 【Indicateur】 Les manuels pratiques pour 8 thèmes différents sont élaborés. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 L'élaboration des avant-projet est prévue au cours de la 3 ème année (octobre 2009-août 2010).

(5) Activités visant le Résultat Attendu 4	Rapports du Projet, Interviews	Les activités sont à peu près mises en œuvre suivant le calendrier ce qui fait que le Projet est de plus en plus reconnu par les acteurs locaux. **Activité5-1** Organiser des séminaires pour présenter le Projet aux autorités locales et aux services concernés 【Indicateur】 - Le séminaire des acteurs locaux est organisé 1 fois par ans, soit au total 5 fois durant le Projet. - Au moins 80 participants sont présents dans chaque séminaire. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 Le séminaire des acteurs locaux a été organisé 3 fois. Le nombre de participants était de 214 personnes pour les deux derniers séminaires. Celui du premier séminaire est inconnu.) **Activité5-2** Réaliser des échanges et diffuser des informations sur le Projet à travers des rencontres techniques, des rapports d'activités et des différents canaux d'information 【Indicateur】 - La session du comité de pilotage est tenue 2 fois par an, soit au total 10 fois durant le Projet. - Au moins 29 types de rapports d'activités sont préparés. - Le journal de Projet est publié 12 fois. - Le voyage d'étude est organisé 3 fois. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Le Comité de pilotage（JCC） s'est réuni 3 fois（en février 2008, en février 2009 et en juillet 2009）. - Le Document de projet, le rapport de démarrage et 3 rapports de fin des opérations ont été rédigés. Les rapports de formation ont été remis auprès de la Difor. - 6 lettres d'information ont été publiées. **Activité5-3** Appuyer le service forestier pour la supervision des activités forestières programmées dans les Plans de Développement Communal des Communes concernées 【Indicateur】 - Les forestiers concernés effectuent au moins 1 fois par trimestre, soit 4 fois par an une supervision des activités du secteur forestier inclues dans le Plan de Développement Communal. 【Etat de l'atteinte de l'Indicateur】 - Les activités démarreront à partir de la 3 ème année.
3. Gestion de la mise en œuvre du Projet		
(1) Structure de mise en œuvre	Rapports du Projet, Interviews	L'implication du personnel burkinabè s'est renforcée à la suite des deux facteurs ; le déblocage du budget de la contrepartie nationale en 2008 qui a rendu possible le paiement des frais jusqu'à certain niveau ; la possibilité pour le personnel des services forestiers d'intervenir en tant que formateur pour la formation de la technique de gestion forestière à partir du mois d'octobre 2009.
(2) Procédure de la prise de décision et du suivi	Rapports du Projet, Interviews	- Comité de pilotage (JCC) Le Comité de pilotage s'organise suivant la procédure burkinabè. Le projet rend compte des activités réalisées, de l'état de réalisation des Résultats Attendus, et du calendrier des activités à venir. - Suivi réalisé par le Projet Le Projet emploie des personnes pour le suivi des activités des GGF. Ces personnes sont tenues à effectuer le suivi de chaque GGF et à rendre compte des résultats du suivi au Projet. - Procédure de la prise de décision à travers le Coordonnateur National Le Projet a mise en place un système de collaboration où le

		Coordonnateur National joue le rôle d'interface entre l'équipe du Projet et la partie burkinabè. C'est ainsi que'une relation permanente de coordination est assurée pour la mise en œuvre des activités du Projet. - Le système de supervision assurée par la partie burkinabè La supervision est assurée par une équipe comprenant le Directeur Régional et le Directeur Provincial qui réalise la tournée des GGF 4 fois par an. - Gestion de la mise en œuvre du Projet par le PDM et le PO Le Projet gère la mise en œuvre des activités suivant le PO annuel. Le PDM a fait l'objet d'une modification à la suite de la 2ème réunion du Comité de pilotage et en répondant à une lettre du MECV.
4. Communication interne au Projet	Rapports du Projet, Interviews	Depuis la prise de fonction de l'actuel CN, la transmission des messages de la partie japonaise envers la partie burkinabè à travers le CN fonctionne mieux. Depuis le démarrage du Projet, la communication est devenue de plus en plus facile au fur et à mesure de la mise en œuvre, ce qui fait qu'aujourd'hui les membres de l'équipe du Projet communiquent très activement entre eux.
5. Partenariat avec des acteurs locaux	Rapports du Projet, Interviews	- Membres du Comité du Pilotage (JCC) La Région des Cascades, la Province de la Comoé, les autorités des 4 départementales concernés, les 4 Communes, les services déconcentrés du Ministère de l'Agriculture et du Ministère des Ressources Animales sont présents à la réunion du Comité du Pilotage. A chaque réunion, le Projet donne l'explication sur les activités auprès de membres du Comité suivi d'une concertation. - Collaboration avec le Ministère des Ressources Animales Le Projet a confié la tâche de formateur aux agents compétents du Ministère des Ressources Animales pour dispenser la formation pour thème de la gestion du pâturage. Ceci est un cas concret de collaboration. - Partenariat avec la société civile Le partenariat est noué entre GGF et 2 entreprises privées dont une a déjà réalisé la formation de GGF.
6. Autres éléments influant sur le processus de mise en oeuvre	Rapports du Projet, Interviews	- Eléments facilitateurs • L'apparition des GGF entreprenant les activités génératrices de revenu à la suite de la formation • Les agents forestiers participent aux activités du Projet d'une manière plus active - Eléments perturbateurs • Le retard d'exécution et la diminution du montant du budget C/P burkinabè • La grande mobilité des agents forestiers ayant bénéficié de la formation du Projet. • La divergence de la compréhension entre la partie burkinabè et la partie japonaise sur la coopération technique de la JICA. • La fouille illégale de l'or a été pratiquée dans une partie des forêts classes. • L'ordre public d'une localité s'est détérioré à cause de l'apparition des bandits.

ANNEXE 9 : REALISATION PHYSIQUE PAR RAPPORT AUX IOV DU CADRE LOGIQUE DU PROJET (PDM) ver.2

Elaborée par l'Equipe du Projet le 24 Janvier 2010

Titre de Projet : Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts dans la Province de la Comoé
Durée du Projet : 5 ans (Juillet 2007 à Juin 2012)
Structures exécutantes : MECV : SG, DGCN, DIFOR, DR des Cascades, DP de la Comoé
Structures de collaboration : Gouvernorat des Cascades, Haut Commissariat de la Comoé, Communes de Banfora, Thiéfora, Sidéradougou et Soubakaniédougou, DR du MAHRH des Cascades, DR du MRA des Cascades, DR du MPF des Cascades, DGCOOP du MFE
Zone d'intervention : Forêts classée de Bounouna, Toumousséni, Gouandougou et Kongouko et leurs environs
Groupes ciblés : Populations riveraines des 4 forêts classées ciblées, personnel de l'administration forestière

	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
But Global La gestion participative et durable des forêts dans la zone Sud-Soudanienne est assurée par la population locale.	– Les plans d'aménagement et de gestion participative et durable pour les forêts situées dans la zone Sud-Soudanienne et les activités de gestion forestière durable y sont démarrés par la population locale. – Dans les 4 forêts classées ciblées du Projet, les activités initiées dans ce cadre sont poursuivies par les GGF/UGGF suivant les PAG élaborés.	-	–
Objectif du Projet Les activités visant la gestion durable des 4 forêts classées de Bounouna, Toumousséni, Gouandougou et Kongouko sont menées par la population locale à travers les GGF et les UGGF	Par rapport au moment du commencement du Projet, – les forêts classées ciblées du Projet sont dotées du zonage clairement défini qui constitue la base des activités de gestion forestière assurée par les GGF/UGGF. – Les objectifs d'aménagement de chaque forêt classée ciblée sont bien déterminés et les activités de gestion forestière conformes à ces objectifs sont effectuées par les GGF/UGGF de façon durable		–

Résultats Attendus	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
1. Les capacités des services forestiers (centraux et déconcentrés) à appuyer les populations en matière de la gestion participative et durable des forêts sont renforcées.	Les agents forestiers concernés par le Projet ont reçu les formations en gestion participative et durable des forêts au nombre d'au moins 4 au niveau central et 6 au niveau déconcentré et accompagnent efficacement les acteurs locaux.	– 4 fois de formations au niveau central et 6 fois au niveau déconcentré	– 4/4=100% au niveau central – 6/6=100% au niveau déconcentré
2. Les capacités des GGF et des UGGF des villages concernés sont renforcées en matière de gestion durable des ressources forestières	– 27 GGF et 4 UGGF sont nouvellement créés ou redynamisés. – Les GGF/UGGF commencent à effectuer des activités de gestion forestière en utilisant les techniques acquises avec la formation.	– 14 GGF sont nouvellement créés, soit au total 27 GGF avec l 3 GGF existants redynamisés – 2 UGGF ne sont pas encore mises en place GGF ayant commencé à leur initiative les activités de gestion : – Production de plants : Bounouna, Dandougou, Wenga, Djanga, Tonga – Plantation : Djanga, Bounouna, Soubaka (masculin et féminin), Fougangoué, Ouratenga, Wenga, Tonga – Gestion des feux de brousse : Djanga, Kadio, Gouara	– 14/14=100% pour la création et 13/13=100% pour la redynamisation – 0/2=0% pour la mise en place de nouvelles UGGF – 5/27=19% – 7/27=26% – 3/27=11%
3. Les conditions de vie des populations locales sont améliorées	– Les GGF commencent à effectuer des activités génératrices de revenu en valorisant les produits forestiers ligneux et non ligneux. – Les GGF prennent leurs initiatives pour le réinvestissement en matériels nécessaires à leurs activités..	Commencement des activités à l'initiative de GGF : – Production de bois de chauffe – Production de charbon de bois – Production de beurre de Karité de haute qualité – Production de miel – Vente de plantes médicinales – Production de soumbala de haute qualité Commencement du réinvestissement – Production de beurre de Karité de haute qualité – Production de soumbala de haute qualité – Apiculture moderne	 – 0/27=0% – 2/27=7% – 11/23=48% – 13/13=100% – 8/24=33% – 7/23=30% – 6/23=26% – 5/23=22% – 1/13=8%

4. Les Plans d'Aménagement et de Gestion (PAG) des 4 FC sont élaborés et connaissent un début de mise en œuvre.	– Les PAG sont élaborés au nombre de 1 pour chaque forêt classée ciblée, soit au total 4. – Un Guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone Sud – Soudanienne est élaboré. – Les manuels pratiques de gestion participative et durable des forêts au profit des populations locales sont élaborés au moins pour 8 thèmes. – Les GGF/UGGF commencent à effectuer de façon durable au moins 4 types d'activité de gestion forestière suivant le PAG.	– L'élaboration de l'avant-projet de 4 PAG est prévue en 3ème année. – L'élaboration de l'avant-projet du Guide méthodologique d'aménagement des forêts est prévue en 3ème année. – L'élaboration de l'avant-projet des Manuels pratiques de gestion participative et durable des forêts est prévue en 3ème année. – Pratiquement, 3 types d'activité de gestion sont commencés par certains GGF, mais pas suivant le PAG.	– 0/4=0% – 0/1=0% – 0/8=0% – 0/4=0%
5. Les partenaires locaux et les services forestiers ont une relation de collaboration plus étroite pour la gestion durable des forêts	– Les rencontres avec les acteurs locaux et les représentants des autorités locales et des services techniques concernés se tiennent au moins 3 fois par an. – Un protocole de coopération est passé entre le Projet et la Direction Régionale du MECV des Cascades. – Les relations de collaboration sont établies avec les sociétés civiles de la localité.	2007 : 1 atelier de lancement du projet (le 2 août 2007), 2008 : 1er comité de pilotage (le 21 février 2008), 1er séminaire des acteurs locaux (le 28 mai 2008) 2009 : 2ème comité de pilotage (le 20 février 2009), 2ème séminaire des acteurs locaux (le 19 juin 2009)	– 1/1=100% – 3/3=100% – 3/3=100%

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
A0.1. Faire la revue des études réalisées ainsi que les résultats des projets similaires	- Les documents et les rapports existants (copie et original) sont collectés et consultés.	– Terminé	- 100%
A0.2. Mettre en place le bureau du Projet au niveau local ainsi que les ressources humaines et matérielles nécessaires pour l'exécution des activités	- Un bureau de projet est mis à la disposition du Projet. - Le personnel d'appui est recruté dans le cadre du Projet au nombre de 5. - Le Projet est doté de matériels roulants, des équipements informatiques et bureautiques nécessaires à la mise en œuvre des activités du Projet.	– Terminé – Terminé – Terminé	– 100% – 100% – 100%
A0.3. Mettre en place un mécanisme de coordination de la mise en oeuvre du Projet	- Le Coordonnateur National est affecté au Projet par l'arrêté ministériel. - La session du comité de pilotage est tenue 2 fois par an.	– Terminé	– 100%

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
A1.1. Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des services forestiers au niveau central et déconcentré en vue de leur renforcement	- Les sessions d'auto-évaluation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré - Au moins 10 forestiers y participent au niveau central et au niveau déconcentré.	– 1 fois d'auto-évaluation au niveau central et déconcentré – 11,5 forestiers en moyen	– 1/1=100% au niveau central et déconcentré – 11,5/10=115%
A1.2. Réaliser des formations et des ateliers en matière de conception et de mise en œuvre des plans d'aménagement et de gestion participative des forêts au profit des services forestiers	- Les sessions de formation sont tenues 2 fois au niveau central et 2 fois au niveau déconcentré. - La formation traite au moins 2 thèmes. - Les forestiers y participent au nombre cumulatif de 20 (10x2) au niveau central et de 20 (10x2) au niveau déconcentré.	– 3 fois de formation au niveau central et 4 fois au niveau déconcentré – 3 thèmes au niveau central et 4 au niveau déconcentré – 14+14+12 au niveau central et 9+9+6+5 au niveau déconcentré	– 3/2=150% et 4/2=200% – 3/2=150% et 4/2=200% – 40/20=200% et 29/20=145%
A1.3. Réaliser des formations sur les techniques de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers	- Les sessions de formation sont tenues 2 fois au niveau déconcentré. - Les forestiers y participent au nombre cumulatif d'au moins 20 (10x2).	– 1 fois de formation – 10 forestiers	– 1/2=50% – 10/10=100%
A1.4. Réaliser des formations sur le suivi – évaluation des activités de gestion participative et durable des forêts au profit des agents forestiers	- Les sessions de formation sont tenues 1 fois au niveau central et 1 fois au niveau déconcentré. - Les forestiers y participent au nombre de 10 (10x1) au niveau central et 10 (10x1) au niveau déconcentré.	– 1 fois de formation au niveau central et 3 fois au niveau déconcentré – 8 forestiers au niveau central et 12+6+9 au niveau déconcentré	– 1/1=100% et 3/1=300% – 8/10=80% et 27/10=270%
A1.5. Faire le suivi/contrôle périodique par l'équipe des forestiers concernés*1	- Le suivi est effectué 1 fois par trimestre, soit 4 fois par an.	– Aucun suivi n'est réalisé.	– 0%

*1 : L'équipe des forestiers est composée du DR des Cascades, de la DP de la Comoé, d'un représentant du SAFOR/DIFOR et un représentant du Suivi-Ecologique et de la Statistique

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
A2.1. Evaluer les capacités techniques et organisationnelles actuelles des GGF et des UGGF existants	- La rencontre d'évaluation est effectuée 1 fois par village, soit au total 24 fois.	– 24 villages ont été étudié et Tatana a été exclu et le nombre de villages cibles est de 23.	– 24/24=100%
A2.2. Renforcer les capacités techniques et organisationnelles des GGF et des UGGF existants dans les villages concernés par le Projet	- Les sessions de formation sont tenues 2 fois. - Les membres de bureaux sont renouvelés dans 13 GGF existants. - La formation est effectuée avec les thèmes de « Prise en note et gestion comptable » et « Planification ».	– 1 fois de formation et 1 fois de recyclage ont été faites pour 27 GGF en « Prise en note et gestion comptable » et 21 GGF ont été formés en « Planification » et « Gestion des revenus ». – Les membres de bureaux ont été renouvelés dans 13 GGF existants. – En plus de 2 thèmes, un thème de « Gestion des revenus » a été ajouté.	– 2/2=100% – 13/13=100% – 3/2=150%
A2.3. Promouvoir la création de nouveaux GGF et UGGF dans les villages riverains des 4 FC	- 14 GGF et 2 UGGF respectivement pour la FC de Gouandougou et celle de Kongouko sont nouvellement créés.	– 14 GGF ont été nouvellement mis en place. Cependant, 2 UGGF ne sont pas encore créées.	– 14/14=100% – 0/2=0%
A2.4. Réaliser des formations sur les techniques de gestion forestière (pépinière, plantation, gestion des feux, exploitation du bois de chauffe, bois d'œuvre, carbonisation, PFNL, etc.)*2	- Les sessions de formation avec 8 thèmes différents sont tenues au moins 1 fois pour 1 GGF, soit au total 216 (8 x 27). - Au moins 10 membres de GGF y participent pour une session, soit au total 2160 (10 x 216).	– Les thèmes de formation sont de 12 : Prise de note et gestion comptable, Planification, Gestion des revenus, Amélioration de la qualité de beurre de Karité, Amélioration de la qualité de soumbala, Valorisation des plantes médicinales, Production de plants et plantation, Gestion du pâturage, Gestion des feux de brousse, Apiculture moderne, Coupe de bois, Carbonisation – Le nombre cumulatif des formés est de 4429 (1992 hommes et 2437 femmes).	– 12/8=150% – 4429/2160=205%
A2.5. Réaliser des formations sur les techniques de négociation et de vente des produits forestiers au profit des GGF et des UGGF	- Les sessions de formation sont tenues 1 fois par GGF, soit au total 27 fois. - Les membres de GGF y participent au nombre d'au moins 10 par GGF, soit au total 270 (10 x 27).	– Cette formation a été incluse dans la formation en « Planification » et « Gestion des revenus ».	
A2.6. Réaliser les formations sur le suivi-évaluation des activités des GGF et des UGGF	- Les sessions de formation sont tenues 1 fois par GGF, soit au total 27 fois. - Les membres de GGF y participent au nombre d'au moins 10 par GGF, soit au total 270 (10 x 27).	Cette formation est incluse dans la formation en « Gestion des revenus ».	

*2 : Mode de mise en œuvre : par le bureau d'étude et/ou par le personnel de service technique d'Etat avec le Projet

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
A3.1. Evaluer les besoins en infrastructures et équipements socio-économiques prioritaires de la population locale et analyser leur faisabilité	- Une liste des besoins identifiés est établie avec la mention de faisabilité	– Une liste est établie.	– 1/1=100%
A3.2. Planifier et réaliser des activités visant la valorisation des ressources ligneuses et non ligneuses par la population locale	- Au moins 6 types d'activité*3 sont sélectionnées parmi celles énumérées par les membres de GGF et ces activités sont planifiées et mises en œuvre.	– Les types d'activités sélectionnés sont au nombre de 8 : Production de bois de chauffe, Production de charbon de bois, Amélioration de la qualité de beurre de Karité, Valorisation des plantes médicinales, Apiculture, Amélioration de la qualité de Soumbala, Fauchage, Valorisation de Saba ont été identifiés.	– 8/6=133%
A3.3. Planifier et réaliser des activités visant la satisfaction des besoins en infrastructures socio-économiques prioritaires retenues au profit de la population locale	- Au moins 1 type d'infrastructures est sélectionné parmi ceux énumérés par les membres de GGF et l'aménagement de ce type d'infrastructure est planifié et réalisé.	– Les types d'infrastructures sélectionnés sont au nombre de 3 : Forage, Aménagement de points d'eau, installation de magasins de GGF	– 3/1=300%

*3 :Production de bois de chauffe, production de charbon de bois, Amélioration de la qualité de beurre de Karité, Valorisation des plantes médicinales, Apiculture, Amélioration de la qualité de Soumbala,

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
A4.1. Elaborer le PAG de chaque FC	- 1 PAG est élaboré pour chaque FC ciblée, soit au total 4.	– L'équipe d'élaboration, le calendrier des travaux et le canevas du PAG sont provisoirement déterminés au niveau régional.	– 0/4=0%
A4.2. Démarrer les activités de gestion forestière conformément aux prescriptions des PAG élaborés	- L'élaboration de PAG commence en octobre 2009 et les activités concrètes suivant le PAG sont démarrées en octobre 2010.	– Partiellement, les activités à inclure dans le PAG ont déjà commencé.	Difficile à quantifier par rapport aux indicateurs.
A4.3. Elaborer un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud – soudanienne du pays	- Un guide méthodologique d'aménagement des forêts dans la zone sud-soudanienne est élaboré.	– L'élaboration du guide n'est pas encore commencée.	– 0/1=0%
A4.4. Etablir des guides pratiques appropriés pour la population locale en matière de gestion forestière participative	- Les manuels pratiques pour 8 thèmes différents sont élaborés.	– L'élaboration du guide n'est pas encore commencée.	– 0/8=0%

Activités à mener	Indicateurs objectivement vérifiables	Réalisation	Taux de réalisation
A5.1. Organiser des séminaires pour présenter le Projet aux autorités locales et aux services concernés	- Le séminaire des acteurs locaux est organisé 1 fois par ans, soit au total 5 fois durant le Projet. - Au moins 80 participants sont présents dans chaque séminaire.	– Jusqu'à la 3ème année, 3 séminaires des acteurs locaux ont été organisés. – 100 participants en moyen étaient présents pour chacun de ces 3 séminaires.	– 3/5=60% – 100/80=125%
A5.2. Réaliser des échanges et diffuser des informations sur le Projet à travers des rencontres techniques, des rapports d'activités et des différents canaux d'information	- La session du comité de pilotage est tenue 2 fois par an, soit au total 10 fois durant le Projet. - Au moins 29 types de rapports d'activités sont préparés. - Le journal de Projet est publié 12 fois. - Le voyage d'étude est organisé 3 fois.	– Pour la 1ère année, une seule fois de comité de pilotage a été tenue et en 2ème année 2 fois. – Depuis le démarrage du projet, 13 rapports périodiques ont été préparés par l'équipe de Projet. – Jusqu'au présent, 6 journaux ont été publiés par le projet. – Jusqu'au présent, aucun voyage d'étude n'est pas organisé.	– 3/10=30% – 13/29=45% – 6/12=50% – 0/3=0%
A5.3. Appuyer le service forestier pour la supervision des activités forestières programmées dans les Plans de Développement Communal des Communes concernées	- Les forestiers concernés effectuent au moins 1 fois par trimestre, soit 4 fois par an une supervision des activités du secteur forestier inclues dans le Plan de Développement Communal.	– La supervision des activités forestières au niveau de la commune de Thiéfora a été effectuée.	– 1/10=10%

90

« Intrants »

Partie japonaise :

- **Experts japonais**
  - Conseiller Technique Principal
  - Expert en gestion participative des forêts
  - Gestionnaire financier
  - Autres experts selon les besoins de l'étude afin de mettre en œuvre efficacement le Projet

- **Equipement :**
  - Véhicule(s) tout terrain
  - Moto(s) tout terrain
  - Equipements pour la gestion forestière
  - Equipements pour la mise en œuvre des activités visant l'amélioration des conditions de vie de la population locale
  - Autres équipements nécessaires

- Formation du personnel burkinabè au Japon

Partie burkinabè :

- **Personnel homologue du Projet**
  - Directeur des Forêts
  - Directeur de la DRECV des Cascades
  - Directeur de la DPECV de la Comoé
  - Coordonnateur du Projet
  - Agents forestiers concernés

- Personnel d'appui :
  - Secrétaire/comptable
  - Agent de liaison
  - Chauffeur
  - Gardien

- Locaux et commodités :
  - Locaux (bureau et magasin) nécessaire pour l'exécution du Projet
  - Eau et électricité nécessaires pour l'exécution du Projet
  - Autres commodités jugées nécessaires d'un commun accord

- Dépenses courantes

「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画」を対象とした
中間レビュー調査に係る協議議事録

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」という）が組織した遠藤浩昭を団長とする中間レビュー調査団（以下、「調査団」という）は、コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画（以下、「プロジェクト」という）の中間レビュー調査を実施することを目的とし、2010年1月11日から2010年1月28日までブルキナファソ国において、ブルキナファソ国環境・生活環境省（以下、「MECV」という）のクリバリ・シア氏と共に合同評価調査を行った。

合同評価調査団は調査及び調査結果の分析を行った後、合同評価調査レポートを作成し、MECV次官に提出した。MECV次官に評価結果を説明して別添中間レビュー調査報告書に掲げられた提言を、プロジェクト中あるいは期間終了後も実行する必要性を強調した。

双方はこれらの提言の実施に関して合意した。

2010年1月27日　ワガドゥグ

遠藤　浩昭	ママ　クリスティーヌ　リエウン
中間レビュー調査団　団長	環境・生活環境省　次官
独立行政法人　国際協力機構	ブルキナファソ国
日本国	

「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画」を対象とした
中間レビュー調査に係る協議議事録

コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画（以下、「プロジェクト」という）のため、中間レビュー調査団は、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」という）の代表者である遠藤浩昭とブルキナファソ国環境・生活環境省（以下、「MECV」という）の代表者であるクリバリ・シア氏が構成された。そして、その中間レビュー調査団は2010年1月11日から2010年1月28日までブルキナファソ国において合同評価調査を行った。

合同評価調査団は調査結果の分析を行った後、合同調査団は合同評価調査レポートを作成し、MECV次官に提出した。MECV次官に評価結果を説明した後、合同評価団は中間レビュー調査報告書に掲げられた提言をプロジェクト期間終了後も実行する必要性を希望した。

双方はこれらの提言の実施に関して合意した。

中間評価報告書（翻訳文）

１．序文

2007 年 6 月 7 日に日本とブルキナファソ政府との間で署名された実施協議議事録（R/D）に基づき、5 年間（2007 年 7 月 1 日から 2012 年 6 月 30 日）の「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画」（以下、「プロジェクト」）が開始された。

本報告書は、プロジェクト協力期間の中間時点に実施された中間レビュー調査の合同評価報告書である。

1.1 調査の目的

調査の目的は以下のとおりである。

(1) プロジェクト協力期間の中間時点にあたる本プロジェクトが順調に実施されているかを包括的に検証するとともに、活動実績及び実施プロセスを確認し、ブルキナファソ側と日本側が合同で評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点からプロジェクトの評価を行う。

(2) プロジェクト目標の達成に向けた活動期間後半の活動の方向性及び計画の軌道修正の必要性について提言を行う。

1.2 合同評価調査団メンバー

(1) 日本側団員

タイトル	所属先	氏　　名
総括	JICA 地球環境部 森林･自然環境保全第二課長	遠藤　浩昭
協力計画	JICA 地球環境部 森林･自然環境保全第二課職員	岸田　匡
評価・分析	ICONS 国際協力株式会社	西村　邦雄
通訳		関田　眞理子

(2) ブルキナファソ側団員

所属先	氏　　名
環境・生活環境省自然保護総局森林局森林整備課長	クリバリ・シア

1.3 評価調査のスケジュール

本評価調査は、2010 年 1 月 11 日から 1 月 28 日にかけて行われた。合同評価調査団は以下当局に対する表敬を行った。MECV 次官、協力総局長、コモエ県庁事務局長、シデラドゥグゥとスバカの助役及び市総監、及びティエフォラ市長に表敬を行った。また、合同評価団はプロジェクトに関する情報収集を以下のような関係者に対する質問票、回答に基づいたインタビューを通して情報を収集した。

－森林機関職員プロジェクトカウンターパート（中央、州、県及び郡）
－プロジェクトチーム（NC、日本人専門家）
－対象となる４指定林の GGF
－非木材林産物活用分野における民間企業（フィトフラ社、ボンバテクノ社、ダンセ社）
－対象となる GGF の活動の進捗状況を確認するために評価団はプロジェクト実施ゾーンの視察を行った。

収集された様々なデータを基に評価団は評価レポートを作成し、双方によって仕上げられた。

２．プロジェクトのアウトライン

2.1 プロジェクトの背景

ブルキナファソ国（以下「ブ」国）は、サヘル地帯に属していることから「ブ」国は今日、気候変動を主たる理由とする幾つかの問題による砂漠化に直面している。これに加えて急激な人口の増加、農耕可能な放牧地を求めて北部から南部及び西部に向けての人口の移動、移動焼畑農業、過度の放牧、森林面積の減少（110,500 ヘクタール／年）が挙げられる。

このような状況に鑑み、「ブ」国政府は国家森林政策（PNF）を 1995 年に策定した。この政策実施のために MECV は 1996 年に国家森林整備プログラム（PNAF）及び森林資源管理を規制する幾つかの法を制定した。

以上の状況を背景として、「ブ」国政府の要請に応え、JICA は 2002 年 8 月から 2005 年６月にかけてコモエにおける指定林の参加型管理のための開発調査を実施した。この調査の対象ゾーンはブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ、ディダの指定林であった。この調査によりこれらの指定林のための参加型管理プラン遂行のための方向性とアプローチが示された。

この開発調査の結果から、「ブ」国政府は指定林における森林資源を持続可能な参加型管理を目指した技術協力の新しい要請を日本国に対し要請を行った。

この要請に応えて、コモエ県における森林の持続可能な参加型管理プロジェクト（PROGEPAF/Comoè）が日本の協力によるプロジェクトが砂漠化の顕著な「ブ」国において実施されることとなった。

2.2 プロジェクトの概要

(1)協力期間：5 年間（2007 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日）
(2)相手国機関名：環境・生活環境省（MECV）森林局（DiFor）
(3)プロジェクトエリア：ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ指定林及びその隣接地域
(4)上位目標：南スーダン気候帯において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される。
(5)プロジェクト目標：対象となる４つの指定林(ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ)において、森林管理住民組織(GGF)及び住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる。
(6)アウトプット
1)住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。
2)対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。
3)地域住民の生活状況が改善される。
4)対象とする４つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。
5)持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。

３．評価方法

3.1 データ収集方法

日本側、ブルキナファソ側双方による合同評価調査団は、PDM（別添１）、最新 PO（別添 2）、過去のプロジェクト記録等の資料調査、プロジェクト関係者への質問票調査及び聞き取り調査、現地調査によりデータを収集した。

3.2 分析項目

3.2.1 プロジェクトの実績

R/D 及び PDM の計画に沿って、プロジェクト目標や上位目標の達成の度合い、アウトプットの産出状況、投入の実施状況などを検証する。

3.2.2 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトの実施過程全般を見る視点であり、活動は計画通りに行われているか、プロジェクトのマネジメントは適切に行われているか等を検証する。当初の計画どおりに活動が実施され、アウトプットに結びついているかどうかを確認するとともに、実施プロセスの何がアウトプットや目標達成に影響を与えているのかを検証する。

3.2.3 評価 5 項目

評価に当たって５つのクライテリアが用いられる。これらは妥当性、有効性、効率性、インパクト及び自立発展性である。

(1) 妥当性：対象地域・社会のニーズに合致しているか、ターゲットグループのニーズに合致しているか、ブルキナファソ国の開発政策や日本の援助政策と整合性があるか、プロジェクトのアプローチは適切かなどを評価する。
(2) 有効性：プロジェクト目標達成の見込みはあるか、プロジェクト目標を達成する阻害要因はあるか、アウトプットはプロジェクト目標を達成するために十分であるか、アウトプットからプロジェクト目標に至る外部条件は現時点においても正しいかなどを評価する。
(3) 効率性：アウトプットの達成度は適切か、アウトプット達成を阻害した要因はあるか、アウトプットを産出するために十分な活動であったか、アウトプットを産出するために十分な投入であったか、外部条件による影響はないか、計画に沿って活動を行うために、過不足ない量・質の投入がタイミングよく実施されたかなどを評価する。
(4) インパクト（予測）：上位目標はプロジェクトの効果として発現が見込まれるか、上位目標を達成する阻害要因はあるか、上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか、プロジェクト目標から上位目標へ至る外部条件は現時点でも正しいか、上位目標以外の効果・影響が想定されるかなどを評価する。特にマイナスの影響が想定される場合は、それを軽減するための対策がとられているかを検証する。
(5) 自立発展性（見込み）：プロジェクト目標、上位目標などのプロジェクトが目指している効果は、協力終了後も持続すると見込まれるかを評価する。それらの持続的効果の発現要因、阻害要因は何かを、制度・組織面、財政面、技術面の観点から評価する。

４．プロジェクトの実績と実施プロセスの検証

4.1 プロジェクトの実績

4.1.1 投入の実績

双方から提示された数値によれば､現在のプロジェクトの予算執行率は以下の通りである。

表１　ブルキナファソ側投入（2009 年 12 月）

C/P 配置	監督（森林局）　：２名
	監督（カスカード州局）　：８名
	監督（コモエ県局）　：４名
	森林官（対象 4 指定林）　：15 名
	ﾅｼｮﾅﾙ･ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ（NC）　：１名
支援要員	秘書・会計　１名　運転手 １名　警備員 １名 苗畑担当者　１名　連絡員 １名

項目	全体予算 (FCFA)	執行予算(FCFA) (2009 年 12 月 31 日まで)	執行率
人件費	23,174,284	23,174,284	100%
運営費(事務費、光熱費等)	13,081,550	13,081,550	100%
作業費	182,260,000	0	0%
物資役務の購買	31,484,166	31,484,166	100%
合　　計	250,000,000	67,740,000	27.10%

表 2　日本側投入

項目	実　績
日本人専門家派遣	短期:　計 6 名 チーフアドバイザー　1 名　　副総括／生計向上　1 名 参加型開発　2 名　　業務調整　1 名　業務調整／研修管理　1 名
調達機材	車両、バイク、他資機材
本邦研修員受入れ	計　3 名
現地活動費	研修、事務、調査、その他の作業等

項目	全体予算 (FCFA)	執行予算(FCFA) (2009 年 12 月 31 日まで)	執行率
日本人専門家派遣	1,192,000.000	690,411,787	57.9%
調達機材	63,000,000	55,667,456	88.4%
研修、事務、調査、その他の作業等	264,000,000	229,729,370	86.7%
合　　計	1,520,000.000	975,808,612	64.2%

4.1.2 アウトプットの実績

以下、PDM のアウトプットの指標に対する実績について記述する。

(1) アウトプット 1：住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する

1) 中央レベル

中央レベルで 4 回（『自己能力分析・ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ能力』、『参加とは』、『PAG』、『モニタリング・評価』）が実施された。

2) 地方レベル

地方レベルで 7 回（『自己能力分析・ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ能力』、『参加とは』、『PCM』、『組織能力強化-記録と会計』、『PAG』、『モニタリング・評価』、『事務所整備』）が実施された。

その結果、対象地域の森林官事務所における執務環境が整備された。地域関係者との協働については、研修を受けた森林官が森林管理技術研修の講師として GGF に対して既に研修を実施している。また、コミューンにおける苗木の生産や植林活動を指導する森林官を支援する予定である。

(2) アウトプット 2：対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。

14GGF が新規設置され、既存の 13GGF の事務局の役員が改選され森林管理活動を開始している。GGF では苗木生産（５GGF)、植林（７GGF)、防火線開設（３GGF)、所得創出活動が開始された。プロジェクト支援によってブヌナとトムセニの UGGF の活動が再活性化された。

(3) アウトプット 3：地域住民の生活状況が改善される。

3.1)対象指定林関連の一部 GGF が木材（木炭生産 GGF 数：3）及び非木材林産物（シアバター生産 GGF 数：11、蜂蜜生産 GGF 数：7、薬用植物採取 GGF 数：8（男女別)、スンバラ生産 GGF 数：7）を活用した所得創出活動を開始した。

3.2)12GGF が養蜂箱及び原料種子購入に再投資をした。

(4) アウトプット 4：対象とする４つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される

4.1) PAG 立案のためにプロジェクトは以下の事業を実施した。

－森林野生動物の生息ゾーン調査を含む４指定林の森林インベントリ
－林産物生産ゾーン及び開発者に関する調査
－指定林周辺住民による非木材林産物の活用に関する調査
－バンフォラにおける木材市場に関する情報の収集
－対象指定林毎の 4 つの PAG の策定スケジュールは作成している。第 3 年次に PAG ドラフトを策定する予定である。

4.2)これまでに収集した資料を基に、第 3 年次に南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドドラフトを作成予定である。

4.3)これまでの研修で作成したマニュアルを基にして苗木生産、植林、伐採、野火管理、放牧管理、高品質シアバター生産、近代養蜂、薬用植物活用に関するマニュアルドラフトを第 3 年次以降に作成予定である。

4.4) PAG 策定前ではあるが、研修を実施した GGF の一部は苗木生産、植林、野火管理、高品質シアバター生産、近代養蜂、薬用植物活用活動を既に開始した。

(5) アウトプット 5：持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。

5.1)これまでの 2 年 6 ヶ月間に JCC 及び地域関係者セミナーをそれぞれ 3 回ずつ、計 6 回開催しており、2009 年は JCC を 2 回、地域関係者セミナーを第 1 回開催した。

5.2)2010 年 1 月、本プロジェクトとカスカード州局との間で提携協定を締結予定である。

5.3)民間企業との連携として薬用植物活用で実績のある Phytofla 社（バンフォラ）と研修を受けた GGF が採取した薬用植物を買取ることで連携した。また、樹実活用で実績のある BombaThecno 社（バンフォラ）との連携も予定している。

4.1.3 プロジェクト目標の達成状況

1)各指定林管理のための森林区画策定は 2010 年開始予定である。基礎情報が既に入手されており、この活動は開始可能である。

2)中間レビュー調査時点（2010 年 1 月）までに研修を終了した GGF の大半が森林管理活動、及び生計向上に資する活動を既に実施している。そのことにより地域住民による持続的森林管理を行う下地は出来つつある。

4.2 実施プロセスの検証（詳細は別添 8 を参照）

－PDM に関し、森林行政官によるモニタリング活動及びコミューンの植林活動を支援するた

め、新規活動として 2 項目（活動 1-5、活動 5-3）を追加し、また指標をより具体的に変更した。

－GGF をフォローアップするためにモニタリング体制を構築した。

－森林官との連携を更に強化するため、森林管理技術研修に関して森林官を研修講師として活用した。

－本プロジェクト開始時における技術協力プロジェクトに関する日ブ双方の認識の相違、及びブ国側 C/P 予算執行の遅れや減額があった。しかし、日ブ双方の努力によりプロジェクトに対する認識の改善がみられ、活動はほぼ計画通りに進捗している。

５．評価 5 項目による評価

5.1 妥当性

ブ国では国家森林政策や森林整備国家プログラムを策定し、GGF を通じた指定林整備を進めている。また、今後は非木材林産物など多様化した林産物を活用することも求められている。こうしたことから、本プロジェクトの目標は現在でも「ブ」国、カスカード州及びターゲットグループの地域住民のニーズと合致していると判断できる。以上により本プロジェクトと「ブ」国の国家政策との整合性は高い。また、日本政府は TICADIV においてアフリカ諸国に対する気候変動対策への支援強化を打ち出しており、日本の ODA 政策との整合性も高い。

指定林は地域住民の生活基盤であり、GGF/UGGF を通じた持続的に森林管理を行うことを目指すのは適切なアプローチといえる。また、持続的森林管理を行うために各 4 指定林と村落住民の状況に応じた PAG を策定することは地域住民の生活を守りつつ森林保全を図るということから妥当である。

以上より総合的に判断するとプロジェクトは現在でも妥当性が高い。

5.2 有効性

現在までに新規設置あるいは再活性化された GGF の大半において研修を実施した結果、森林管理活動、及び生計向上に資する活動が既に実施されている。研修を受けた森林官と地域住民との信頼関係は深くなりつつあり、また、PAG 策定に必要な森林資源などの基礎情報の収集も行われている。これらにより地域住民による持続的森林管理が行われるための下地は出来つつある。

このように各アウトプットはプロジェクト目標の達成に貢献しており、プロジェクト終了時までにはプロジェクト目標が達成されることが見込まれる。

アウトプットに至る以下の外部条件については、現時点ではこれらの外部条件に抵触するような事態は発生していない。

- 森林資源に影響を及ぼしえる自然災害が発生しない
- 対象４指定林の PAG がブ国政府により承認される
- 全てのレベルでのガバナンスが良好に保たれる

ただし、外部条件「対象４指定林の PAG がブ国政府により承認される」については、PAG が法（CRAT、CPAT、CNAT）に承認されるためには長い手続を経る必要があり、これまでに承認された PAG の前例も未だない。よって、プロジェクト期間内にどの程度まで承認手続きを進めることが出来るか不明である。

5.3 効率性

「ブ」国・日本側双方の投入は、タイミング、質、量の面で全体的には適切であったと判断でき、アウトプットの産出に貢献している。日本側の投入については、第 2 回 JCC の後に森林行政とより一層の連携の強化を図る目的で予算が上向きに見直され、アウトプット達成のために日本側の予算が増加した。一方、「ブ」国の毎年の C/P 予算執行の遅れがアウトプッ

ト産出にマイナスの影響を及ぼす可能性がある。

5.4 インパクト

(1)正のインパクト

・農民と牧畜民との関係改善

本プロジェクトにおいて実施したバンフォラ、スバカのコミューン村での放牧管理研修の結果、放牧民の GGF への加入が増加し、GGF 会員を含む農民と放牧民との間の係争が減少した。

・村落組織の能力エンパワーメント

本プロジェクトで実施した GGF に対する組織能力強化は森林管理につながっている。他方、GGF の活動に参加した GGF の村全体の能力向上につながっている。例えば、GGF の女性が村の会合における発言力をもってきている。このように能力向上はジェンダー面でもプラスのインパクトを生じている。

・地域住民と森林官との関係改善

森林官と地域住民の関係は、プロジェクトの開始によってより近い関係になった。すなわち、地域住民は森林官に対してよい印象を持つようになった。

(2)上位目標

現時点で上位目標レベルの達成見込みへ言及するのは時期尚早であるが、プロジェクト目標が実施された後、プロジェクト終了後も少なくともプロジェクト対象の指定林ではプロジェクトで導入された活動の幾つかが継続的に実施される可能性はある。しかし、「南スーダン気候帯においては」は広範囲であるため、達成が困難と予測される。

5.5 自立発展性の見通し

制度的・組織的側面

「ブ」国では砂漠化、森林減少が課題であるため、PAG の規定に基づいて GGF/UGGF に責任を持たせて指定林管理を行うという「ブ」国政府の基本政策は継続されると考えられる。

本プロジェクトの成果を持続させ、発展させていくためには森林官の住民参加型アプローチに関する能力向上を継続していくことが必要である。

財政的側面

「ブ」国側負担のカウンターパート予算執行の遅れや予算減額を勘案すると、協力期間後に「ブ」国側がプロジェクト成果の持続性を確保するために必要な予算を「ブ」国は確保すべきである。

技術的側面

森林官は必要な関連技術を活用・普及する能力を持っている。GGF が自立的に経済活動を促進していくために森林官による側面支援が必要である。また、地域の民間企業を含む関係機関との関係構築も GGF の活動を継続していく上で必要である。

プロジェクトで教えられた新しい森林管理技術は地域の有用技術を最大限に活用しており、カウンターパート及び GGF に受け入れられている。活動が進むにつれてカウンターパートや GGF の学ぶ意欲も向上してきており、習得したことを既に実践に移している。この点でも技術面の自立発展性が確保できる可能性が高い。

６．結論

本プロジェクトの目標は「ブ」国の森林資源政策や日本の援助政策とも整合性がとれており、現在も妥当性が高い。プロジェクト開始当初は本プロジェクトに対する「ブ」国側（森林機関、地域住民）と日本側双方の認識の違いから、活動の進捗に遅延が見られた。しかし、

その後の双方の努力により現在は改善されつつあり、少し遅れている 4 指定林における PAG 策定を除き概ね計画通りに順調に活動が進んでいる。この最後の活動については、2010 年に森林行政機関とプロジェクトチームにより既に処置が取られ、2010 年に開始が予想される。また、カウンターパート予算は、初年（2007 年）は確保されなかった。2 年次からは「ブ」国側の努力によりある程度までは確保された。しかしながらプロジェクト目標達成のためにもより多くの努力は続けられなければならない。これまでに、プロジェクトを通して森林資源の森林行政官の持続的住民参加型森林管理に関する能力が向上してきており、GGF による森林活動も開始されている。また、森林行政機関と地域関係機関との協力関係も深まりつつある。これらを踏まえると、PAG が遅滞なく策定され、かつ地域住民に現在見られるような高い関心が維持されるのであれば、プロジェクト目標達成の見込みは高い。

７．提言

(1)「ブ」国には PAG の承認のために法で定められた異なった委員会がある。

- 国土整備県委員会（CPAT）
- 国土整備州委員会（CRAT）
- 国土整備国家委員会（CNAT）

このような機関に時間を要することに鑑み、プロジェクトは 4 指定林の PAG の CPAT のレベルの承認まで支援する予定である。その後のステップについては「ブ」国側が森林局を通して最終的承認まで取る必要がある。

(2)一定の森林整備事業を進めるため、プロジェクトを定めた同意書に従った金額のカウンターパート予算の適時の執行が必要である。

(3)現況に合わせ、2009 年に採択された PDM(ver2)に関して以下の点について修正が必要である。

3.1)プロジェクト終了後 3 年での実現を考慮し、また上位目標への道筋を一層明確にするため、「南スーダン気候帯において」を「4 指定林」と変更する。そのために、残される指標は 2 番目（「対象４指定林においてプロジェクトで導入された活動が、策定された森林整備事業計画に則って GGF/UGGF により持続的に実施される。」）とする。

3.2)プロジェクト対象地域内において非安全状態（武装強盗、金違法採掘）が生じているため、アウトプットの外部条件の一つとして地域内の安全条件を入れる必要がある。

3.3)指定林では住民参加型森林管理を実施する政策が強く推進されており、速やかな実施を優先する必要がある。他方、PAG の承認には多岐にわたるステップがあり長期の時間を要するため、アウトプットの外部条件にある「PAG の承認」をプロジェクト目標の外部条件に移動する。

(4)プロジェクト成果の効率的な定着のため、カウンターパート森林官の配置転換について特別な配慮が必要である。

(5)森林行政機関がプロジェクト成果を一層活用できるようにするため、プロジェクトは燃料費と潤滑油費をカウンターパート予算に資金的補完することでプロジェクト活動のモニタリング評価への森林官の参画へ促すことが必要である。そのための手順は今後、双方により定義されることとなる。

(6) 森林資源保全のために 4 指定林周辺のコミューン参加をより強化するため、森林行政機

関は自らの能力強化することが必要である。

(7) 2010 年中に PAG の作成が開始される予定である。プロジェクト終了前に GGF が森林整備作業を習得するために、４指定林における整備事業を強化する必要がある。このため、カウンターパート予算を補完するためのプロジェクトによる追加的資金投入が必要である。

(8) ブルキナファソ側は､ＧＧＦに対して多くの研修が行われているが機材は少ないと認識している。また、機材ニーズの検出が不適切であった。このためプロジェクトにより供与された機材では、プロジェクト終了時にＧＧＦによる活動の持続性を確実にするための必要最低限のレベルにも達していない。したがってブルキナファソ側は、妥当性を持ち得なくなったと判断されるいくつかの研修が機材供与に置き換えられることを要望した。この点につき日本側は、受益者ＧＧＦの自立発展性および再投資に対する阻害要因と成り得るため、追加的な機材の供与には特殊な注意が必要であろうと考える。ＧＧＦのニーズ検出に関しては、2002-2005 に実施された「コモエ県森林管理計画調査」の結果に基いている。本プロジェクトは地域住民との直接かつ定期的なコミュニケーションを通して真のニーズの検出を現在まで続け、今後も続けて行く予定である。
この点について双方は合意に達しなかったので双方は次回 JCC までに引き続き検討するべきである。

別添１：PDM

PDM ver.2

改定年月日：2009 年 7 月 17 日

プロジェクト名:コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画
協力期間:5 年(2007 年 6 月から 2012 年 6 月)
受益国における実施機関:ブルキナファソ国環境・生活環境省、次官室、自然保全総局、森林局、カスカード州局、コモエ県局
協力機関:カスカード州庁、コモエ県庁、バンフォラ、ティエフォラ、シデラドゥグ及びスバカニエドゥグのコミューン、農業・給水・水産省カスカード州局、動物資源省カスカード州局、女性地位向上省カスカード州局、財務経済省国際協力総局、
プロジェクト・エリア:ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ指定林及びその隣接地域
対象グループ:4つの対象指定林隣接地域の住民、森林行政機関職員

	指標	入手手段	外部条件
上位目標 南スーダン気候帯において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される	- 南スーダン気候帯に属する指定林において参加型持続的森林整備事業計画が順次策定され、地域住民による持続的森林管理が開始される。 - 対象４指定林においてプロジェクトで導入された活動が、策定された森林整備事業計画に則って GGF／UGGF により持続的に実施される。	- GGF 及び UGGF 活動報告書 - 技術機関モニタリング／監督報告書 - カスカード州の指定林状況調査報告書 - 成果品の現物	- 参加型持続的森林管理に係る国家政策が継続される
プロジェクト目標 対象となる４つの指定林(ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ)において、森林管理住民組織(GGF)及び住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる	プロジェクト開始時に比べ、 - 対象指定林において、GGF／UGGF による森林管理活動の基礎となるゾーニングが明確にされる。 - 各対象指定林の整備目標が明確に設定され、その目標に沿った森林管理活動が GGF／UGGF により継続的に実施される	- GGF 及び UGGF 活動報告書 - 技術機関モニタリング／監督報告書	- カスカード州の社会経済状況が悪化しない
アウトプット 1. 住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する	- プロジェクト関係森林官が参加型持続的森林管理の研修を少なくとも中央レベルで４回、地方レベルで６回受け、効率よく地域関係者と協働する。	- 能力評価簡易報告書 - 研修評価報告書 - プロジェクト定期報告書	- 森林資源に影響を及ぼしえる自然災害が発生しない - 対象４指定林の PAG がブ国政府により承認される - 全てのレベルで
2. 対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する	- 27GGF 及び４UGGF が新規設置又は再活性化される。 - GGF 及び UGGF が研修で得た技術を活用し、森林管理活動を開始する。	- プロジェクト定期報告書 - GGF 及び UGGF の認定証 - GGF 及び UGGF 活動報告書	
3. 地域住民の生活状況が改善される	- 対象指定林関連の GGF が木材及び非木材林産物を活用した所得創出活動を開始する。	- プロジェクト定期報告書 - 中間評価報告書	

	- GGF が活動に要する資機材等への再投資を行う。		のガバナンスが良好に保たれる
アウトプット	指標	入手手段	外部条件
4. 対象とする４つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される	- 対象指定林毎に１計画、合計４つの PAG が策定される。 - 南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドが作成される。 - 地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアルが少なくとも８種類作成される。 - GGF/UGGF が継続的に少なくとも 4 種類の森林管理活動の技術を習得し、PAG に則って活動を開始する。	- MECV での修正 PAG - 南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイド - 地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアル - プロジェクト定期活動報告書	
5. 持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる	- 地域関係者及び関係省庁関係者との協議会を少なくとも毎年、年 3 回開催する。 - プロジェクトと州局との間で提携協定が締結される。 - 地域の民間企業との連携関係が構築される。	- 協議会合簡易報告書 - プロジェクト定期報告書 - 提携合意書、契約書	
活動			
A0.1. 実施済み調査及び類似プロジェクトの成果をレヴューする	- 既存資料及び報告書(コピー又はオリジナル)を収集し、検討する	- 収集資料リスト - プロジェクト定期報告書	
A0.2. 地方レベルにプロジェクト事務所を設け、活動実施に必要な人的、物的資源を配置する	- プロジェクトに事務所を配置する。 - プロジェクトがプロジェクト支援スタッフを 5 名雇用する。 - プロジェクトに車両、情報機器、事務機器などプロジェクト活動に必要な資機材を配置する。	- 事務所備品リスト - プロジェクト定期報告書 - 業務契約書 - 就業記録 - 現物	
A0.3. プロジェクト実施コーディネーション・メカニズムを設置する	- ナショナルコーディネーター1 名を配置する。 - 省令により合同調整委員会を設置し、年 2 回開催する。	- ナショナルコーディネーター任命に係る省令 - 合同調整委員会設置に係る省令 - プロジェクトの報告書又は簡易報告書	
A1.1. 能力向上を目的として、中央・地方森林行政機関の技術的、組織的能力現状を評価する。	- 自己評価会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回開催する。 - 自己評価会には少なくとも中央レベル 10 人、地方レベル 10 人の森林官が参加する。	- 森林官能力評価簡易報告書 - プロジェクト定期報告書	
A1.2. 森林行政当局に対して参加型森林整備事業計画策定及び実施に係る研修とワークショップを実施する。	- 研修会を中央レベル 2 回、地方レベル 2 回実施する。 - 研修は少なくとも 2 つのテーマを扱う。 - 研修会には少なくとも中央レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)、地方レ	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書	

	ベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。		
アウトプット	指標	入手手段	外部条件
A1.3.森林官向け参加型持続的森林管理技術に係る研修を実施する。	- 研修会を地方レベル 2 回実施する。 - 研修会には少なくとも延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書	
A1.4.森林官向け参加型持続的森林管理活動のモニタリング・評価に係る研修を実施する	- 研修会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回実施する。 - 研修会には少なくとも中央レベル 10 名、地方レベル 10 名の森林官が参加する。	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書	
A1.5.森林官チーム[1]が定期モニタリング／コントロールを実施する。	- モニタリングは四半期ごとに 1 回、年 4 回実施する。	- モニタリング報告書(モニタリングチーム作成)	
A2.1. 既存 GGF 及び UGGF の現在の技術、組織能力を評価する	- 評価会合が 1 村あたり 1 回の割合で 24 回実施される。	- 評価会合簡易報告書 - プロジェクト定期報告書	
A2.2. プロジェクト関連村落の既存 GGF 及び UGGF の技術、組織能力を強化する	- 研修会は 2 回実施する。 - 既存の 13GGF の執行部を刷新する。 - 研修は記録・会計及び計画立案の 2 つのテーマで行う。	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書 - GGF 総会議事録	
A2.3. 4 指定林隣接の村落及び村落グループにおいて新規 GGF 及び UGGF の設立を推進する	- 新規に 14 の GGF、またグァンドゥグ指定林及びコングコ指定林それぞれに UGGF を新設する。	- プロジェクト定期報告書 - GGF 設置議事録 - 認定証	
A2.4. 森林管理技術(苗畑、植林、野火管理、薪材生産、棒材・工芸品用材、用材生産、製炭、非木材林産物生産など)に係る研修を実施する[2]	- 研修会は 8 つのテーマで各 GGF 対象に少なくとも 1 回実施する（研修回数は延べ 216 回） - 研修会には少なくとも 1 回 10 人の GGF 会員が参加する（参加者数は延べ 2160 名）	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書	
A2.5. GGF 及び UGGF 向けに林産物の交渉、販売技術に係る研修を実施する	- 研修は少なくとも 1 GGF1 回の延べ 27 回実施する。 - 研修会には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名の GGF 会員が参加する。	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書	
A2.6. GGF 及び UGGF 向けにモニタリング・評価に係る研修を実施する	- 研修は少なくとも 1 GGF1 回の延べ 27 回実施する。 - 研修には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名の GGF 会員が参加する。	- 研修報告書 - プロジェクト定期報告書	

[1] 森林官チームの構成：カスカード州局長、コモエ県局長、森林局森林整備部代表 1 名及び生態モニタリング・統計局代表 1 名
[2] 実施形態は現地コンサルタントへの再委託及び技術機関職員を講師とするプロジェクト直営方式で行う

活動	指標	入手手段	外部条件
A3.1. 地域住民の優先社会経済インフラストラクチャー及び施設に関するニーズを調査し、その実現可能性を分析する	- 実施可能性記述を含むニーズリストが作成される。	- プロジェクト定期報告書	
A3.2. 木材及び非木材資源の活用を目的とする活動を計画し、実施する	- GGF 会員が挙げた活動の中から、少なくとも 6 種類の活動[3]を計画し、実施する。	- 立案された計画 - プロジェクト定期報告書 - 品質が向上した製品	
A3.3. 地域住民のために採択された社会経済優先ニーズ充足を目的とする活動を計画し、実施する	- GGF 会員が挙げたインフラの中から、少なくとも 1 つのインフラ整備を計画し、実施する。	- 策定された計画 - プロジェクト定期報告書 - 成果現物	
A4.1. 各指定林の整備事業計画を作成する	- 指定林ごとに 1 つの PAG、延べ 4 つの PAG を作成する。	- 承認済み PAG - プロジェクト定期報告書	
A4.2. 策定済み PAG に則って森林管理活動を開始する	- 2009 年 10 月から PAG の策定を順次開始され、計画に則った具体的な活動が 2010 年 10 月から開始される。	- プロジェクト定期報告書 - 成果現物	
A4.3. 森林官向けに南スーダン気候帯地域における森林整備方法論ガイドを作成する	- ガイドが作成される。	- ガイド文書 - プロジェクト定期報告書 - 承認ワークショップ報告書 - 作成協議会合簡易報告書	
A4.4. 参加型森林管理に関する地域住民に適した実践的ガイドを作成する	- 実践ガイドが少なくとも 8 種類作成される。	- マニュアル文書 - プロジェクト定期報告書	
A5.1. 地方行政機関並びに関連部局に本プロジェクトを紹介するためセミナーを開催する	- 地域関係者セミナーを年 1 回、延べ 5 回開催する。 - 地域関係者セミナーには少なくとも 80 名が参加する。	- セミナー報告書 - プロジェクト定期報告書	ブ国において住民参加型持続的森林管理に係る政策が存在する。
A5.2. 技術協議、活動報告書、各種情報伝達経路を通じてプロジェクトに係る意見交換を行い、情報を広める	- 合同調整委員会は年 2 回、延べ 10 回開催する。 - 各種活動報告書は少なくとも 29 回作成する。 - 《ニュースレター》は 12 回発行する。 - 研修旅行は 3 回実施する。	- プロジェクト定期報告書 - 合同調整委員会報告書 - 発行済み《ニュースレター》 - 研修旅行簡易報告書 - 検討ワークショップ報告書	
A5.3. コミューン開発計画の森林部門に係る森林官の監理活動を支援する	- 森林官は少なくとも四半期に 1 回、年に 4 回、関連コミューンが作成するコミューン開発計画に含まれる森林セクターの活動監理を行う。	- 監理報告書 - プロジェクト定期報告書 - 成果現物	

[3] 薪生産、木炭生産、シアバター品質向上、薬用植物活用、近代養蜂、スンバラ品質向上

［投入］

日本側：

- 専門家
  - チーフアドバイザー
  - 参加型森林管理
  - 業務調整
  - その他：効果的なプロジェクト実施のために必要性に応じて派遣する
- 機材供与
  - 四輪駆動車
  - オフロードバイク
  - 森林管理に必要な機材
  - 住民の生計向上新活動に必要な機材
  - その他の必要な機材
- 本邦研修

ブルキナファソ側：

- プロジェクトの主要なカウンターパート
  - 森林局長
  - カスカード州局長
  - コモエ県局長
  - ナショナル・コーディネーター
  - 森林官
- 支援要員
  - 秘書
  - メッセンジャー
  - 運転手
  - 守衛
- 施設・設備
  - プロジェクト実施に必要な建物（事務所と倉庫）
  - プロジェクト実施のための水道、電気
  - 必要に応じて双方で合意したその他の設備
- 運営管理コスト

別添2：ブルキナファソ国「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画」 PO及び活動実績表

■：実施　▒：随時実施

version 2対応

2010年1月10日

活動		担当責任者	2007	2008	2009	2010	2011	2012	主要な投入	進捗(09年12月現在)
			1月 4月 7月 10月	1月 4月 7月 10月	1月 4月 7月 10月	1月 4月 7月 10月	1月 4月 7月 10月	1月 4月		
0.準備期間									日：CA、業務調整、参加型開発(1)	
0-1	過去の調査やプロジェクトをレビューする。	日本人専門家、NC								第1年次、2007年6月以降随時情報収集
0-2	プロジェクト実施のために必要なプロジェクトの現地事務所、必要な人員、資機材の設置を行う。	DRECV、CA、Difor							日：車両、情報及び事務機器調達、プロジェクト支援スタッフ傭人費、燃料費などプロジェクト運営費、車庫倉庫設置費 ブ：車両調達、PC調達、プロジェクト支援スタッフ雇用	2007年7月末にプロジェクト事務所設置。情報・事務機器整備。2007年8月運転手、9月秘書・会計及びアシスタントファシリテータ(AF)傭人。現在、アシスタントファシリテーター3名、秘書・会計1名、運転手2名と役務提供契約。 ブ国：現在、秘書・会計1名、運転手1名、連絡員1名、ガードマン1名カウンター予算で契約雇用。
0-3	プロジェクト実施のための調整機能を整える。	DGCN, DiFor								
1.「住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。」									日：CA、生計向上、参加型開発(1)(2)、業務調整	
1-1	能力強化を図るため、中央・地方の森林行政機関の技術・組織能力に関して現状を分析する。	DRECV DPECV								2007年8月に中央及び地方レベルで能力診断実施
1-2	中央・地方の森林行政機関に対して、参加型で持続的な森林管理の計画と実践に関する研修やワークショップを実施する。	DiFor DRECV DPECV							日：再委託費	2007年9月以降中央及び地方レベルで合計12回の研修会を実施
1-3	地方森林官に対して、参加型で持続的な森林管理技術に関する研修を実施する。	DRECV DPECV								2008年1月に近代養蜂、非木材林産物に関する研修を実施
1-4	参加型で持続的な森林管理を行うためのモニタリング及び評価に関する研修を実施する。	DRECV DPECV								2008年11月に中央及び地方レベルで実施
1-5	森林官チームによる定期モニタリング実施を推進する。	DRECV DPECV								2009年12月に1回目を実施

Plan of Operation

	活動	担当責任者	2007				2008				2009				2010				2011				2012		主要な投入	進捗(09年12月現在)
			1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月		
2.「対象村落において、GGF及びUGGFの持続的森林管理に関する能力が向上する。」																									日：CA、生計向上、参加型開発(1)(2)、業務調整	
2-1	GGF及びUGGFの現状の技術的、及び組織的能力を分析する。	DRECV DPECV																								2007年8月～9月にアクセス可能な村で能力診断実施
2-2	対象指定林周辺村落において、既存のGGF及びUGGFの組織的能力を向上させる。	DRECV DPECV																							日：直営研修資機材調達、研修関連再委託費	2008年5月以降随時実施し、対象27GGFについて本研修は終了。定着のためのフォローアップ研修を継続中。
2-3	対象指定林周辺村落のうち、組織が未設立の地域において、新規のGGF及びUGGFの設立を支援する。	DRECV DPECV																								14GGFを新規に設置。合計27GGF。UGGFは第3年次以降2つ設置予定。
2-4	GGF及びUGGFに対して、森林管理技術向上のための研修（苗畑、植林、森林火災対策、薪炭材、炭、木材、非木材林産物ほか）を実施する。（実施形態は現地コンサルタントへの再委託及び技術機関職員を講師とするプロジェクト直営方式）	DRECV DPECV																							日：再委託費、直営研修講師費用	2008年1月以降、順次実施(詳細はGGF活動表参照)
2-5	GGF及びUGGFに対して、林産物等を有利に流通・販売するための研修を実施する。	DRECV DPECV																								上記研修中に実施。別途の研修は実施していない。
2-6	地域住民に対して森林保全に関する啓発を実施する。	DRECV DPECV																								上記研修中に実施。
2-7	GGF及びUGGFに対して、自分たちの活動をモニタリング・評価するための研修を実施する。	DRECV DPECV																								記録・会計研修及び計画立案・収入管理研修のなかで随時実施。別途の研修は実施していない。
3.「地域住民の生活状況が改善される。」																										
3-1	地域住民の社会経済ニーズを把握し、その実現可能性を確認する。	DPECV																							日：井戸設置FS調査費(再委託)	第2年次その1及び第2年次その2の業務において随時聞き取り実施。
3-2	地域住民が木材及びその他森林資源を有効利用するための活動を計画し、実施する。	DPECV																							日：非木材林産物調査費(再委託)	森林管理技術研修に連動しつつ、木材、非木材林産物を活用した経済活動を第2年次その1以降順次実施。
3-3	その他地域住民の社会経済ニーズに見合った生産向上活動を計画し、実施する	DPECV																								上記3－2と同じ

別添３：プロジェクトの実績

本プロジェクトの実績達成状況は以下に示すとおりである（2009 年 12 月 31 日現在）。

（１） 投入の実績

<table>
<tr><th>PDM/RD の計画</th><th>情報源/方法</th><th>実績（2009 年 12 月 31 日現在）</th></tr>
<tr><td colspan="3">１．ブルキナファソ側</td></tr>
<tr><td>1.1 カウンターパート、プロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネージャー、関係機関職員等</td><td>プロジェクト報告書、投入記録のレビュー</td><td>現在、実施機関（環境・生活環境省）から C/P が 30 名配置されている。このうち、ナショナルコーディネーターが専従で配置されており、それ以外は兼任である。また、支援要員は C/P 予算による契約雇用である。

表 1.1-a：実施機関の C/P　　2009 年 12 月 31 日現在
<table>
<tr><th colspan="2">組　織</th><th>分野</th><th>人数</th></tr>
<tr><td>1</td><td>環境・生活環境省森林局（Difor）</td><td>プロジェクト監督者</td><td>2</td></tr>
<tr><td>2</td><td>環境・生活環境カスカード州局</td><td>プロジェクト監督者</td><td>8</td></tr>
<tr><td>3</td><td>環境・生活環境コモエ県局</td><td>直接の CP 機関</td><td>4</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ナショナルコーディネーター</td><td>プロジェクト・マネージャー</td><td>1</td></tr>
<tr><td>5</td><td>環境・生活環境省郡事務所</td><td>対象指定林管轄</td><td>15</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　計</td><td></td><td>30</td></tr>
</table>
表 1.1-b:支援要員　　2009 年 12 月現在
<table>
<tr><th></th><th></th><th>人数</th></tr>
<tr><td>1</td><td>会計</td><td>1</td></tr>
<tr><td>2</td><td>運転手</td><td>1</td></tr>
<tr><td>3</td><td>苗畑担当・連絡員</td><td>1</td></tr>
<tr><td>4</td><td>連絡員(森林官への任官のため離職)</td><td>0</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ガードマン</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　計</td><td>4</td></tr>
</table>
※詳細は資料 4</td></tr>
<tr><td>1.2 プロジェクト事務所、土地、施設</td><td>同上</td><td>2007 年 8 月から「ブ」国カスカード州局より、プロジェクトオフィスとして２室が提供された。なお、2009 年 7 月に車庫・倉庫 1 棟をカスカード州局敷地内に日本側予算で新規に設置した。

※詳細は資料Ａ-1</td></tr>
<tr><td>1.3 プロジェクト実施経費の支払い等</td><td>同上</td><td>これまでのところ、プロジェクト実施経費として約 67 百万 FCFA が支出された。
ブルキナファソ会計年度（1～12 月）別の実施経費支出状況
<table>
<tr><th>BFY</th><th>2007 年（7 月-12 月）</th><th>2008 年</th><th>2009 年</th><th>2010 年（1 月末）</th><th>合計</th></tr>
<tr><td>金　額（千 FCFA）</td><td>0</td><td>42,740</td><td>25,000</td><td>－</td><td>67,740</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td colspan="3">２．日本側</td></tr>
<tr><td>2.1 専門家派遣</td><td>プロジェクト報告書、投入記録のレ</td><td>プロジェクト開始から 2010 年 1 月末までに派遣された専門家の担当分野と派遣期間は次のとおり。

<table>
<tr><th>担当分野</th><th>人数</th><th>MM</th></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>ビュー</td><td>
<table>
<tr><td>チーフアドバイザー／森林管理</td><td>1</td><td>13.44</td></tr>
<tr><td>副総括／生計向上</td><td>1</td><td>13.97</td></tr>
<tr><td>参加型開発</td><td>2</td><td>18.67</td></tr>
<tr><td>業務調整／研修監理</td><td>1</td><td>2.00</td></tr>
<tr><td>業務調整</td><td>1</td><td>5.00</td></tr>
</table>
※詳細は資料 4
</td></tr>
<tr><td>2.2 機材の調達
車輌等</td><td>同上</td><td>2010 年 1 月時点で、55,667,456FCFA の機材が調達された。主要機材は 4 輪駆動車輌、バイク、デスクトップパソコン、ノートパソコン及びコピー機などである。

※詳細は資料 5</td></tr>
<tr><td>2.3 本邦研修</td><td>同上</td><td>これまでに合計 3 名（2008 年度：2 名、2009 年度：1 名）が森林資源管理分野に係る本邦研修に派遣された。

※詳細は資料 4</td></tr>
<tr><td>2.4 在外事業強化費</td><td>同上</td><td>これまで、975,808,612FCFA がプロジェクトの在外事業強化費として支出された。

日本側の活動費（日本年度）
<table>
<tr><th>項　　目</th><th>2009 年 12 月 31 日までの執行予算 (FCFA)</th></tr>
<tr><td>日本人専門家派遣</td><td>690.411.787</td></tr>
<tr><td>調達機材</td><td>55.667.456</td></tr>
<tr><td>研修、事務、調査、その他の作業等</td><td>229.729.370</td></tr>
<tr><td>合　　計</td><td>975.808.612</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

（２） アウトプットの実績

プロジェクトの要約	指標	情報源/方法	実績
<u>アウトプット１</u> 住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。	プロジェクト関係森林官が参加型持続的森林管理の研修を少なくとも中央レベルで 4 回、地方レベルで 6 回受け、効率よく地域関係者と協働する。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	参加型持続的森林管理のための研修として、中央レベルでは 4 回（『自己能力分析・ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ能力』、『参加とは』、『PAG』、『ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価』）、また、地方レベルでは 7 回（『自己能力分析・ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ能力』、『参加とは』、『PCM』、『組織能力強化-記録と会計』、『PAG』、『ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価』、『事務所整備』）で実施された。 その結果、対象地域の森林官事務所における執務環境が整備された。地域関係者との協働については、研修を受けた森林官が森林管理技術研修の講師として GGF に対して既に研修を実施している。また、コミューンにおける苗木の生産や植林活動を指導する森林官を支援する予定である。
<u>アウトプット 2</u> 対象村落におい	2-1 27GGF 及び 4	プロジェクト	1)GGF について プロジェクト開始前に設置されていた 13GF に対して総会

<table>
<tr><th>プロジェクトの要約</th><th>指標</th><th>情報源/方法</th><th>実績</th></tr>
<tr><td rowspan="2">て、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。</td><td>UGGF が新規設置又は再活性化される。</td><td>報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ</td><td>を開催して役員を改選して能力のある者で執行部を構成した。一部 GGF は森林管理活動や所得創造活動を実施している。また、プロジェクト開始後、14GGF が新規設置された。

2)UGGF について
既存の 2UGGF の再活性化、及び新規 2UGGF の設立は 2010 年 3 月より開始する予定である。</td></tr>
<tr><td>2-2
GGF 及び UGGF が研修で得た技術を活用し、森林管理活動を開始する。</td><td>プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ</td><td>研修後、森林管理活動を実施した GGF は以下の通り。
1)苗木生産：ﾌﾞﾇﾅ、ﾀﾞﾝﾄﾞｳｸﾞ、ｳｪﾝｶﾞ、ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾄﾝｶﾞ
2)植林：ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾌﾞﾇﾅ、ｽﾊﾞｶ、ﾌｶﾞﾝｸﾞｴ、ｳﾗﾃﾝｶﾞ、ｳｪﾝｶﾞ、ﾄﾝｶﾞ
3)防火線開設：ｼﾞｬﾝｶﾞ、ｶｼﾞｮ、ｸﾞｱﾗ</td></tr>
<tr><td><u>アウトプット 3</u>
地域住民の生活状況が改善される。</td><td>3-1
対象指定林関連の GGF が木材及び非木材林産物を活用した所得創出活動を開始する。</td><td>プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ</td><td>GGF 別所得創出活動は以下の通りである。
<table>
<tr><th>GGF 名</th><th>活動</th><th>創出金額(FCFA)</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ﾌﾞﾇﾅ</td><td>近代養蜂</td><td>51,750</td></tr>
<tr><td>スンバラ生産</td><td>4,000</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ﾄｳﾑｾﾆ(男女)</td><td>薬用植物採取</td><td>123,690</td></tr>
<tr><td>近代養蜂</td><td>60,000</td></tr>
<tr><td>製炭</td><td>30,000</td></tr>
<tr><td>ﾄｳﾑｾﾆ(女)</td><td>スンバラ生産</td><td>2,750</td></tr>
<tr><td>ｼﾞｮﾝｺﾞﾛ(男女)</td><td>薬用植物採取</td><td>29,715</td></tr>
<tr><td></td><td>近代養蜂</td><td>3,750</td></tr>
<tr><td></td><td>製炭</td><td>13,000</td></tr>
<tr><td>ｼﾞｮﾝｺﾞﾛ（女）</td><td>スンバラ生産</td><td>販売記録なし</td></tr>
<tr><td>ﾀﾆｬﾅ(男女)</td><td>薬用植物採取</td><td>125,895</td></tr>
<tr><td>ﾀﾆｬﾅ(女)</td><td>スンバラ生産</td><td>8,50</td></tr>
<tr><td>ｽﾊﾞｶ(男女)</td><td>薬用植物採取</td><td>243,600</td></tr>
<tr><td></td><td>近代養蜂</td><td>3.750</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>プロジェクトの要約</th><th>指標</th><th>情報源/方法</th><th>実績</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>製炭</td><td>66,250</td></tr>
<tr><td>ｽﾊﾞｶ(女)</td><td>スンバラ生産</td><td>販売記録なし</td></tr>
<tr><td>ﾌｶﾞﾝｸﾞｴ</td><td>近代養蜂</td><td>32,500</td></tr>
<tr><td>ｸﾞｱﾝﾄﾞｳｸﾞ</td><td>近代養蜂</td><td>7,500</td></tr>
<tr><td>ﾄﾝｶﾞ</td><td>近代養蜂</td><td>32,500</td></tr>
<tr><td>ﾀﾞﾝﾄﾞｳｸﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>96,750</td></tr>
<tr><td>ﾋﾟﾏ</td><td>シアバター生産</td><td>156,750</td></tr>
<tr><td>ｶｯｻﾝﾃﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>93,000</td></tr>
<tr><td>ｳﾗﾃﾝｶﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>123,750</td></tr>
<tr><td>ﾌｧﾗｼﾞｬﾝ</td><td>シアバター生産</td><td>93,000</td></tr>
<tr><td>ｳｪﾝｶﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>13,750</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞｸﾞｯｿ</td><td>シアバター生産</td><td>3,750</td></tr>
<tr><td>ｶｼﾞｮ</td><td>シアバター生産</td><td>販売記録なし</td></tr>
<tr><td>ｸﾞｱﾗ</td><td>シアバター生産</td><td>1,250</td></tr>
<tr><td>ﾗﾎﾞﾗ･ｻﾝｸﾗﾗ</td><td>シアバター生産</td><td>販売記録なし</td></tr>
<tr><td>ﾀﾞｷｴ</td><td>シアバター生産</td><td>6.750</td></tr>
<tr><td>ﾗﾎﾞﾗ･ﾅﾝﾊﾞﾙﾌｫ</td><td>スンバラ生産</td><td>6,000</td></tr>
<tr><td>ﾗﾎﾞﾗ･ｻﾝｸﾗﾗ</td><td>スンバラ生産</td><td>販売記録なし</td></tr>
</table>
注：情報源はモニタリングシート
</td></tr>
<tr><td></td><td>3-2
GGF が活動に要する資機材等への再投資を行う。</td><td>プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ</td><td>GGF の再投資の状況は以下のとおりである。
<table>
<tr><td>GGF 名</td><td>活動</td><td>再投資内容</td></tr>
<tr><td>ｶｻﾝﾃﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾋﾟﾏ</td><td>シアバター生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾀﾞﾝﾄﾞｳｸﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ｳﾗﾃﾝｶﾞ</td><td>シアバター生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾌｶﾞﾝｸﾞｴ</td><td>シアバター生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾌｧﾗｼﾞｬﾝ</td><td>シアバター生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ｽﾊﾞｶ(女)</td><td>スンバラ生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾀﾆｬﾅ(女)</td><td>スンバラ生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾇﾅ</td><td>スンバラ生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾗﾎﾞﾗ･ｻﾝｸﾗﾗ</td><td>スンバラ生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾄｳﾑｾﾆ(女)</td><td>スンバラ生産</td><td>原料種子の購入</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾇﾅ</td><td>近代養蜂</td><td>養蜂箱(35,000FCFA 相当)1 個購入</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td><u>アウトプット 4</u>
対象とする４つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。</td><td>4-1
対象指定林毎に１計画、合計 4 つの PAG が策定される。</td><td>プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ</td><td>PAG 立案の基礎データ収集のため、プロジェクトは既に以下の活動を実施した。
－森林野生動物資源補足調査
－対象 4 指定林に対する調査
－データ収集、林産物の生産ゾーンと潜在的開発者の調査、非木材林産物の活用可能性に係る調査
－バンフォラにおける木材市場の調査

対象指定林毎の 4 つの PAG の策定ステップ及びスケジュールは作成している。第 3 年次に PAG ドラフトを作成する予定である。</td></tr>
</table>

プロジェクトの要約	指標	情報源/方法	実績
	4-2 南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドが作成される。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	これまでに収集した資料を基に、第３年次に南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドドラフトを作成予定である。
	4-3 地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアルが少なくとも８種類作成される。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	これまでの研修で作成したマニュアルを基にして第 3 年次以降、以下の 8 種類のマニュアルドラフトを作成する予定である。 －苗木生産 －植林 －伐採 －野火管理 －放牧管理 －高品質シアバター生産 －近代養蜂 －薬用植物活用
	4-4 GGF/UGGF が継続的に少なくとも4種類の森林管理活動の技術を習得し、活動を開始する。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	PAG 策定前ではあるが、研修を実施した GGF の中には以下のように苗木生産、植林、野火管理、高品質バター生産、近代養蜂、薬用植物活動を開始した GGF がある。 －苗木生産：ﾌﾞﾇﾅ、ﾀﾞﾝﾄﾞｳｸﾞ、ｳｪﾝｶﾞ、ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾄﾝｶﾞ －植林：ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾌﾞﾇﾅ、ｽﾊﾞｶ、ﾌｶﾞﾝｸﾞｴ、ｳﾗﾃﾝｶﾞ、ｳｪﾝｶﾞ、ﾄﾝｶﾞ －防火線開設：ｼﾞｬﾝｶﾞ、ｶｼﾞｮ、ｸﾞｱﾗ －高品質シアバター生産：ｶｻﾝﾃﾞ、ﾋﾟﾏ、ﾀﾞﾝﾄﾞｳｸﾞ、ｳﾗﾃﾝｶﾞ、ﾌｶﾞﾝｸﾞｴ、ﾌｧﾗｼﾞｬﾝ、ｳｪﾝｶﾞ、ｶｼﾞｮ、ｸﾞｱﾗ、ﾌﾞｸﾞｯｿﾞ、ﾗﾎﾞﾗ･ｻﾝｸﾗﾗ、ﾀﾞｷｴ －近代養蜂：ﾌﾞﾇﾅ、ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾄｳﾑｾﾆ －薬用植物採取：ｽﾊﾞｶ、ﾄｳﾑｾﾆ、ｼﾞｮﾝｺﾞﾛ、ﾀﾆｬﾅ
<u>アウトプット５</u> 持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者（地域関係者）と森林行政機関との協力関係がより深まる。	5-1 地域関係者及び関係省庁関係者との協議会を少なくとも毎年、年３回開催する。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	これまでに地域関係者及び関係省庁関係者との協議会を以下のように 6 回開催している。 1) 2007 年 (1) プロジェクト開始ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（拡大地域関係者ｾﾐﾅｰ）（ﾊﾞﾝﾌｫﾗ、2007 年 8 月 2 日）：プロジェクト開始情報の地域社会への周知 2) 2008 年 (1) 第 1 回 JCC（ﾊﾞﾝﾌｫﾗ、2008 年 2 月 21 日）：2007 年の活動報告と 2008 年の活動予定の情報共有（「ブ」国方式での提示方法が求められる） (2) 地域関係者ｾﾐﾅｰ（ﾊﾞﾝﾌｫﾗ、2008 年 5 月 28 日）：ﾌﾞﾇﾅ GGF の蜂蜜製品化発表は他の GGF の活動意欲を促す効果があり。 3) 2009 年 (1) 第 2 回 JCC（ﾊﾞﾝﾌｫﾗ、2009 年 2 月 20 日）：2008 年の活動報告は了承されたが、2009 年の活動計画につき、提

プロジェクトの要約	指標	情報源/方法	実績
			示形式の変更が必要とのことで 2009 年活動計画承認されず。技術協力プロジェクトの枠組みに関する「ブ」国側からの変更要請を正式な形で出すことが決められた。 (2)地域関係者ｾﾐﾅｰ(ﾊﾞﾝﾌｫﾗ、2009 年 6 月 19 日):ｼﾞｬﾝｶﾞ、ｽﾊﾞｶ、ﾀﾞﾝﾄﾞｩｸﾞ GGF の活動報告は他の GGF の活動促進意欲を高める。 (3)第 3 回 JCC(ﾊﾞﾝﾌｫﾗ、2009 年 7 月 17 日):2009 年活動・予算計画書の承認・情報共有。第 2 回 JCC で提起された「ブ」国側課題に対する JICA 側回答の情報共有。
	5-2 プロジェクトと州局との間で提携協定が締結される。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	2010 年 1 月、カスカード州局との間で提携協定を締結する予定である。
	5-3 地域の民間企業との連携関係が構築される。	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	1)薬用植物活用で実績のあるﾊﾞﾝﾌｫﾗの Phytofla 社と連携した(2008 年 11 月以降)。本プロジェクトは同社に研修を委託し、同社は研修を受けた GGF が採取した薬用植物を買取る形となっている。 2)樹実活用で実績のあるﾊﾞﾝﾌｫﾗの BombaThecno 社と連携する予定である(2010 年 5 月以降)。連携の形は Phytofla 社の場合と同様。

（３） プロジェクト目標の達成状況

プロジェクトの要約	指標	情報源/方法	結果（特に断りがない場合は 2010 年 1 月　日現在）
対象となる４つの指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ）において、森林管理住民組織(GGF)及び住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる。	1.プロジェクト開始時に比べ、対象指定林において、GGF／UGGF による森林管理活動の基礎となるゾーニングが明確にされる。	プロジェクト報告書	4 指定林において、これまでに実施した森林調査によりゾーニングのための情報は得られている。 第 3 年次に森林整備単位界を地形図上で定めて、プロジェクト後半に防火線を兼ねて現地で伐開線の開設作業を開始する予定である。
	2.プロジェクト開始時に比べ、各対象指定林の整備目標が明確に設定され、その目標に沿った森林管理活動が GGF／UGGF により継続的に実施される	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ、質問票	中間評価時点までに研修を終了した GGF の大半が森林管理活動、及び生計向上に資する活動を既に実施している。そのことにより地域住民による持続的森林管理を行う下地は出来つつある。

別添４　人的投入実績

１　日本側投入実績(人員)

(1)　専門家派遣の実績

	分野	氏名	派遣期間	m/m	担当アウトプット
1	チーフアドバイザー／森林管理	水品　修	2007/7/1～11/29 2008/2/5～3/5 2008/4/22～6/20 2009/1/19～3/31 2009/5/27～8/1 2010/1/5～現在	6.07 2.00 4.47	1～5
2	副総括／生計向上	手島　茂晴	2007/11/7～12/21 2008/5/14～8/1 2008/10/1～12/29 2009/3/22～6/9 2009/9/30～現在	1.50 2.67 5.67	1～5
3	参加型開発(1)	門　敦之	2007/7/15～10/25 2008/4/23～7/11 2008/10/1～12/29	3.43 2.67 3.00	1、2、5
4	参加型開発(2)	武藤　珠生	2008/1/6～3/5 2008/5/14～8/1 2009/1/19～5/18 2010/1/5～現在	2.00 2.67 4.00	1、2、3、5
5	業務調整	小林　美和子	2007/7/1～8/29 2007/4/22～6/5	2.00 1.50	1、5
6	業務調整	手島　茂晴	2009/6/10～7/24	1.50	4、5
7	業務調整／研修監理	酒井　文子	2009/9/30～11/28	2.00	1、2、3、5

(2)　研修員受け入れの実績

	氏名	所属	研修コース名	研修期間	アウトプット担当部分
1	OUATTARA N' Grazié Thomas	前ﾅｼｮﾅﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	森林流域環境・水土保全技術	2008/8/24 ～9/13(体調不良により早期帰国	1～5
2	KINI B. Nestor	現ﾅｼｮﾅﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	持続可能な森林活動の実践活動促進	2009/8/19 ～11/8	1～5
3	OUEDRAOGO Mahamadi	環境・生活環境省カスカード州局	共生による森林保全	2008/8/24 ～11/15	2、4

(3)　プロジェクト支援スタッフ傭人

	氏名		傭人期間＊
1	TRAORE Kasson	アシスタントファシリテーター	2007/9～2008/3(第 1 年次) 2008/4～2008/7(第 2 年次その 1) 2008/10～2008/12(第 2 年次その２前半) 2009/1～2009/7(第 2 年次その 2 後半) 2009/10～現在(第 3 年次)
2	SIRI Moussa	アシスタントファシリテーター	2008/5～2008/7(第 2 年次その 1) 2008/10～2008/12(第 2 年次その 2 前半) 2009/1～2009/7(第 2 年次その 2 後半) 自己都合により離職
3	COULIBALY Denise	アシスタントファシリテーター	2008/10～2008/12(第 2 年次その 2 前半) 2009/1～2009/7(第 2 年次その 2 後半) 2009/10～現在
4	TRAORE Mohamadou	アシスタントファシリテーター	2009/10～現在(第 3 年次)
5	TRAORE Marie	秘書・会計	2007/9～2008/3(第 1 年次) 2008/4～2008/7(第 2 年次その 1) 2008/10～2008/12(第 2 年次その２前半) 2009/1～2009/7(第 2 年次その 2 後半) 2009/10～現在(第 3 年次)
6	SAYOU Daouda	運転手	2007/8～2008/3(第 1 年次) 2008/4～2008/7(第 2 年次その 1) 2008/10～2008/12(第 2 年次その２前半) 2009/1～2009/7(第 2 年次その 2 後半) 2009/10～現在(第 3 年次)
7	KONE Issouf	運転手	2008/5～2008/7(第 2 年次その 1) 2008/10～2008/12(第 2 年次その２前半) 2009/1～2009/7(第 2 年次その 2 後半) 2009/10～現在(第 3 年次)

＊第 2 年次その 2 前半までは人材派遣会社「ITEC Service」との間で役務提供契約を結び、人材の派遣を受ける。第 2 年次その 2 後半以降、同社との役務提供契約を解除し、各スタッフとの間で直接、役務提供契約を結ぶ形に移行し、現在に至る。

２　ブルキナファソ側投入実績（人員）

（１）カウンターパート（2009 年 12 月 31 日現在）

N°	Nom et Prénoms	Emploi	Poste
		Direction des Forêts	
01	DOULKOM Adama	Inspecteur et Ingénieur des Eaux et Forêts	Directeur des Forêts
02	COULIBALY Sia	Inspecteur et Ingénieur des Eaux et Forêts	Chef de Service de l'Aménagement des Forêts/Direction des Forêts
		Direction Régionale	
01	GUINKO Adama	Inspecteur	Directeur Régional des Cascades
02	OUEDRAOGO.K.Mahamadi	Contrôleur des Eaux et Forêts	Cumulativement/Chef SRPSE
03	SANOU K Bruno	Contrôleur des Eaux et Forêts	Chef/Service Régional de la Protection et de la Surveillance
04	OUBDA Moussa	Contrôleur des Eaux et Forêts	Service Régional de la Protection et de la Surveillance
05	BATIONO Barthélémy	TS Environnement	Chef/Service Régional de l'Amélioration du Cadre de Vie
06	YE .P. Moctar	Assistant des Eaux et Forêts	Service Régional de l'Amélioration du Cadre de Vie
07	OUATTARA　Sériba	Assistant des Eaux et Forêts	Service Régional de l'Administration et des Finances
08	KY Prosper	Préposé des Eaux et Forêts	Service Régional de la Conservation de la Nature
		Direction Provinciale	
01	BIKIENGA Salimata	Inspecteur	Directrice Provinciale la Comoé
02	OUEDRAOGO Animata	Contrôleur des Eaux et Forêts	Régisseur de la Direction Provincial
03	TRAORE Hamadé	Contrôleur des Eaux et Forêts	Service Provincial de la Conservation de la Nature
04	BADO Jean Marc	Assistant des Eaux et Forêts	Chef de service provincial de la Planification
		Projet	
01	KINI B. Nestor	Inspecteur	Coordonnateur National
		Services Départementaux concernés	
01	BATIONO Toussaint	Contrôleur des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Sidéradougou
02	ZONGO. W. Pascaline	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Sidéradougou
03	DABIRE .N. Réné	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Sidéradougou
04	KY　Bruneau	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Sidéradougou
05	DABIRE　Julien	Contrôleur des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Banfora
06	DABIRE Romaric	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
07	ZONGO .Y. François	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
08	KABORE Hamidou	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
09	SAWADOGO Harouna	Assistant des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora

10	BOUDO Salif	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Banfora
11	SANGARE Belko	Militaire à la retraite	SDECV/Banfora
12	OUATTARA Alexis	Assistant des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Soubaka
13	NEYA Paul	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Soubaka
14	SAWADOGO　Sékou	Assistant des Eaux et Forêts	Chef/SDECV/Tiéfora
15	NABI Michel	Préposé des Eaux et Forêts	SDECV/Tiéfora

（２）プロジェクト・ナショナルコーディネーター

	氏名	職位	所属	着任期間	備考
1	OUATTARA N' Grazié Thomas	ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ（森林監督官）	環境・生活環境省	2007/8/～2008/12	2008 年 12 月病没
2	KINI B. Nestor	ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ（森林監督官）	環境・生活環境省	2009/1～現在	

（３）プロジェクト支援スタッフ

	氏名	職種	所属	着任期間	備考
1	KABORE Abdoul Wahab	会計	プロジェクト	2009/1～	CP 予算による契約雇用
2	TRAORE Blaise	運転手	プロジェクト	2009/1～	CP 予算による契約雇用
3	SAWADOGO Yubert	苗畑担当連絡員	プロジェクト	2009/1～	CP 予算による契約雇用
4	HEMA Midibahaye	連絡員	プロジェクト	2009/1～11	CP 予算による契約雇用、
5	LALOU Dauda	ｶﾞｰﾄﾞﾏﾝ	プロジェクト	2009/1～	CP 予算による契約雇用

別添５－１：日本側の機材投入

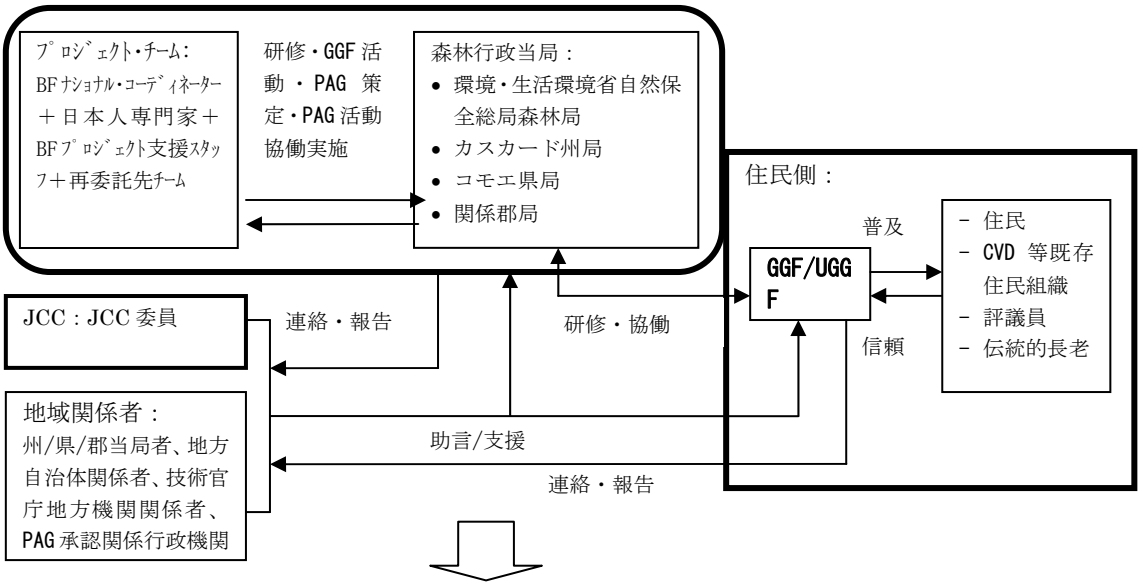
整理番号	品名	購入元	状態	使用頻度	管理場所	製造番号	購入日	価格（円）	価格（FCFA）	購入区分（JICA BF事務所/JAFTA）	供与数	現有数	処分数
	トヨタピックアップトラック	DIACFA	A	A	プロジェクト事務所	MROFR22G400518426	2007年7月			JICA BF事務所	1	1	0
	バイク YAMAHA DT125	DIACFA	A A A	A A A	群事務所(SB) プロジェクト事務所(NC) プロジェクト事務所(AF1)	DE02X-037090 DE02X-036686 DE02X-037061	2007年7月			JICA BF事務所	3	3	0
	デスクトップパソコン DX 2200	Bessel Equipements SARL	A	A	プロジェクト事務所	CNT6470FL0	2007/7/17		675,000	JAFTA	1	1	0
	コピー機 Canon IR2016	Bessel Equipements SARL	A	A	プロジェクト事務所	KRB56070	2007/7/17		1,835,000	JAFTA	1	1	0
	レーザープリンター HP 1320	Bessel Equipements SARL	A	A	プロジェクト事務所		2007/7/17		190,000	JAFTA	1	1	0
	プロジェクター Benq	Bessel Equipements SARL	A	B	プロジェクト事務所	PD42700270SU0	2007/7/17		800,000	JAFTA	1	1	0
	プロジェクター用スクリーン	Bessel Equipements SARL	A	B	プロジェクト事務所		2007/7/17		250,000	JAFTA	1	1	0
	レーザープリンタ HP P2015	Datasys	A	A	プロジェクト事務所	CNBW76L792	2008/2/14		235,226	JAFTA	1	1	0
	三菱パジェロ		B	A	プロジェクト事務所	LNV96W8J002066	2008年5月			JICA BF事務所	1	1	0
	バイク YAMAHA YBR125		B A	A A	群事務所(SI) プロジェクト事務所(AF2)	95670072862 095X70091527	2008年6月			JICA BF事務所	2	2	0
	ノートパソコン Toshiba SATELLITE L300	Sagaie Technologie	A A A	A A A	プロジェクト事務所	39028849Q Z8454689Q 39029449Q	2008/6/10			JAFTA	3	3	0
	ハチミツ水分計		A A A A	B B B B	プロジェクト事務所	A325879 A325819 A325849 A325909	2008/9/26	¥116,740		JAFTA	4	4	0
	コピー機両面印刷ユニット Canon IR2016用	Carman Infosys	A	A	プロジェクト事務所		2008/7/4		413,000	JAFTA	1	1	0
	バイク YAMAHA V80		A	A	プロジェクト事務所(AF3)	4GC068618	2009年8月			JAFTA	1	1	0
	バイク YAMAHA YBR125		A A	A A	群事務所(BA) 群事務所(TI)	LBPKE12909003220 LBPKE129790026835	2009年8月			JAFTA	2	2	0
	外付けハードディスク	Sagaie Technologie	A	A	プロジェクト事務所		2008/6/10			JAFTA	1	1	0
	多機能プリンタ HP Officejet Pro L7580	Sagaie Technologie	A	A	プロジェクト事務所	MY7CQ6401Q				JAFTA	1	1	0
	無停電電源装置　Mercury Classic800	Bessel Equipements SARL Sag@ie Technologie	C A	C A	プロジェクト事務所		2007/7/17 2009/6/17		60,000 55,000	JAFTA	2	1	1
	電話/ファックス　CanonB820	Bessel Equipements SARL	B	A	プロジェクト事務所	NDL62992	2007/7/17		200,000	JAFTA	1	1	0
	エアコン　LG	Bessel Equipements SARL	A	A	プロジェクト事務所	603HACQ01267	2007/7/17		250,000	JAFTA	1	1	0
	電圧安定器 Mercury AVR A1000	Bessel Equipements SARL	A	C	プロジェクト事務所		2007/7/17 2008/11/11		60,000 (30,000 × 2)	JAFTA	3	3	0
	電圧安定器　Mercury 2000VA	Kouanda Ousseni	A	A	プロジェクト事務所		2008/10/10 2009/7/2		84,700 52,500	JAFTA	2	2	0
	電圧安定器 Mercuty 1500VA	Sagaie Technologie	A	A	プロジェクト事務所		2008/11/10 2009/6/17		65,000 55,000	JAFTA	2	2	0
	大容量電圧安定装置	Datasys	A	A	プロジェクト事務所(コピー機専用)		2008/10/3(前払い)		40,000 37,790	JAFTA	2	2	0
							赤字は消耗品扱い						
		Frequency of Use	A.. Frequency used			NC: National							
			B.. Occasionally used			AF: Assistant Facilitator							
			C.. Not used			SB: Soubakaniedougou							
						SI:Sideradougou							
		Status	A.. Good			BA:Banfora							
			B.. Passable			TI:Tiefora							
			C. Out of order / rejected										

別添 5-2: ブルキナファソ側機材投入実績

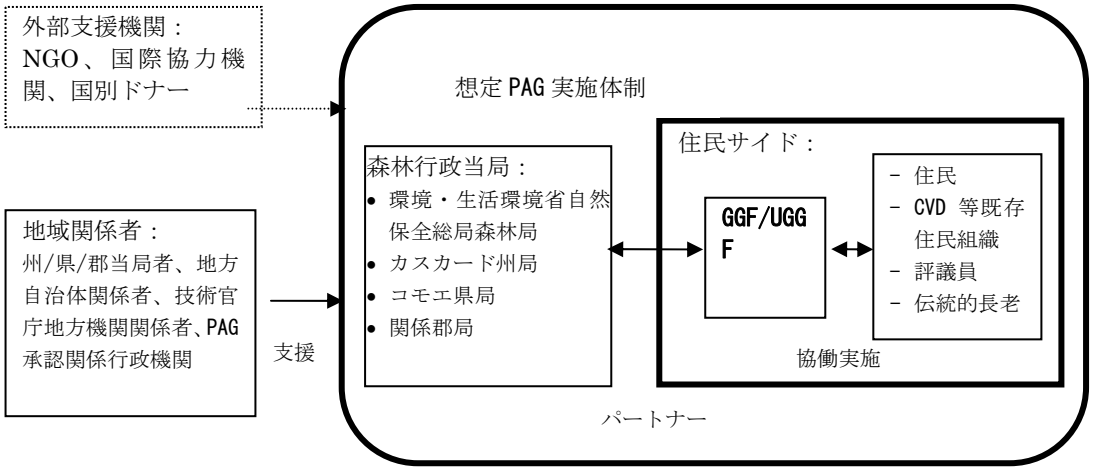
1) 1 ピックアップトラック
2) 2(deux)　テレビ
3) 2(deux)　ラップトップパソコン
4) 2(deux)　デスクトップパソコン
5) 2(deux)　プリンター
6) 1(un)　冷蔵庫

別添６　プロジェクトの実施体制

本プロジェクト期間中に想定する実施体制コンセプト



本プロジェクト終了後に想定する PAG 実施体制コンセプト



別添7　PAG策定ステップ及びスケジュール

	業務内容	責任者	2009						2010												2011												2012				
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
1	**作成体制構築**																																				
1-1	作成チーム編成	NC, CA, DR																																			
1-2	チーム内打合せ	NC, ET																																			
1-3	州局長及び森林整備部長との定期協議	NC, CA, SAFOR, Difor																																			
2	**策定作業**																																				
2-1	PAG策定の基本的考え方のすり合わせ(州レベル)	CA, NC, ET, DR																																			
2-2	PAGのモデル目次作成	CA																																			
2-3	PAG策定の基本的考え方のすり合わせ(中央レベル)	NC, CA, SAFOR, Difor																																			
2-4	基本データ及び情報の収集	NC, CA, EE																																			
2-5	各対象指定林の整備目標設定	NC, CA, DR, Difor, SAFOR																																			
2-6	保護区域、森林整備単位、林班、作業道の設定	NC, CA, DR, Difor, SAFOR																																			
2-7	森林整備図の作成	SAFOR, DSES																																			
2-8	4指定林のPAG原案作成	NC, CA, EE																																			
2-9	PAG原案検討作業	NC、EE, DR, Difor, SAFOR, DSES																																			
2-10	環境省内部機関のPAG原案検討ワークショップ	NC, CA, DR, DP, EE, Difor, SAFOR, DSES																																			
2-11	修正原案に基づくPAG案作成	NC, CA																																			
2-12	関係技術機関による4指定林PAG案検討ワークショップ	NC, CA, DR, DP																																			
2-13	4指定林PAG案の法定承認機関(CPAT)への提出	NC, DP, DR, Difor, SG																																			
2-14	修正指示に則したPAG最終版作成	NC, CA, EE																																			
2-15	承認済みPAGの発行	NC, CA																																			

NC:ナショナルコーディネーター、CA：チーフアドバイザー、ET：作成チーム、DR：カスカード州局長、DP:コモエ県局長
SAFOR: 森林整備部、Difor:森林局長、DSES:生態モニタリング・統計局、SG: 環境省次官

別添８：プロジェクトの実施プロセス

項目	情報源/方法	結果（2010年1月　日現在）
1.PDMの変更	プロジェクト報告書、インタビュー	本プロジェクトのPDMは、第3回JCC（2009年7月17日）において1回、改訂されている。 この変更に係る基本的な考え方は、プロジェクト活動に対する先方政府の主体的関与をより発揮させるため、実施上の手法の変更を変更することとするが、PDMの大きな変更ではない。具体的な変更点は以下のとおり。また、各指標はより具体的に変更された。 1)森林行政官の能力向上に係る具体的活動の更なる充実化のため、以下を導入した。 ・中央・地方レベルの森林行政官によるモニタリング活動（PDM活動1-5の新規追加の活動） 2)森林整備事業計画の策定と実施に係る活動の一部をプロジェクトで支援する。 ・コミューンによる植林活動（PDM活動5-3の新規追加の活動）
2.活動の進捗		
(0)事前活動	プロジェクト報告書、インタビュー	各アウトプットの諸活動を実施する前の準備作業として以下の事前活動を実施した。 活動 0-1 実施済み調査及び類似プロジェクトの成果をレヴューする 。 【指標】 ①既存資料及び報告書（コピー又はオリジナル）を収集し、検討する。 【指標の達成状況】 ①必要な資料やデータを収集し検討を行った。 活動 0-2 地方レベルにプロジェクト事務所を設け、活動実施に必要な人的、物的資源を配置する。 【指標】 ①プロジェクトに事務所を設置する。 ②プロジェクトがプロジェクト支援スタッフを5名雇用する。 ③プロジェクトに車両、情報機器、事務機器などプロジェクト活動に必要な資機材を配置する。 【指標の達成状況】 ①2007年7月、バンフォラの州局敷地内に事務所を設置した。 ②プロジェクト活動のために6名のスタッフ、またGGFの組織運営能力の定着や活動状況のモニタリングのために 7 名のスタッフを雇用した。 ③車両、バイク、パソコンなど事務機器等を配置した。 活動 0-3 プロジェクト実施コーディネーション・メカニズムを設置する。 【指標】 ①ナショナルコーディネーター1名を配置する。 ②省令により合同調整委員会を設置し、年2回開催する。 【指標の達成状況】 ①2007年7月、ナショナルコーディネーター（NC）が1名配置され、

		2008 年 12 月に急逝により、現ナショナルコーディネーターが任命された。 ②合同調整委員会（JCC）設置に関する省令の発令が遅れ（2008 年 2 月）、2008 年 2 月に第 1 回 JCC、2009 年 2 月に第 2 回 JCC、同年 7 月に第 3 回 JCC の計 3 回、実施された。

(1) アウトプット1の活動	プロジェクト報告書、インタビュー	中央･地方の森林行政機関職員を対象に研修をほぼスケジュール通りに実施し、参加した職員の能力向上が図られたと判断される。 活動 1-1　能力向上を目的として、中央･地方森林行政機関の技術的、組織的能力現状を評価する。 【指標】 ①自己評価会を中央レベル１回、地方レベル１回開催する。 ②自己評価会には少なくとも中央レベル 10 人、地方レベル 10 人の森林官が参加する。 【指標の達成状況】 ①自己評価会を中央レベル１回、地方レベル１回開催した。 ②中央レベル森林官向け研修には 3 日間で計 42 名（1 日平均 14 名）、地方レベル森林官向け研修には 3 日間で計 27 名（1 日平均 9 名）が参加した。 活動 1-2 森林行政当局に対して参加型森林整備事業計画策定及び実施に係る研修とワークショップを実施する。 【指標】 ①研修会を中央レベル 2 回、地方レベル 2 回実施する。 ②研修は少なくとも２つのテーマを扱う。 ③研修会には少なくとも中央レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)、地方レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。 【指標の達成状況】 ①中央レベルで「PAG」と「参加」に係る研修を 1 回、実施した。(参加者数：12 名) ②地方レベルで「PAG」と「参加」に係る研修（参加者数：6 名)、及び「事務所整備研修」(3 郡局・県局森林官事務所から 1 名参加、計 3 名）実施した。 活動 1-3 森林官向け参加型持続的森林管理技術に係る研修を実施する。 【指標】 ①研修会を地方レベル 2 回実施する。 ②研修会には少なくとも延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。 【指標の達成状況】 ①地方レベルで森林管理技術(参加型森林管理への政策転換に伴う森林官の役割の変化、近代養蜂技術、非木材林産物）に係る研修を実施した。(参加者数は各日 10 名、計 30 名） 活動 1-4 森林官向け参加型持続的森林管理活動のモニタリング・評価に係る研修を実施する。 【指標】 ①研修会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回実施する。 ②研修会には少なくとも中央レベル 10 名、地方レベル 10 名の森林官が参加する。 【指標の達成状況】 ①地方レベルで「PCM 研修」(参加者数：12 名)、「記録と会計研修」(参加者数：6 名)、「モニタリング・評価研修」(参加者数：9 名）を実施した。 ②中央レベルで「モニタリング・評価研修」を実施した。(参加者数：8 名)。

		活動 1-5 森林官チームが定期モニタリング／コントロールを実施する。 【指標】 ①モニタリングは四半期ごとに 1 回、年 4 回実施する。 【指標の達成状況】 ①2009 年 7 月、地方森林行政官によるモニタリングにも使用可能となる車輌がブルキナファソ JIA 事務所から環境省カスカード州局に譲渡され、森林官チームのモニタリング体制が整備された。2010 年 1 月から、森林官チームによる年 3 回のモニタリング（現場作業は 4 日間）を実施する予定。
(2) アウトプット２の活動	プロジェクト報告書、インタビュー	ほぼスケジュール通りに 27GGF に対し、持続的森林管理に必要な能力、組織運営能力、林産物を活用した所得創出活動能力に係る研修が実施された。 活動 2-1 既存 GGF 及び UGGF の現在の技術、組織能力を評価する。 【指標】 ①評価会合が 1 村あたり 1 回の割合で 24 回実施される。 【指標の達成状況】 ①既存 GGF（9 村、13GGF）、GGF 未設置の村（15 村、15GGF）及び UGGF（2 指定林、2UGGF）の現状調査を行い、評価した。なお、未設置村落については、テロワール管理村落委員会あるいは村落開発委員会関係者などの村落のキーインフォーマントに対して簡易アンケートを利用して評価を行った。 活動 2-2 プロジェクト関連村落の既存 GGF 及び UGGF の技術、組織能力を強化する。 【指標】 ①研修会は２回実施する。 ②既存の 13GGF の執行部を刷新する。 ③研修は記録・会計及び計画立案の２つのテーマで行う。 【指標の達成状況】 ①「記録と会計」研修を 27GGF の執行メンバー（参加者数：103 名）、及び 21GGF の GGF 会員（617 名）に対し実施した。 ②「計画立案」研修を 21GGF に対し実施した。（参加者数：319 名） ③既存 13GGF に対し、会計、記録、監査の役に識字者を選出する再選挙実施の支援を行った。 活動 2-3 ４指定林隣接の村落及び村落グループにおいて新規 GGF 及び UGGF の設立を推進する。 【指標】 ①新規に 14 の GGF、またグァンドゥグ指定林及びコングコ指定林それぞれに UGGF を新設する。 【指標の達成状況】 ①GGF 未設置であった 14 村において、3 回にわたり、GGF 設立へむけた啓発ワークショップを実施し、GGF を設立し、執行部の選出、総選挙の支援を行い、2009 年 1 月末までに全 14 新規 GGF が正式承認を得た。 活動 2-4 森林管理技術（苗畑、植林、野火管理、薪材生産、棒材・工芸品用材、用材生産、製炭、非木材林産物生産など）に係る研修を実施する。

【指標】
①研修会は８つのテーマで各 GGF 対象に少なくとも 1 回実施する(研修回数は延べ 216 回(8x27))
②研修会には少なくとも 1 回 10 人の GGF 会員が参加する（参加者数は延べ 2160 名(10x216))

【指標の達成状況】
研修会は 12 のテーマで以下のとおり実施された。なお、フォローアップ研修では参加人数を把握していなかった時もあり､実際には下記の参加人数より多い。

研修内容	延べ開催数	延べ参加者数
1)近代養蜂	19	397
2)苗木生産	26	455
3)植林	26	373
4)シアバター品質向上	30	1,156
5)薬用植物付加価値化	16	123
6)製炭	20	260
7)野火管理	20	577
8)放牧管理	8	256
9)伐採	8	119
10)スンバラ品質向上	7	350
11)記録・会計	50	456
12)収入管理	21	304

活動 2-5 GGF 及び UGGF 向けに林産物の交渉、販売技術に係る研修を実施する。

【指標】
①研修は少なくとも 1 GGF1 回の延べ 27 回実施する。
②研修会には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名の GGF 会員が参加する。

【指標の達成状況】
①「収入管理」に関する研修を 21GGF に対して実施した。(参加者数：308 名（うち女性 136 名))
②2009 年 12 月時点で 21 回の収入管理研修を実施した。

活動 2-6 GGF 及び UGGF 向けにモニタリング・評価に係る研修を実施する。

【指標】
①研修は少なくとも 1 GGF1 回の延べ 27 回実施する。
②研修には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名(10x27)の GGF 会員が参加する。

【指標の達成状況】
①GGF の組織運営能力の定着や活動のモニタリングやプロジェクトとの連絡のために、計 7 名のモニターを雇用した。また、モニタリング・評価に係る研修の一環として｢計画策定研修｣を 21GGF に対し実施した。（参加者数：325 名（うち女性 144 名))

(3)アウトプット３の活動	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	スケジュール通り活動を実施し、木材林産物として木炭の生産・販売、また非木材林産物として養蜂生産・販売、薬用植物販売、シアバター生産・販売を行う GGF が現れ、所得創造につながるようになってきた。 活動 3-1 地域住民の優先社会経済インフラストラクチャー及び施設

		に関するニーズを調査し、その実現可能性を分析する。 【指標】 ①実施可能性記述を含むニーズリストが作成される。 【指標の達成状況】 ①村落における簡易ニーズ調査を実施した後、水源整備に関する調査を行い、その実現可能性や設置可能な村落の優先順位を作成した。 活動 3-2 木材及び非木材資源の活用を目的とする活動を計画し、実施する。 【指標】 ①GGF 会員が挙げた活動の中から、少なくとも 6 種類の活動を計画し、実施する。 【指標の達成状況】 ①27GGF が希望する生計向上活動について簡易調査を実施し、各 GGF のニーズを確認した。実施された活動については 2-4 を参照。 活動 3-3 地域住民のために採択された社会経済優先ニーズ充足を目的とする活動を計画し、実施する。 【指標】 ①GGF 会員が挙げたインフラの中から、少なくとも 1 つのインフラ整備を計画し、実施する。 【指標の達成状況】 ①水源整備に関する調査の結果をベースに、GGF の苗木生産に資する井戸設置を検討して候補村を 7 つ選定し、第 3 年次において特に優先度の高い 3 村において水源整備を行う予定。なお、2 村において貯水槽を試験的に設置した。
(4) アウトプット 4 の活動	プロジェクト報告書、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	第 3 年次にドラフト PAG を作成する予定であり、当初スケジュールより遅れている。これは第 1 年次に JICA 技術協力プロジェクトを「ブ」国側への理解を進めるのに時間を要したからである。 活動 4-1 各指定林の整備事業計画を作成する。 【指標】 ①指定林ごとに 1 つの PAG、延べ 4 つの PAG を作成する。 【指標の達成状況】 ①PAG 立案の基礎データ収集のため森林野生動物資源補足調査（対象 4 指定林に関するデータ収集、林産物の生産ゾーン、潜在的開発者調査）を実施した。また、非木材林産物の活用可能性に係る調査、バンフォラにおける木材市場の調査を実施した。日本側のコンセプトを PAG に反映させるためにも、PAF 策定を日本人専門家とカウンターパート側との協働で進めることになっており、PAG 策定スケジュールに沿って、今後各指定林の PAG を策定する予定。 活動 4-2 策定済み PAG に則って森林管理活動を開始する。 【指標】 ①2009 年 10 月から PAG の策定を順次開始され、計画に則った具体的な活動が 2010 年 10 月から開始される。 【指標の達成状況】 ①PAG ドラフトはまだ開始されていない。 活動 4-3 森林官向けに南スーダン気候帯地域における森林整備方法論ガイドを作成する。 【指標】

		①ガイドが作成される。 【指標の達成状況】 ①第 3 年次(2009 年 10 月～2010 年 8 月)にドラフト作成予定。 活動 4-4 参加型森林管理に関する地域住民に適した実践的ガイドを作成する。 【指標】 ①実践ガイドが少なくとも８種類作成される。 【指標の達成状況】 第 3 年次(2009 年 10 月～2010 年 8 月)にドラフト作成予定。
(5)アウトプット５の活動	プロジェクト報告書、インタビュー	ほぼスケジュール通り実施され､地域関係者セミナーや JCC の実施により地域関係者間での認知度が上がってきた。 活動 5-1 地方行政機関並びに関連部局に本プロジェクトを紹介するためセミナーを開催する。 【指標】 ①地域関係者セミナーを年 1 回、延べ 5 回開催する。 ②地域関係者セミナーには少なくとも 80 名が参加する。 【指標の達成状況】 ①地域関係者セミナーを 3 回、開催した。(参加者数：214 名（初回の参加者数は不明)） 活動 5-2 技術協議、活動報告書、各種情報伝達経路を通じてプロジェクトに係る意見交換を行い、情報を広める。 【指標】 ①合同調整委員会は年 2 回、延べ 10 回開催する。 ②各種活動報告書は少なくとも 29 回作成する。 ③《ニュースレター》は 12 回発行する。 ④研修旅行は 3 回実施する。 【指標の達成状況】 ①合同調整委員会（JCC）は 3 回（第 1 回は 2008 年 2 月、第 2 回は 2009 年 2 月、第 3 回は 2009 年 7 月)、実施された。 ②インセプション・レポート、及び業務完了報告書 3 回、作成した。また、各種研修報告書も Difor に提出されている。 ③ニュースレターを 6 号まで発行した。 活動 5-3 コミューン開発計画の森林部門に係る森林官の監理活動を支援する。 【指標】 ①森林官は少なくとも四半期に 1 回、年に 4 回、関連コミューンが作成するコミューン開発計画に含まれる森林セクターの活動監理を行う。 【指標の達成状況】 ①第 3 年次より活動を実施する予定。
3.プロジェクト管理		
(1)実施体制	プロジェクト報告書、質問票	2008 年に「ブ」国側の C/P 予算が計上されて限定的ではあるが諸手当の支払が可能になったこと、及び 2009 年 10 月以降(第 3 年次)、森林管理技術研修で C/P 機関職員を講師として活用することができるようになり、C/P 職員のプロジェクト活動への関与が改善されている。

(2)意思決定及びモニタリングプロセス	プロジェクト報告書、質問票	①JCC 「ブ」国側の様式に則り、プロジェクトで実施済みの活動やアウトプットの達成状況、今後のスケジュールについて報告している。 ②プロジェクト内モニタリング プロジェクト側で GGF の活動モニタリング要員を雇用し、各 GGF をモニターし報告を受ける体制を取っている。 ③NC を通じた意思決定プロセス NC を通して「ブ」国側とコンタクトを取る協働体制としており、常にプロジェクト活動実施に関し「ブ」国側と協議して進める態勢が整っている。 ④「ブ」国側によるモニタリング モニタリング体制は構築（州局長、県局長を組み込んだモニタリングシステムで年間 4 回の頻度で実施する体制）した。 ⑤PDM 及び PO によるプロジェクト管理 プロジェクト側が年間 PO を作成してプロジェクトの管理を行っている。また、これまで第 2 回 JCC 及びその後に提出された「ブ」国環境・生活環境省のレターを受け、PDM の内容及び指標を「ブ」国 C/P 機関と協議し改訂した。
4. プロジェクト内コミュニケーション	プロジェクト報告書、質問票	現ナショナルコーディネーター（NC）着任以降、NC を通じて日本側から「ブ」国側への情報伝達を行う仕組みが一層機能するようになった。また、本プロジェクト開始以降、プロジェクト関係者（日本人専門家、ブルキナ人支援スタッフ）の間では徐々に意思疎通が円滑になり、現在は極めて活発にコミュニケーションが行われている。
5. 関連機関との連携	プロジェクト報告書、質問票	①JCC メンバー機関 カスカード州、コモエ県、関係４郡の地方行政機関、関係４コミューンの地方公共団体、及び農業省、動物資源省など省庁の地方出先機関の技術部局とは JCC 開催時にプロジェクト活動について説明･協議を実施している。 ②動物資源省 放牧管理研修では動物資源省と協力し、動物資源省担当官に研修講師を務めてもらうなど具体的な連携を図っている。 ③民間企業との連携 2 社の民間企業と委託契約を結び、そのうちの 1 社は GGF 研修を実施した。
6. 実施プロセスに影響したその他の要因	プロジェクト報告書、質問票	①促進要因 ・GGF へ研修をしたことにより、所得創造を図る GGF が出てきたこと。 ・森林官がプロジェクト活動に一層主体的に参加するようになってきたこと。 ②阻害要因 ・「ブ」国側 C/P 予算の執行の遅れと減額。 ・研修を受けた地方森林官が異動すること。 ・JICA の技術協力プロジェクトに対する認識が「ブ」国側及び日本側双方で異なっていたこと。 ・指定林の一部における違法な金の採掘がなされたこと。 ・一部地域における強盗の発生により治安状況の悪化があったこと。

別添９　PDM（ver2）の指標に対応した活動実績
プロジェクトチーム作成（2010 年 1 月 24 日作成）

プロジェクト名：コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画
協力期間：5 年（2007 年 6 月から 2012 年 6 月）
受益国における実施機関：ブルキナファソ国環境・生活環境省、次官室、自然保全総局、森林局、カスカード州局、コモエ県局
協力機関：カスカード州庁、コモエ県庁、バンフォラ、ティエフォラ、シデラドゥグ及びスバカニエドゥグのコミューン、農業・給水・水産省カスカード州局、動物資源省カスカード州局、女性地位向上省カスカード州局、財務経済省国際協力総局、
プロジェクト・エリア：ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ指定林及びその隣接地域
対象グループ：４つの対象指定林隣接地域の住民、森林行政機関職員

	指　標	実　績	実績率
上位目標 南スーダン気候帯において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される。	- 南スーダン気候帯に属する指定林において参加型持続的森林整備事業計画が順次策定され、地域住民による持続的森林管理が開始される。 - 対象４指定林においてプロジェクトで導入された活動が、策定された森林整備事業計画に則って GGF／UGGF により持続的に実施される。		
プロジェクト目標 対象となる４つの指定林(ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ)において、森林管理住民組織(GGF)及び住民組織連合(UGGF)を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる。	プロジェクト開始時に比べ、 - 対象指定林において、GGF／UGGF による森林管理活動の基礎となるゾーニングが明確にされる。 - 各対象指定林の整備目標が明確に設定され、その目標に沿った森林管理活動が GGF／UGGF により継続的に実施される。		

アウトプット	指　標	実　績	達成率
1. 住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。	- プロジェクト関係森林官が参加型持続的森林管理の研修を少なくとも中央レベルで 4 回、地方レベルで 6 回受け、効率よく地域関係者と協働する。	- 中央レベル：４回実施 - 地方レベル：７回実施	- 中央レベル　4/4=100% - 地方レベル　7/6≥100%
2. 対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する。	- 27GGF 及び４UGGF が新規設置又は再活性化される。 - GGF 及び UGGF が研修で得た技術を活用し、森林管理活動を開始する。	- 27GGF のうち、14 GGF が新設された。なお、13 GGF は既存。 - 2 UGGF が設置されていない。 GGF は自発的に下記の森林管理活動を実施した。 ①苗木生産：ﾌﾞﾇﾅ、ﾀﾞﾝﾄﾞｳｸﾞ、ｳｪﾝｶﾞ、ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾄﾝｶﾞ ②植林：ｼﾞｬﾝｶﾞ、ﾌﾞﾇﾅ、ｽﾊﾞｶ（男女）、ﾌｶﾞﾝｸﾞｴ、ｳﾗﾃﾝｶﾞ、ｳｪﾝｶﾞ、ﾄﾝｶﾞ ③防火線開設：ｼﾞｬﾝｶﾞ、ｶｼﾞｮ、ｸﾞｱﾗ	- GGF の新設　14/14=100% - GGF の再活性化　13/13=100% - UGGF の新設　0/2=0% ①　5/27=19% ②7/27=26% ③3/27=11%
3. 地域住民の生活状況が改善される。	- 対象指定林関連の GGF が木材及び非木材林産物を活用した所得創出活動を開始する。 - GGF が活動に要する資機材等への再投資を行う。	GGF の所得創出活動は以下のとおり。 ①薪生産 ②製炭 ③高品質シアバターの生産 ④近代養蜂 ⑤薬用植物採取 ⑥高品質スンバラ生産 GGF の資機材等への再投資は以下のとおり。 ①高品質カリテバター生産 ②高品質スンバラ生産 ③近代養蜂	①0/27=0% ②2/27=7% ③11/23=48% ④13/13=100% ⑤8/24=33% ⑥7/23=30% ①6/23=26% ②5/23=22% ③1/13=8%

4. 対象とする４つの指定林において、森林整備事業計画(PAG)が順次策定され、開始される。	- 対象指定林毎に１計画、合計４つの PAG が策定される。 - 南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドが作成される。 - 地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアルが少なくとも８種類作成される。 - GGF/UGGF が継続的に少なくとも４種類の森林管理活動の技術を習得し、PAG に則って活動を開始する。	- 4PAG（ドラフト）は３年次に策定される予定である。 - 森林整備方法論ガイド（ドラフト）は３年次に作成される予定である。 - 参加型持続的森林管理実践マニュアル（ドラフト）は３年次に作成される予定である。 - PAG 策定前であるが、実際に３種の管理活動が一部 GGF で実施された。	- 0/4=0% - 0/1=0% - 0/8=0% - 0/4=0%
5. 持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者(地域関係者)と森林行政機関との協力関係がより深まる。	- 地域関係者及び関係省庁関係者との協議会を少なくとも毎年、年３回開催する。 - プロジェクトと州局との間で提携協定が締結される。 - 地域の民間企業との連携関係が構築される。	2007 年：ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（8 月 2 日） 2008 年： 第１回 JCC（2 月 21 日）第１回地域関係者ｾﾐﾅｰ（5 月 28 日） 2009 年：第２回 JCC（2 月 20 日）第２回地域関係者ｾﾐﾅｰ（6 月 19 日）第３回 JCC（7 月 19 日）	- 1/1=100% - 2/3=67% - 3/3=100%

活動	指　標	実　績	実績率
A0.1. 実施済み調査及び類似プロジェクトの成果をレヴューする 。	- 既存資料及び報告書(コピー又はオリジナル)を収集し、検討する	－完了	－100%
A0.2. 地方レベルにプロジェクト事務所を設け、活動実施に必要な人的、物的資源を配置する。	- プロジェクトに事務所を配置する。 - プロジェクトがプロジェクト支援スタッフを5名雇用する。 - プロジェクトに車両、情報機器、事務機器などプロジェクト活動に必要な資機材を配置する。	－完了 －完了 －完了	－100% －100% －100%
A0.3. プロジェクト実施コーディネーション・メカニズムを設置する。	- ナショナルコーディネーター1名を配置する。 - 省令により合同調整委員会を設置し、年2回開催する。	－完了	－100%

活動	指　標	実　績	実績率
A1.1. 能力向上を目的として、中央・地方森林行政機関の技術的、組織的能力現状を評価する。	- 自己評価会を中央レベル１回、地方レベル１回開催する。 - 自己評価会には少なくとも中央レベル 10 人、地方レベル 10 人の森林官が参加する。	– 中央レベル及び地方レベルで各１回実施 – 平均参加者数　11.5 名	– 1/1=100%　（中央・地方） – 11.5/10=115%
A1.2. 森林行政当局に対して参加型森林整備事業計画策定及び実施に係る研修とワークショップを実施する。	- 研修会を中央レベル 2 回、地方レベル 2 回実施する。 - 研修は少なくとも２つのテーマを扱う。 - 研修会には少なくとも中央レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)、地方レベル延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。	– 中央レベルで 3 回、地方レベルで 4 回実施した。 – 中央レベルで 3 回、地方レベルで 4 回実施した。 – 中央レベルで 14+14+12=40 名、地方レベルで 9+9+6+5=29 名参加した。	– 中央レベル　3/2=150%、地方レベル　4/2=200% – 中央レベル　3/2=150% 地方レベル　4/2=200% – 中央レベル 40/20=200% 地方レベル 29/20=145%
A1.3. 森林官向け参加型持続的森林管理技術に係る研修を実施する。	- 研修会を地方レベル 2 回実施する。 - 研修会には少なくとも延べ 20 名(10 名 x 2 回)の森林官が参加する。	– 研修会を 1 回実施した。 – 参加者数　10 名	– 1/2=50% – 10/10=100%
A1.4. 森林官向け参加型持続的森林管理活動のモニタリング・評価に係る研修を実施する。	- 研修会を中央レベル 1 回、地方レベル 1 回実施する。 - 研修会には少なくとも中央レベル 10 名、地方レベル 10 名の森林官が参加する。	– 中央レベルで 1 回、地方レベルで 3 回実施した。 – 中央レベル参加者数　8 名 地方レベル参加者数　12+6+9=27 名	– 中央レベル　1/1=100% 地方レベル　3/1=300% – 中央レベル　8/10=80% 地方レベル 27/10=270%
A1.5. 森林官チーム[1]が定期モニタリング／コントロールを実施する。	- モニタリングは四半期ごとに 1 回、年 4 回実施する。	– 未実施	– 0%

＊1：森林官チームの構成：カスカード州局長、コモエ県局長、森林局森林整備部代表１名及び生態モニタリング・統計局代表１名

活動	指　標	実　績	実績率
A2.1. 既存 GGF 及び UGGF の現在の技術、組織能力を評価する。	- 評価会合が１村あたり１回の割合で 24 回実施される。	－24 村で調査が実施された。タタナ村を除くので協力対象村は 23 村となる。	－24/24=100%
A2.2. プロジェクト関連村落の既存 GGF 及び UGGF の技術、組織能力を強化する。	- 研修会は２回実施する。 - 既存の 13GGF の執行部を刷新する。 - 研修は記録・会計及び計画立案の２つのテーマで行う。	－27GGF に対し「記録と会計」研修を１回、フォローアップ研修を１回 、また 21GGF に対し「計画立案」と「収入管理」を実施した。 －既存の 13GGF において執行部が刷新された。 －2 つのテーマと「収入管理」が実施された。	－2/2=100% －13/13=100% －3/2=150%
A2.3. ４指定林隣接の村落及び村落グループにおいて新規 GGF 及び UGGF の設立を推進する。	- 新規に 14 の GGF、またグァンドゥグ指定林及びコングコ指定林それぞれに UGGF を新設する。	－14 GGF が新規に設立された。しかし、2 UGGF はまだ新設されていない。	－14/14=100% －0/2=0%
A2.4. 森林管理技術(苗畑、植林、野火管理、薪材生産、棒材・工芸品用材、用材生産、製炭、非木材林産物生産など)に係る研修を実施する[2]。	- 研修会は８つのテーマで各 GGF 対象に少なくとも１回実施する（研修回数は延べ 216 回） - 研修会には少なくとも１回 10 人の GGF 会員が参加する（参加者数は延べ 2160 名）	－研修会の 12 テーマで実施された。 記録・会計、 計画立案、 収入管理、 シアバター品質向上、 スンバラ品質向上、 薬用植物付加価値化、 苗木生産と植林、放牧管理、 野火管理、 近代養蜂、伐採、 製炭 －合計研修参加者数は 4,429 名（男性：1,992、女性： 2,437）	－12/8=150% －4429/2160=205%
A2.5. GGF 及び UGGF 向けに林産物の交渉、販売技術に係る研修を実施する。	- 研修は少なくとも１GGF1 回の延べ 27 回実施する。 - 研修会には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名の GGF 会員が参加する。	－この研修は「計画立案」と「収入管理」研修に含まれる。	
A2.6. GGF 及び UGGF 向けにモニタリング・評価に係る研修を実施する。	- 研修は少なくとも１GGF1 回の延べ 27 回実施する。 - 研修には少なくとも 1 回 10 名、延べ 270 名の GGF 会員が参加する。	－この研修は「収入管理」に含まれる。	

＊2： 実施形態は現地コンサルタントへの再委託及び技術機関職員を講師とするプロジェクト直営方式で行う

活動	指　標	実　績	実績率
A3.1. 地域住民の優先社会経済インフラストラクチャー及び施設に関するニーズを調査し、その実現可能性を分析する 。	- 実施可能性記述を含むニーズリストが作成される。	－1 リストが作成された。	－1/1=100%
A3.2. 木材及び非木材資源の活用を目的とする活動を計画し、実施する。	- GGF 会員が挙げた活動の中から、少なくとも 6 種類の活動[1]を計画し、実施する。	選定された活動は以下の 8 つである。 ・薪生産、 製炭、高品質シアバターの生産、薬用植物採取、近代養蜂高品質スンバラ生産、放牧管理（天然牧草の刈取り）、サバの樹実	－8/6=133%
A3.3. 地域住民のために採択された社会経済優先ニーズ充足を目的とする活動を計画し、実施する。	- GGF 会員が挙げたインフラの中から、少なくとも１つのインフラ整備を計画し、実施する。	－選択された社会的インフラは以下の 3 つである。 ・深井戸 ・水源整備 ・GGF の倉庫設置	－3/1=300%

＊3：： 薪生産、木炭生産、シアバター品質向上、薬用植物活用、近代養蜂、スンバラ品質向上

活動	指　標	実　績	実績率
A4.1. 各指定林の整備事業計画を作成する 。	- 指定林ごとに1つのPAG、延べ4つのPAGを作成する。	－PAGのための作成チーム及び業務計画が州レベルで一時的に作られた。	－0/4=0%
A4.2. 策定済み PAG に則って森林管理活動を開始する。	- 2009年10月からPAGの策定を順次開始され、計画に則った具体的な活動が2010年10月から開始される。	－部分的にPAGに係る活動が部分的には既に開始されている。	指標化するのは困難
A4.3. 森林官向けに南スーダン気候帯地域における森林整備方法論ガイドを作成する。	- ガイドが作成される。	－ガイド（ドラフト）はまだ作成開始されていない。	－0/1=0%
A4.4. 参加型森林管理に関する地域住民に適した実践的ガイドを作成する。	- 実践ガイドが少なくとも８種類作成される。	－ガイド（ドラフト）はまだ作成開始されていない。	－0/8=0%

活動	指　標	実　績	実績率
A5.1. 地方行政機関並びに関連部局に本プロジェクトを紹介するためセミナーを開催する 。	- 地域関係者セミナーを年1回、延べ5回開催する。 - 地域関係者セミナーには少なくとも80名が参加する。	－3年次までに地域関係者セミナーが3回、実施された。 －各3セミナーの平均参加者数は100 名である。	－3/5=60% －100/80=125%
A5.2. 技術協議、活動報告書、各種情報伝達経路を通じてプロジェクトに係る意見交換を行い、情報を広める。	- 合同調整委員会は年2回、延べ10回開催する。 - 各種活動報告書は少なくとも29回作成する。 - 《ニュースレター》は12回発行する。 - 研修旅行は3回実施する。	－1年目に第1回JCC、2年目に第2回及び第3回JCCを実施された。 －プロジェクト開始後、プロジェクトチームによって13定期的報告書が作成された。 －現時点までに6回、プロジェクトの為に発行した。 －研修旅行はまだ実施していない。	－3/10=30% －13/29=45% －6/12=50% －0/3=0%
A5.3. コミューン開発計画の森林部門に係る森林官の監理活動を支援する。	- 森林官は少なくとも四半期に1回、年に4回、関連コミューンが作成するコミューン開発計画に含まれる森林セクターの活動監理を行う。	－ティアフォラのコミューンレベルで森林活動に関するモニタリングを実施した。	－1/10=10%

《 投入 》

日本側：

- 専門家
  - チーフアドバイザー
  - 参加型森林管理
  - 業務調整
  - その他：効果的なプロジェクト実施のために必要性に応じて派遣する
- 機材供与
  - 四輪駆動車
  - オフロードバイク
  - 森林管理に必要な機材
  - 住民の生計向上新活動に必要な機材
  - その他の必要な機材
- 本邦研修

ブルキナファソ側：

- プロジェクトの主要なカウンターパート
  - 森林局長
  - カスカード州局長
  - コモエ県局長
  - ナショナル・コーディネーター
  - 森林官
- 支援要員
  - 秘書
  - メッセンジャー
  - 運転手
  - 守衛
- 施設・設備
  - プロジェクト実施に必要な建物（事務所と倉庫）
  - プロジェクト実施のための水道、電気
  - 必要に応じて双方で合意したその他の設備
- 運営管理コスト